

第63図 2009-00・3008-0S平面図・断面図 (S=1/60)



第64図 2009-00出土遺物実測図 (S=1/4)

第33表 2009-00  
出土遺物計量表

器種・器形	破片	重量(g)
須形器 杯	2	5.2
土師器 甕	19	61.4
瓦器 塊	1	1.3
合計	22	67.9

すぎないが、径7.5mの不整形形を呈するものと推測される。遺構検出面からの深さは約0.20mを測り、部分的に一段低くなっている箇所がある。覆土は明黄褐色(10YR6/6)の砂質シルトである。3008-〇Sは、幅約1.80m～3.20m、深さ約0.18mの溝状遺構で、調査区を東西に横断する形で検出された。覆土は炭化物を含む褐色(10YR6/1)の砂混じりシルトで、遺物は含まれていなかった。土坑は、検出状況からこれらの遺構よりも新しいことが確認されている。出土遺物から土坑の時期の上限は7世紀前半と思われる。

出土遺物(第64図、図版42、第33・88表)

覆土中より第64図に図示した遺物の他に、第33表に掲げた遺物が出土した。瓦器残片1点は、調査区断面の包含層中の遺物が混入したものと思われる。

第64図・第33表の遺物はいずれも覆土中より出土した。須恵器坏蓋(第64図1)は、3008-〇Sとの交差する付近から遺構の底面よりやや浮いた状態で出土した。(虎間)

2010-〇〇(第65図、第30表)

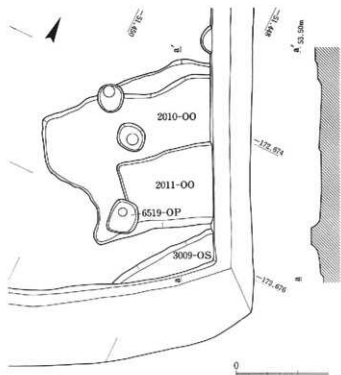
B06SM・SN・TMに位置し、2011-〇〇・6519-〇Pと重複する。西北角の座標はX-172.6752・Y-51.4506である。検出状況では長軸2.74m、短軸2.54mの不整形な長方形を呈するが、その東側は調査区外に延びている。遺構検出面からの深さは0.04mを測り、覆土は上下2層からなる。上層はにぶい黄褐色(10YR6/4)砂質シルト、下層はにぶい黄褐色(10YR5/5)の砂質シルトである。2011-〇〇・6519-〇Pと重複関係は、検出状況から両者よりも先行することが確認されている。出土遺物からは時期を特定しがたいが、重複する6519-〇P出土の遺物が示す7世紀後半よりも古いものと思われる。

出土遺物(第66図3、図版118、第34・89表)

覆土中より第66図3に図示した遺物の他に、第34表に掲げた遺物が出土した。須恵器壺(第66図3)の肩部外面には3条の沈線からなるヘラ記号が刻まれている。(虎間)

2011-〇〇(第65図、第30表)

B06SM・SNに位置し、2010-〇〇・6519-〇Pと重複する。西端角の座標X-172.6754・Y-51.4492である。検出状況では長軸1.50m、短軸1.25mの長方形を呈するが、その東側は調査区外に延びている。遺構検出面からの深さは0.07mを測り、覆土は上下2層からなる。いずれも炭化物を含んだ褐色(10YR4/1)砂混じりシルトである。土坑は検出状況から2010-〇〇よりも新しく、6519-〇Pよりも先行することが確認されている。出土遺物からは時期を特定しがたいが、2010-〇〇と同様に重複する6519-〇P出土遺物が示す時期よりも古いものと思われる。



第65図 2010・2011-OO, 6519-OP平面図・断面図 (S=1/60)

第34表 2010-OO  
出土遺物計量表

器種・器形	破片	重量(g)
須臾器 坏	1	18.8

第35表 2011-OO  
出土遺物計量表

器種・器形	破片	重量(g)
坏	2	4.3
須臾器 壺	2	36.1
小計	4	40.4
土師器 須臾器	多	31.8
合計	4 + α	72.2

第36表 6519-OP  
出土遺物計量表

器種・器形	破片	重量(g)
須臾器 須臾器	1	10.6



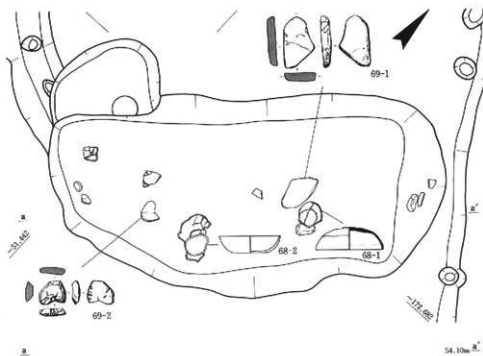
第66図 2010・2011-OO, 6519-OP出土遺物実測図 (S=1/4)  
(1: 2011-OO, 2・4: 6519-OP, 3: 2010-OO)

出土遺物 (第66図, 第35・90表)

覆土中より第66図1に図示した遺物の他に、第35表に掲げた遺物が出土した。第66図1は土師器壺の把手の部分である。 (虎間)

2012-OO (第67図, 図版22, 第30表)

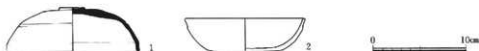
B11UOに位置し、0002-OD・0003-OD・6559-OPと重複する。中心座標はX-



土層説明

1層：褐色(10YR4/4)壤面ヒラシト

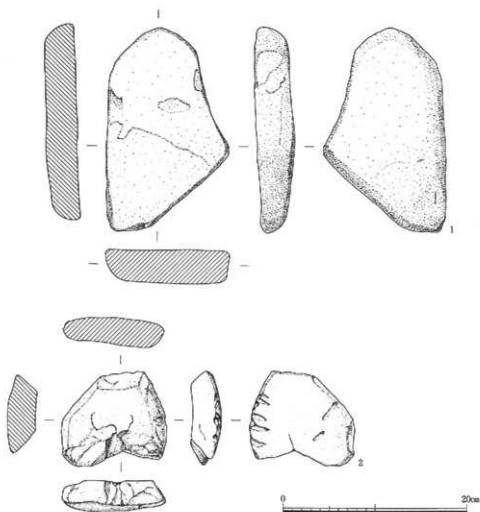
第67図 2012-〇〇平面図・土層断面図・遺物出土状態図 (S=1/20)



第68図 2012-〇〇出土遺物実測図1 (S=1/4)

第37表 2012-〇〇出土遺物計量表

器種・器形	須恵器			土師器			合計
	杯	壺	小計	杯	壺	小計	
破片数	3(11)	27	30	8	24	32	62
重量(g)	16.5	157.3	173.8	80.3	77.6	157.9	331.7

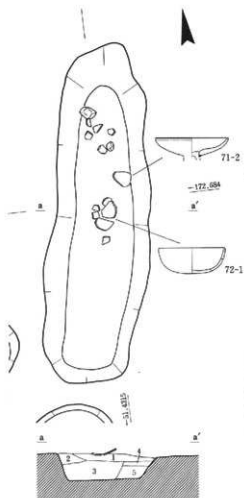


第69図 2012-〇〇出土遺物実測図2 (S=1/4)

172.6822・Y-51.4413である。長軸2.17m・短軸1.07mの隅円長方形を呈し、遺構検出面からの深さは0.14mを測る。主軸方向はN-46°-Eである。覆土は褐色(10YR4/4)の礫混じりシルトである。0002-〇Dの床面精査の際に確認されたことと、0003-〇Dを切って構築されているという調査時の所見によって、0003-〇D→2012-〇〇→0002-〇Dという新旧関係が考えられる。出土遺物から土坑の時期は6世紀後半と考えられる。

出土遺物(第68・69図, 図版43・110, 第37・91表)

覆土中より第68・69図に図示した遺物の他に、第37表に掲げた遺物が出土した。床面直上出土の遺物はない。



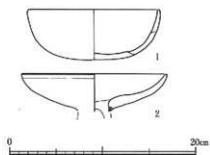
土層説明

- 1層：黄褐色(10YR5/6)砂質シルト(炭化物・焼土粒を含む)。  
 2層：にぶい黄褐色(10YR6/4)砂質シルト。  
 3層：にぶい黄褐色(10YR6/3)礫混じりシルト。  
 4層：灰黄褐色(10YR6/2)砂質シルト。  
 5層：褐色(7.5YR6/6)砂礫混じりシルト。

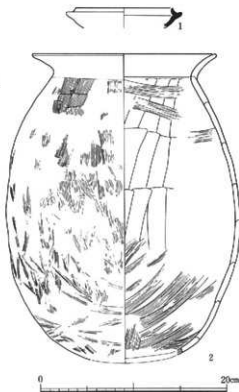
第70図 2013-〇〇平面図・土層断面図  
・遺物出土状況図 (S=1/20)

第38表 2013-〇〇  
出土遺物計量表

土器種	破片	重量(g)
杯	3	16.7
甕	7(口)	60.8
合計	10	77.5
土製品	1	84.3



第71図 2013-〇〇出土遺物実測図 (S=1/4)

第72図 2015-〇〇出土遺物実測図1  
(S=1/4)

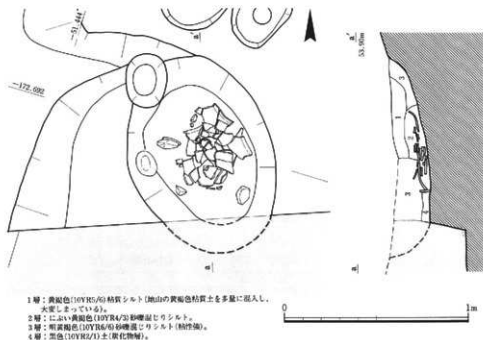
第39表 2015-〇〇出土遺物計量表

須恵器			土器器		
器種	破片	重量(g)	器種	破片	重量(g)
杯	2(口)	19.9	甕	8	68.0
甕or甕	2	8.3	不明	1	0.7
甕or甕	1	53.1			
小計	5	81.3	小計	9	68.7
					合計
					破片
					重量(g)
					14
					150.0

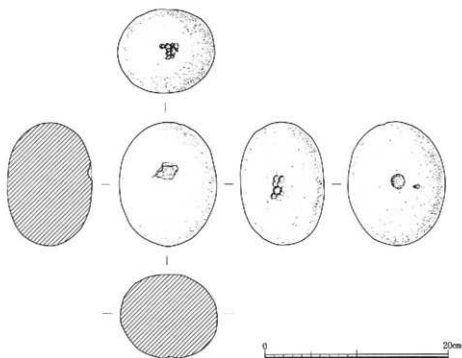
第68図1は、土坑中央部やや西寄りの南壁近くより、2は土坑中央部やや東寄りより、いずれも口縁部を上に向けた状態で出土した。また、須恵器蓋（第68図1）の下からは土師器甕の胴部破片が出土したが、これは破片を置き台に転用したものらしい。第69図1は土師器坏（第68図2）の北隣で平端面を上に向け、ほぼ水平に置かれた状態で出土した。明瞭な使用痕は認められないが、出土状態から推して何らかの用途で使用されたものと思われる。砂岩。1568.9gを量る。第69図2は須恵器蓋の西隣から出土した。片面の平端面側縁部に断面V字形の磨痕を複数有する。砂岩。465.81gを量る。

2013-OO（第70図、第30表）

B06UR・VRに位置し、中心座標はX-172.6841・Y-51.4315である。長軸1.88m、短軸0.56mの長楕円形を呈し、遺構検出面からの深さは0.15mを測る。主軸方向はN-10°-Eである。覆土は基本的には上層が炭化物や焼土を含む黄褐色（10YR5/6）砂質シルト、下層は橙色（7.5YR6/6）の礫混じりシルトである。検出当初、壁面に火を受けた痕跡が認められたことや埋土の状況、遺構の形態などから竪穴住居跡の竈を想定して精査を行ったが、住居跡の壁や柱穴などは検出されなかった。出土遺物から7世紀前半の所産と考えられる。なお、西側に隣接する1008-OBの桁行と土坑の主軸方向が平行すること



第73図 2013-OO平面図・土層断面図（S=1/20）



第74図 2015-OO出土遺物実測図2 (S=1/4)

や、両者が同時期の遺構である可能性が考えられることなどから、この土坑は1008-OBに付属する施設(例えば、外竈)として存在した可能性が高い。

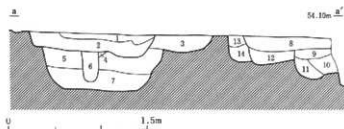
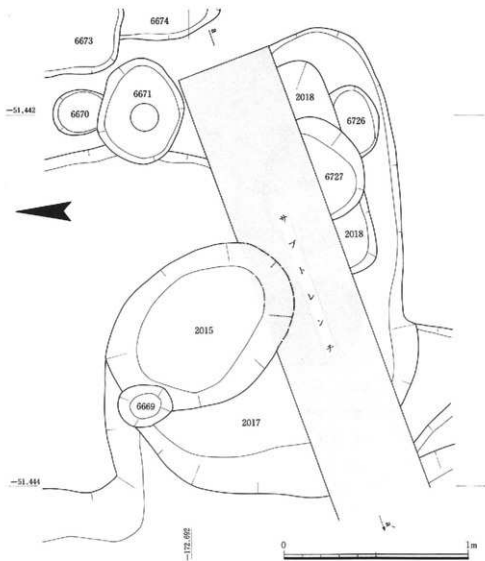
出土遺物(第71図, 図版43, 第38・92表)

覆土中より第71図1・2に図示した遺物の他に、第38表に掲げた遺物が出土した。遺物は、いずれも土坑中央から北寄りの覆土上層中より出土した。(虎間)

2015-OO(第73図, 図版23, 第30表)

B06WO・XOに位置し、1773-OO・6669-OPと重複する。中心座標はX-172.6921・Y-51.4431である。長軸1.10m・短軸0.81mの楕円形を呈する土坑で、遺構検出面からの深さは0.21mを測る。主軸方向はN-40°-Wである。覆土は4層からなる。1層は黄褐色(10YR5/6)粘質シルトで地山の黄褐色粘質土を多量に混入し、大変しまっていた。このため、地山との区別がほとんどつかず、遺構検出面で正確なプランを確認することができなかった。そこで、サブトレンチを設けて断面観察を行いながら土坑の輪郭を確認した。その際、土坑の南端部は結果的に載ち割ってしまった。2017-OOとの重複関係は、どちらも遺構検出面で正確なプランを確認できなかったため俄に決しがたいが、





第75図 2017-〇〇平面図 (S=1/20)・土層断面図 (S=1/40)

第76図 2017-〇〇出土遺物実測図 (S=1/4)

2017-〇〇の方が新しい可能性がある。2層・3層は土坑中央より出土した土師器の甕形土器を被覆しており、4層には炭化物が多量に含まれていたため、一見住居跡に付属する竈の様にも思われた。しかし、周囲には住居跡の痕跡が全く認められなかったので土坑と判断した。出土遺物から土坑の時期は、6世紀後半から7世紀初頭と考えられる。

出土遺物(第72・74図, 図版43・110, 第39・93表)

第72図1・2、第74図1に図示した遺物の他に、覆土中より第39表に掲げた遺物が出土した。

第72図1は覆土中よりの出土である。2は土坑中央の底面より出土した。本末口縁部を北に向けて坑底に横たわっていたものが、土圧により潰れたものと思われる。底部破片が全く存在しなかったため、底部穿孔の可能性も考えられる。第74図1は土坑西端の底面より出土した。砂岩の自然石の平端面および側縁部に使用痕が認められた。おそらく、敲石として用いられたものであろう。1768.0gを測る。また、覆土中より鉄洋1点が出土している(図版111)。134.07gを測る。

2017-〇〇(第75図, 第30表)

B06WO・XOに位置し2015-〇〇・2018-〇〇・6726-OP・6727-OPと重複する。中心座標はX-172.6924・Y-51.4428である。長軸2.59m・短軸1.70mの不整形を呈する土坑で、遺構検出面からの深さは0.18mを測る。覆土は灰黄褐色(10YR5/2)砂質シルトの1層(第75図の第3層)からなる。サブレンチによって土坑中央は截ち割ってしまった。その土層断面観察によれば、2018-〇〇・6726-OP・6727-OPはこの土坑よりも新しい。また、前述のように2015-〇〇はこの土坑よりも古いようである。出土遺物から土坑の時期は、6世紀後半から7世紀初頭と考えられる。

なお、截ち割りの際に、2017-〇〇の下に断面で約1.30mの柱掘方をもつ柱穴が確認された。断面図でも明らかなように、この柱穴には明瞭な柱痕跡が検出されている。しかし、この柱穴と他の柱穴を結んで建物想定するには至らなかった。

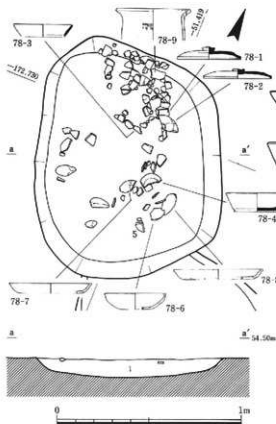
第40表 2017-〇〇  
出土遺物計量表

器種・器形	破片	重量(g)
須恵器	坏	8 96.9
	壺or甕	3 96.5
	小計	11 193.4
土師器	坏	7 14.9
	高坏	1 9.4
	甕	16 143.0
	不明	3 7.5
小計	27 174.8	
合	計	38 370.2

2017-〇〇土層説明(第75図)

- 1層: にぶい黄褐色(10Y R5/3) 砂質シルト。
- 2層: にぶい黄褐色(10Y R5/3) 砂質シルト。
- 3層: 灰黄褐色(10Y R5/2) 砂質シルト。
- 4層: にぶい黄褐色(10Y R5/3) 砂質シルト  
(明黄褐色 10Y R6/6 砂質シルトを含む)。
- 5層: 明黄褐色(10Y R6/6) 砂質シルト。
- 6層: にぶい黄褐色(10Y R5/4) 砂質シルト。
- 7層: にぶい黄褐色(10Y R6/4) 砂質シルト。

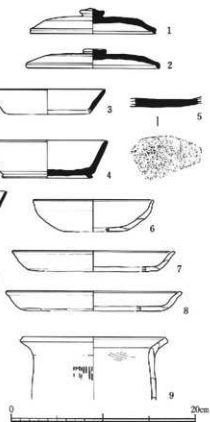
- 8層: にぶい黄褐色(10Y R5/3) 砂質シルト。
- 9層: にぶい黄褐色(10Y R5/4) 砂質シルト。
- 10層: 黄褐色(10Y R5/6) 砂質シルト。
- 11層: 褐色(10Y R4/4) 砂質シルト。
- 12層: にぶい黄褐色(10Y R5/3) 砂質シルト  
(明黄褐色 10Y R6/6 砂質シルトのプロックを含む)。
- 13層: 暗灰色(10Y R6/1) 砂質シルト。
- 14層: にぶい黄褐色(10Y R6/3) 砂質シルト。



土層説明

1層: 褐色(10YR4/4)粘質シルト

第77図 2022-〇〇平面図・土層断面図  
・遺物出土状況図 (S=1/20)



第78図 2022-〇〇出土遺物実測図  
(S=1/4)

第41表 2022-〇〇出土遺物計量表

器種・器形	須 恵 器							土 師 器					合計
	坏	坏蓋	壺	壺or甕	甕	不明	小計	坏	高坏	奩	不明	小計	
破片数	23(117)	4	1(11)	6	1	4	39	48(17)	1(脚)	26	27	102	141
重量(g)	120.6	14.2	16.6	84.3	9.1	3.6	248.4	220.8	5.7	161.3	25.9	413.7	662.1

出土遺物 (第76図, 第40・94表)

覆土中より第76図1に図示した遺物の他に、第40表に掲げた遺物が出土した。

2022-〇〇 (第77図, 図版22, 第30表)

B11HUに位置し、5041-〇X・5059-〇Xと重複する。中心座標はX-172.7302・Y-51.4191である。長軸1.32m・短軸1.03mの隅円方形を呈する土坑で、遺構検出面からの深さは0.10mを測る。覆土は褐色(10YR4/4)シルトの1層からなる。壁面の立ち上がりは緩やかで皿状を呈する。土坑は5041-〇Xよりも新しいが、5059-〇Xとの新旧関係

は確認することができなかった。出土遺物から土坑の時期は8世紀中葉と思われる。

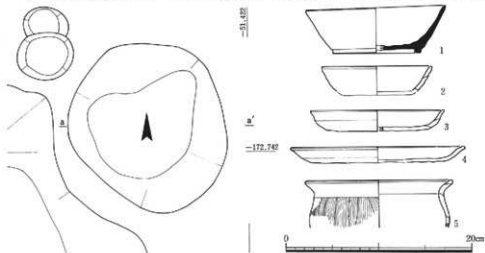
出土遺物(第78図, 図版43・44, 第41・72・95表)

第78図1～9に図示した遺物の他に、第41・72表に掲げた遺物が出土した。遺物の大半は土坑底面より出土した。

第79図1・2の須恵器杯蓋は底面に伏せた状態で出土した。いずれも完形に近い。その他の遺物も本来は完形であったものと思われるが、遺構の削平が激しいために遺存状態は良好とは言えない。5の須恵器杯底部外面には3条から成るヘラ記号が刻まれている。なお、これらの遺物とともに土坑北側底面より210片(含口縁部23片)・約1kgの製塩土器が出土している(第72表)。

2023-〇〇(第79図, 第30表)

B11KTに位置し、5041-〇Xと重複する。中心座標はX-172.7419・Y-51.4225で



第80図 2023-〇〇出土遺物実測図(S=1/4)



第79図 2023-〇〇平面図・断面図(S=1/40)

第42表 2023-〇〇  
出土遺物計量表

器種・器形	破片数	重量(g)	
須恵器	杯	11(口1台)	127.3
	杯蓋	1	20.4
	壺or甕	1	73.0
	小計	13	220.7
土師器	杯	14(台1)	77.4
	壺	25(口1)	348.5
小計	39	425.9	
合計	52	646.6	

ある。径0.86mの不整形形を呈する土坑で、遺構検出面からの深さは0.30mを測る。覆土は黒褐色（10YR2/3）シルトの1層からなり、炭化物を多く含んでいた。5041-OXの覆土を掘り上げた時点で確認されており、それよりは古い。出土遺物より土坑の時期は8世紀中葉以降と思われる。

出土遺物（第80図、図版44、第42・96表）

覆土中より第80図1～5に図示した遺物の他に、第42表に掲げた遺物が出土した。また、



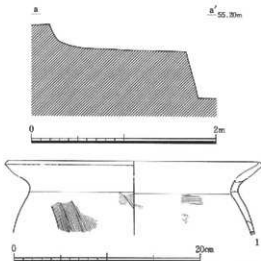
図示していないが、覆土中層より大型の河原石が出土している。

2024-OO（第81図、第30表）

B12TBに位置し、西北角の座標はX-172.7776・Y-51.3955である。遺構の東辺部を排水溝掘削時に飛ばしてしまったため、正確な規模は明らかにはできないが、径2.10mの不整形形を呈する土坑と思われる。遺構検出面からの深さは0.05mを測る。覆土は灰黄褐色（10YR4/2）シルトの1層からなる。出土遺物から、土坑の時期は8世紀代と思われる。

出土遺物（第81図、第43・97表）

覆土中より第81図に図示した遺物の他に、第43表に掲げた遺物が出土した。



第81図 2024-OO平面図・断面図（S=1/40），  
出土遺物実測図（S=1/4）

第43表 2024-OO  
出土遺物計量表

器種・器形	破片数	重量(g)
須恵器	坏	8 35.6
	壺or甕	3 33.3
	小計	11 68.9
土師器	坏	21 53.2
	壺	12 97.5
小計	33 150.7	
合計	44	219.6

## 第4節 溝状遺構（OS）

## 概要

今回の調査によって検出された溝状遺構の総数は53である。しかし、出土遺物や他の遺構との重複関係の検討などによって時期を推定できたものは半数強の29であった。これらの中には、3001・3017～3020・3028—OSのような竪穴住居の壁溝も含まれている。また、第44表で時期不明としたものの中には、3042～3045・3047～3049—OS等の中世系掘溝と考えられるものや、3010～3016・3050・3051—OSのように限りなく近・現代に近い耕作痕跡の溝と考えられるものもある。それらを除外すれば、溝の時期は6世紀後半から7世紀代・8世紀代・9世紀以降の大きく三時期に分かれるようである。

溝の規模は後世の削平を受けていることと、調査区外に延びるものが多いため正確に把握することができない。このため第44表では計測値を省略したが、遺構検出面で幅1.50m前後、深さ0.50m程度のもは概ね6世紀後半から7世紀代の所産と考えられる。おそらく、その時期の集落構成の中で何らかの役割を果たした遺構と考えられる。なかでも、後述するように、3033—OSは規模が大きく、この集落とその周辺の開発に欠くことのできない溝であった可能性が高い。8世紀代の溝は前代に比べ少ないが、3034—OSのように大規模なものが存在することが注目される。この溝の南側には、当該期の建物の空白地帯が存在しており、この溝が集落の南を画する溝であったことは十分考えられる。9世紀以降の溝は、水込遺跡における集落の中心が他の場所に移動したのちに形成されたものと考えられるが、これらの中には、山直谷に施行された条里の方向に一致するものはない。

溝状遺構について特筆すべき点は、覆土内に大量の遺物が包含されていたということである。とくに、3033・3034—OS出土遺物は、今回報告する全遺物の80%以上を占めている。しかも、それぞれが当該地域の基準資料になりうるという点で重要である。また、3034—OSから出土した9点の墨書土器は、この遺跡の性格を考える上で示唆に富んでいるといえよう。もうひとつ、遺物の出土状態についても興味深い点がある。それは、7世紀代の須恵器の大甕が、極めて意図的な投棄のされ方をしているということである。3022・3027・3033—OSにおいて確認されたが、それはおそらく溝に対する祭祀行為の結果と考えられるのが妥当であろう。

なお、第44表に掲載した出土遺物の重量は、後述の遺物実測図を省いた未掲載遺物の重量である。

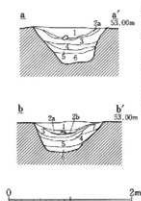
第44表 溝一覽表

遺構No.	日付	時 期	出 土 遺 物
3001	1300	6 C後半?	
3002	1148	不 明	
3003	1003	7 C以降	
3004	1105	不 明	
3005	1002	7 C前半以降	須恵器・土師器、計76.0g
3006	1001	7 C前半	第84図1・2、第45表
3007	1034	6C後半~7C初頭	第86図1~4、第46表
3008	1880	7 C前半以前	
3009	1656	6C後半~7C初頭?	
3010	1605	不 明	
3011	1603	#	
3012	1592	#	
3013	1586	#	
3014	1589	8 C以降	須恵器 22.0g
3015	1573	不 明	
3016	1564	#	
3017	1983	6 C後半	
3018	1937	#	
3019	1936	#	
3020	1848	6C後半~7C初頭	
3021	1764	6C後半~7C初頭	第88図1~8、第47表
3022	1488	7 C前半	第89図1、第91図1~8、第48表
3023	1737	不 明	
3024	1829	7 C前半以前	
3025	1453	不 明	
3026	1352	7 C前半以前	
3027	1312	7 C中葉以前	
3028	1954	6 C後半?	
3029	141	8 C?	
3030	133	8 C	第100図1、第50・72表
3031	128	9 C以降	第100図5
3032	123	8 C	第100図2~4、第51・72表
3033	03	7 C	第100図1~5、A~E、第52・72表

3034	10	8 C	第101~104 図1~107、第4・5・72表
3035	595	不 明	
3036	597	#	
3037	596	#	
3038	06	13C以降	第145 図2、第56表
3039	329	?	
3040	05	13C以前	第145図3、第56・72表
3041	07	8 C以降	須恵器・土師器、計66.2g
3042	609	不 明	
3043		#	
3044		#	
3045		#	
3046	08	8 C前半	第145 図1、第56表
3047		不 明	
3048		#	
3049		#	
3050	440	#	
3051	439	#	
3052	130	8C後半~9C初頭	第145図4、第56・72表
3053	2001	7 C前半	第145 図5、第56表

3006-OS (第82・83図, 図版24, 第44表)

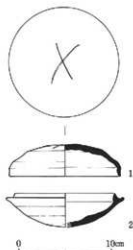
B06GHからGLにかけて東西に走る溝状遺構である。東端部の座標はX-172.6278・Y-51.4523で、西側は調査区外へ延びる。長さ18m以上、上幅1.20m、下幅0.50mで、断面は逆台形を呈する。遺構検出面からの深さは0.55mで、覆土は7層よりなり、2層と3層の間には薄い炭化物層がある。この層の堆積は極めて薄いものであるが、やや厚みのあ



第83図 3006-OS土層断面図 (S=1/60)

土層説明

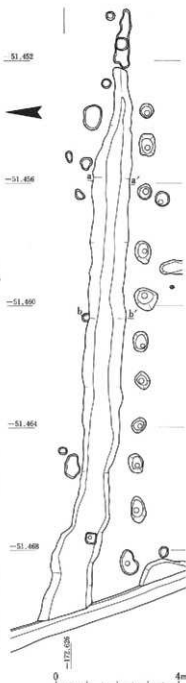
- 1層: 褐色(10YR4/4)砂礫混セリシルト。
- 2a層: 明黄色(10YR6/6)砂質シルト。
- 2b層: 粘り強。
- 2c層: 炭化物層。
- 3層: 黄灰色(2.5Y5/1)粘質シルト。
- 4層: 灰黄色(2.5Y6/2)礫混セリ粘質シルト。
- 5層: 灰黄色(10YR2/2)礫混セリ粘質シルト。
- 6層: 暗緑灰色(7.5GY7/1)礫層。
- 7層: 濃い黄褐色(10YR5/4)砂質シルト。



第84図 3006-OS出土遺物実測図 (S=1/4)

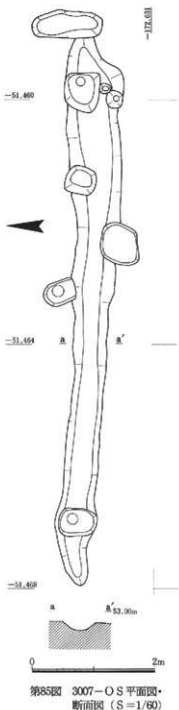
第45表 3006-OS  
出土遺物計量表

器種・器形	破片数	重量(g)
須 器		
杯	14(口3)	232.5
杯蓋	16(口1)	29.6
高杯	1	34.7
壺or甕	21	1404.8
壺	3(底2)	118.3
鉢	1(底)	68.7
小計	50	1888.6
上 部 器		
杯	3	4.5
壺	5	17.7
不明	16	23.0
小計	24	45.2
合 計	74	1933.8



第82図 3006-OS平面図 (S=1/120)





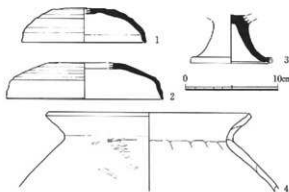
る部分については2層として分層した。溝底は東端から舟底状に落ち込んだ後、西側へ緩やかに傾斜している。溝の南側には、1005-OB等の柱列が並ぶ。出土遺物から、溝の時期は6世紀後半から7世紀初頭と考えられる。

出土遺物 (第84図, 図版24・44, 第45・98表)

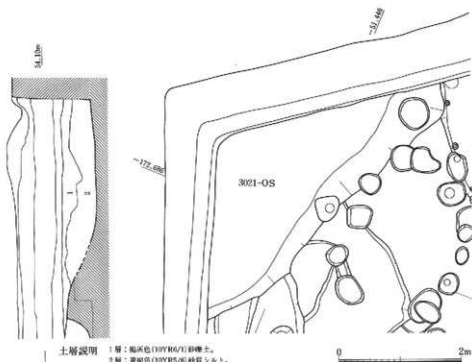
第84図に示した遺物の他に、第45表に掲げた遺物が出土している。第45表に掲げた遺物の大半は第2層中より出土している。第45表の須恵器甕は同一個体の体部破片が散乱した状態で出土した。口縁部・底部はない。第84図1の須恵器坏蓋頂部には、2条の沈線からなるヘラ記号が刻まれている。

3007-OS (第85図, 第44表)

B06HIからHJにかけて東西に走る溝状遺構で、1005-OB・2006-OOと重複する。東端部の座標はX-172.6300・Y-51.4590、西端部の座標はX-172.6298・Y-51.4680である。長さ約9m。上幅0.86m、下幅0.50mで、断面は逆台形を呈する。遺構



器種・器形	破片数	重量(g)
須恵器		
甕or甗	1	21.4
壺	1	18.4
合計	2	39.8



第87図 3021-OS平面図・土層断面図 (S=1/60)

検出面からの深さは0.18mで、覆土は褐色(10YR4/4)砂質シルトの1層よりなる。前述したように、1005-OB・2006-OOよりも古い。出土遺物から、溝の時期は6世紀後半から7世紀初頭と考えられる。

出土遺物(第86図, 図版44, 第46・99表)

第86図に示した遺物の他に、第46表に掲げた遺物が出土している。第46表に掲げた遺物は覆土中より出土した。

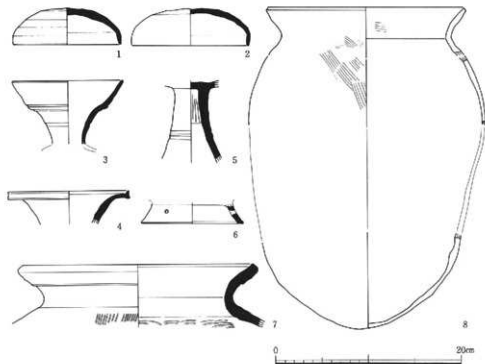
3021-OS(第87図, 第44表)

B06UN・VNで検出された溝状遺構である。3022-OSと重複する。溝の南側の肩の部分が検出されたのみで大半は調査区外である。ことによると、未調査地区の里道を挟んで北側のB06SM・TM・TNで検出された3009-OSが、この溝の北側の肩になる可能性もある(付図1参照)。溝の正確な規模は不明であるが、調査区内における遺構検出面からの深さは0.50mを測る。覆土は2層よりなり、上層は荒い砂層である。調査時点では、3022-OSとの新旧関係を正確に把握することができなかったが、出土遺物から推して3021-OSの方が古いと判断した。出土遺物から、溝の時期は6世紀後半から7世紀初頭

と考えられる。

出土遺物（第88図，図版44・45，第47・100表）

第88図に示した遺物の他に、第47表に掲げた遺物が出土している。全ての遺物が砂層中より出土した。ただし、この部分の調査は常に湧水に悩まされながら行われていたため、3022-OSの遺物が混ざっている可能性もある。とくに、8は排水溝掘削時に検出され、なおかつ二つの遺構の境より出土したため、どちらの遺構に帰属するのかわきわめて微妙である。なお、この土師器甕は口縁部を上に向けて潰れた状態で出土した（第90図）。出土当初はほぼ1個体分の破片が存在したが、土器が脆く辛うじて口縁部と底部を復元するのみにとどまった。3は須恵器の口頸部破片と思われるが、器壁がやや薄い。4は須恵器



第88図 3021-OS出土遺物実測図（S=1/4）

第47表 3021-OS出土遺物計量表（上段：破片数，下段：重量・g）

須 恵 器					土 師 器			合計
坏	甕	甕	甕or甕	小計	坏	甕	小計	
8(底1)	2(底1)	21	19	50	2	23	25	75
104.8	52.1	407.2	430.4	994.5	6.3	294.0	300.3	1294.8

壺口縁として図化した。高坏脚部の可能性もある。6は須恵器壺の高台部と思われるが、径4mmの穿孔が3孔存在する(残存するのは2孔のみ)。

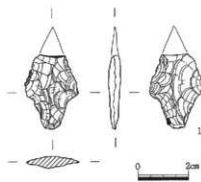
3022-OS (第90図, 付図1, 図版25・27・38, 第44表)

B06VNからB11A0にかけてはしる溝状遺構である。3021-OS・3024-OS・3026-OS・3027-OS・3054-OSと重複する。長さ23m以上。上幅約0.70m、下幅約0.50mで、断面はU字形を呈する。遺構検出面からの深さは約0.20mで、覆土は基本的に黄褐色(10YR5/6)微砂礫層の1層よりなる。溝は3024-OS・3026-OSより古く、3021-OSも新しい。なお、3027-OSとの新旧関係は明確ではないが、それよりも若干先行するようだ。出土遺物から、溝の時期は6世紀末から7世紀前半と考えられる。

出土遺物 (第89・91図, 図版45・119, 第48・101表)

第89・91図に示した遺物の他に、第48表に掲げた遺物が出土している。

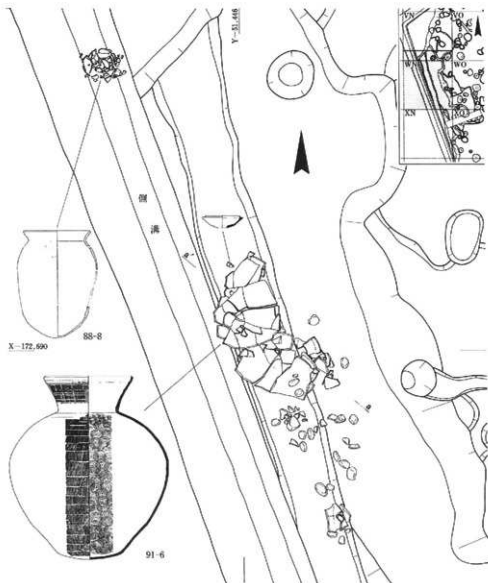
第91図6は溝底より横倒しにされた状態で出土した。口頸部はほぼ円形であったが、肩部から底部にかけて約1/2近くが切り取られたような状態で欠失していた。出土状態を検討すると、この欠失部を溝底に据えていたようだ。当時はあたかも巨大な横瓶が溝に据えられているように見えたであろう。壺の大きさ等を考慮すれば、土器棺または祭祀に用いられた遺物と考えられる。その他の遺物の大半も大壺の周辺より出土しているが、完形品は1点もない。また、B06XNよりサヌカイト製の石鎌1点が出土している(図版119)。現存長3.0cm・幅2.2cm・厚さ0.5cmで先端部を欠損する。重量は2.63gである。凸基式の石鎌と考えられるが、作りは雑である。



第89図 3022-OS出土石鎌実測図 (S=2/3)

3027-OS (第92~96図, 図版26~28, 第44表)

B11ATからB11C0にかけて東西にはしる溝状遺構である。3022-OS・1014-OB・1015-OBと重複する。これらの遺構との重複関係は、1015-OBよりも古く、1014-OBよりも新しい。3022-OSとの関係は前述のとおりである。本来1本の溝であったものが後世の削平によって3本に分断されたものらしく、便宜的に東から3027-a-OS・3027-b-OS・3027-c-OSと呼称する。溝は西に向かって傾斜している。1987年度の調査の際には調査区東側断面において3027-a-OSの浅い落ち込みを確認できたのだ



第48表 3022-O S  
出土遺物計量表

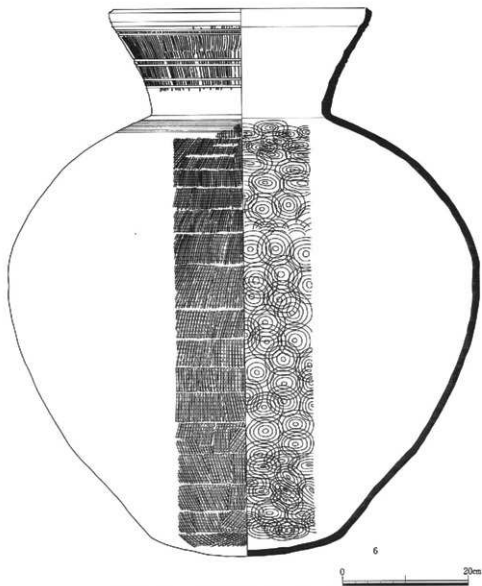
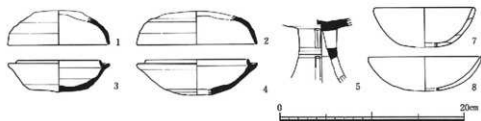
器種・器形	破片数	重量(g)
杯蓋	2	13.5
壺or甕	2	65.1
甕	6	106.5
小計	10	185.1
壺	1	19.3
不明	1	3.3
小計	2	22.6
合計	12	207.7



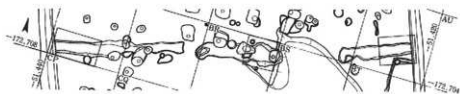
土層説明

- 1層：黄褐色(10YR5/6)微砂礫層。 3層：明黄褐色(10YR6/5)粘質シルト。  
2層：灰黄褐色(10YR5/2)微砂礫層。 4層：黄褐色(10YR5/6)砂質シルト。

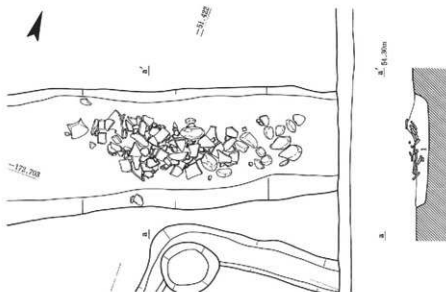
第90図 3022-O S 遺物出土状態図・土層断面図 (S=1/30)



第91圖 3022-O S 出土遺物実測図 (S=1/4・1/6)



第92図 3027-O S遺物出土状態図位置図 (S=1/200)



第93図 3027-a-O S遺物出土状態図・土層断面図 (S=1/20)

3027-a-O S土層説明 (第93図)

1層: 褐色色 (10Y R6/1) 砂質シルト。

3027-b-O S土層説明 (第94図)

1層: 褐色色 (10Y R6/1) 砂質シルト。

2層: 明黄褐色 (10Y R6/6) 粘質シルト。

3層: 褐色 (10Y R4/6) 砂質シルト。

4層: 黄灰色 (2.5Y 6/1) 砂礫混じりシルト。

3027-c-O S土層説明 (第96図)

1層: にぶい黄褐色 (10Y R6/2) 砂質シルト。

2層: 明黄褐色 (10Y R6/6) 礫混じりシルト。

3層: にぶい黄褐色 (10Y R5/4) 砂質シルト。

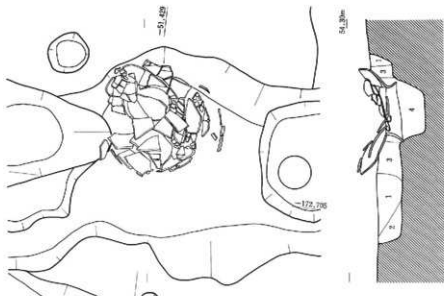
4層: 灰黄褐色 (10Y R5/2) 砂質シルト。

が、0005-O D同様に1988年度の探壁調査の際には検出することができなかった。おそらく東に向かうにしたがって溝はより一層浅くなっていたものと思われる。遺存状態の良い3027-c-O Sの規模は、上幅0.73m、下幅0.55mで、遺構検出面からの深さは0.37mである。断面はU字形を呈する。覆土は4層からなる。出土遺物からこの溝の時期の上限は7世紀初頭と考えられる。

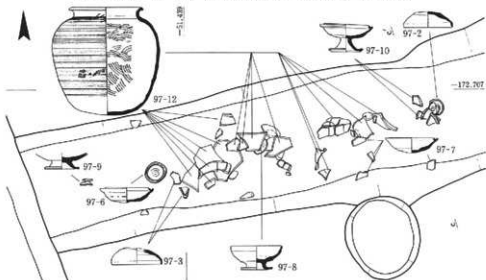
出土遺物 (第97・98図, 図版46・47, 第49・102表)

第97・98図に示した遺物の他に、第49表に掲げた遺物が出土している。

3027-a-O S出土の須恵器甕 (第97図13) は、こなごなに破砕された破片が溝底に敷き詰められた状態で出土した。溝は後世の削平が著しいため破片の多くは現位置から移動・



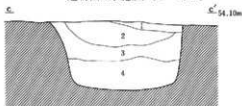
第94図 3027-b-OS 遺物出土状態図・土層断面図 (S=1/20)



第95図 3027-c-OS 遺物出土状態図 (S=1/20)

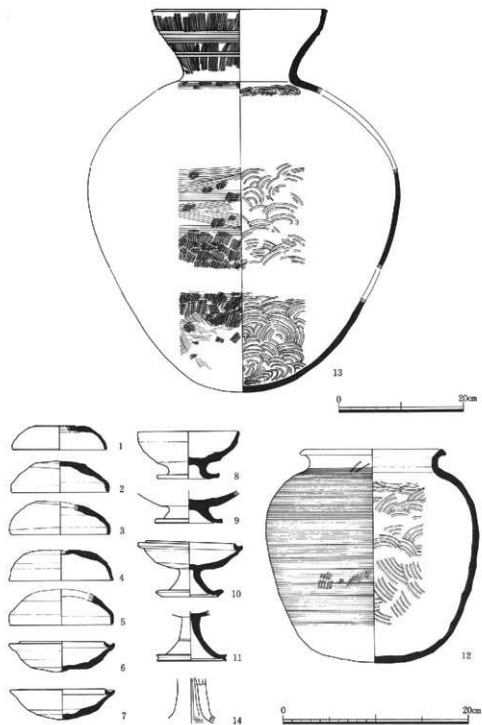
第49表 3027-OS 出土遺物計量表  
(各器種上段破片数, 下段重量g)

		須 恵 器							
杯	壺	甕 <small>or</small> 甕	壺	甌	不明	小計			
11(口)	1	8	2	1(口)	4	27			
70.8	8.8	219.0	40.0	6.8	6.8	352.2	合計		
							瓦器		
杯	高杯	甕	鍋	不明	小計	塚	464.9		
4	1	4	1	3	13	1			
37.0	26.0	24.7	14.7	9.8	112.2	0.5			

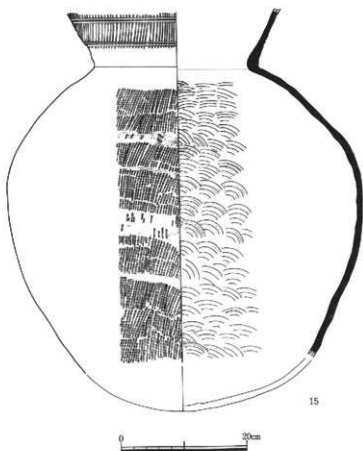


第96図 3027-c-OS 土層断面図 (S=1/20)



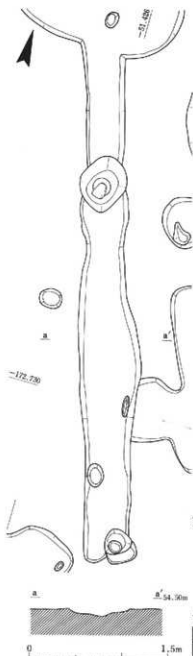


第97図 3027-O S出土遺物実測図1 (S=1/6・1/4)



第98図 3027-O S出土遺物実測図2 (S=1/6)

散逸してしまったらしく、復元作業は困難をきわめた。したがって、実測図の器形には若干の修正が必要かもしれない。3027-b-O S出土の須恵器甕（第98図15）は、口縁部を伏せ、倒立した状態で出土した（第94図、図版28）。口縁部は打ち欠かれていた。底部破片も見当たらないが、当初から底部が穿孔されていたのか、後世の削平による欠損なのかは不明である。3027-c-O S出土遺物は須恵器坏・高坏が主体を占めている。第97図12の須恵器壺の頸部には2条の沈線からなるヘラ記号が刻まれている。供獻土器だけが溝に一括投棄された状態で出土していることから（第95図、図版26）、この周辺で何らかの祭祀が行われた可能性が考えられる。



第99図 3030-OS平面図・断面図 (S=1/40)

3030-OS (第99図, 第44表)

B11GS・HSを南北にはしる溝状遺構である。1023-OB・5041-OX・5050-OX・5057-OXと重複する。1023-OB・5041-OXよりは古い。長さ5.70m以上。上幅0.53m、下幅0.39mで、遺構検出面からの深さは0.04mである。断面は浅い皿状を呈する。覆上は褐色(10YR4/4)シルトの1層からなる。出土遺物からこの溝の時期は8世紀代と考えられる。

出土遺物 (第100図1, 第50・103表)

第100図1に示した遺物の他に、第50表に掲げた遺物が出土している。

3031-OS (付図2, 第44表)

B11ES・FSを南北にはしる溝状遺構である。5046-OXと重複する。長さ約4.70m。上幅0.20



第100図 3030・3031・3032-OS出土遺物実測図 (S=1/4)

第50表 3030-OS出土遺物計量表 (上段:破片数,下段:重量・g)

須恵器				土師器				合計		
坏	坏蓋	不明	小計	坏	壺	不明	小計			
6	(□1) 台2)	1	2	9	7	(3)	11	14	32	41
66.7	2.3	6.7	75.7	10.1	107.2	12.5	129.8	205.5		

第51表 3032-OS出土遺物計量表 (上段:破片数,下段:重量・g)

須恵器					土師器				合計					
坏	壺or甕	壺	小片	小計	坏	壺	小片	小計						
10	(□2) 台1)	9	6	(□1) 台1)	1	26	32	(□5) 台4)	24	(□2)	44	100	2	128
56.9	79.5	122.1	2.4	260.9	133.9	221.4	90.1	445.4	3.5	709.8				

m、下幅0.15mで、遺構検出面からの深さは0.03mである。断面は浅い皿状を呈する。覆土は褐色（10YR4/4）シルトの1層からなる。出土遺物からこの溝の時期は9世紀以降と考えられる。

出土遺物（第100図5、第104表）

第100図5に示した土師器皿1点が出土している。

3032-OS（付図2、第44表）

B11E SからI Uにかけて南北にはしる溝状遺構である。2021-OO・5041-OXと重複する。長さ約20.5m。上幅0.53m、下幅0.40mで、遺構検出面からの深さは0.10mである。断面は浅い皿状を呈する。覆土は褐色（10YR4/4）シルトの1層からなる。覆土の土質・色調とも重複する遺構とほとんど差がなかったため、3032-OSとそれらの遺構との新旧関係は明らかにできなかった。出土遺物からこの溝の時期は8世紀代と考えられる。

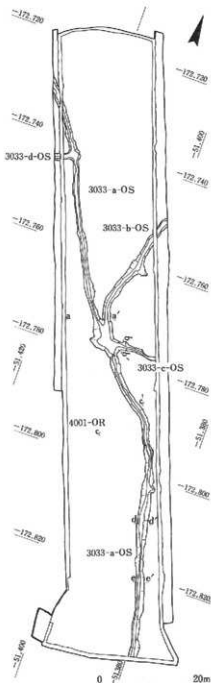
出土遺物（第100図2～4、図版48、第51・105表）

第100図2～4に示した遺物の他に、第51表に掲げた遺物が出土している。

3033-OS（第101～104図、図版29～33・41、第44表）

B地区を南北に縦走する溝状遺構である。調査区南端のB17J Fを起点として蛇行しながら北流する溝はB11S X付近で二股に分かれ、そこから北東へ向かう溝はB11MY付近で、また、北西に向かう溝はB11HR付近でそれぞれ調査区の外へ出る。ここでは、B17J Fを起点にして調査区を縦走しながらB11HRに至る溝を3033-a-OS、B11S X付近で分かれ、そこから北東へ向かう溝を3033-b-OSと呼称する。また、B11TY付近で合流する溝を3033-c-OS、B11K S付近から西へ分流する溝を3033-d-OSと呼称する。3033-a-OSは1023-OB・1027-OB・3034-OS・3040-OS・3041-OS・4001-OR・5041-OXと、また、3033-b-OSは5083-OXと重複する。溝は重複するほどの遺構よりも古い。

溝の長さは3033-a-OSが120m以上、3033-b-OSが22m以上を測る。幅が一番広いところで上幅4.00m・下幅1.90m、遺構検出面からの深さ0.82mを測るが、平均すると上幅1.30m・下幅0.50m、遺構検出面からの深さ0.60mである。断面は逆台形ないしU字形を呈する。覆土の堆積は場所により異なるが、概ね最下層の砂礫層、下層の灰褐色粘質土層、上層の暗褐色粘質土層に分かれる。下層の土質から、この溝には水が流れていたものと考えられる。溝底のレベルは最南端のB17J Fで54.85m、二股に分かれるB11S X付近で54.08m、また、調査区外に出るB11MY付近で53.90m、B11HR付近で



第101図 3033-O S・4001-OR  
平面図 (S=1/750)

第52表 3033-O S出土遺物計量表  
(1988年度調査)

	器種	総破片数	口縁	底部	総重量(g)	
須	坏身(or皿)	262	88	9	3580.7	
	坏身or坏蓋	12	1	—	218.3	
	坏身or鉢	2	—	—	13.5	
	坏蓋	73	42	—	1056.8	
	坏蓋or壺蓋	1	—	—	16.6	
	皿身	15	1	—	677.5	
	皿身or皿蓋	1	1	—	26.6	
	皿身or壺蓋	1	—	—	44.3	
	皿身or鉢	4	—	—	152.4	
	高坏	7	—	6(脚)	134.0	
甕	鉢	34	6	1	1578.1	
	鉢or壺	4	—	—	132.6	
	埴	2	2	—	48.6	
	壺	109	12	7	3384.8	
	甕	455	6	1	22513.3	
	横瓶	21	1	—	1148.3	
	円面硯	1	—	—	10.1	
	小計	1004	160	24	34736.5	
	土器	坏身or皿身	156	36	1	1281.4
		埴	2	—	—	191.6
高坏		20	3	5(脚)	376.2	
鉢		3	1	—	593.4	
壺		674	68	—	8062.5	
小計	鉢	3	—	—	164.9	
	小計	858	108	6	10670.0	
瓦器	埴	6	1	—	8.3	
陶磁器	杯	1	—	1	22.4	
合計		1869	269	31	45437.2	

第53表 3033-O S出土遺物計量表  
(1989年度調査)

	器種	総破片数	口縁	底部	総重量(g)
須	坏身(or皿)	57	11	21	878.1
	坏身or坏蓋	18	—	—	313.7
	高坏	3	—	3(脚)	71.3
	鉢	1	1	—	58.2
	壺	11	1	2	512.0
甕	壺	94	2	—	4279.5
	横瓶	1	—	—	57.0
	小計	155	15	25	6169.8
	土器	坏身or皿身	24	—	2
甕		140	61	—	1880.8
小計	小計	164	61	2	2130.4
	瓦器	埴	3	—	—
合計		332	76	28	8304.9

## 土層説明

b-a'

- 1層: 黄褐色(10YR2/6)砂礫混じりシルト(再掘削後の覆土)。
- 2層: 緑灰色(10YR4/1)シルト混じり砂礫(再掘削後の覆土)。
- 3層: 緑灰色(10YR4/1)シルト(再掘削後の覆土)。
- 4層: 灰黄褐色(10YR5/2)砂礫混じりシルト。
- 5層: 黄褐色(10YR5/3)砂礫混じりシルト。
- 6層: 灰黄褐色(10YR5/2)砂礫混じりシルト。

b-a'

- 1a層: 黄褐色(10YR5/3)砂礫混じりシルト。
- 1b層: 黄褐色(10YR5/3)砂礫混じりシルト。
- 1c層: 濃い黄褐色(10YR5/4)砂質シルト。
- 2a層: 褐色(10YR5/1)砂質シルト。
- 2b層: 褐色(10YR5/1)砂質シルト。
- 2c層: 黄褐色(10YR2/6)砂質シルト。
- 2d層: 黄褐色(10YR2/6)砂質シルト。
- 4層: 灰褐色(10YR3/1)砂質シルト。
- 5層: 灰色(10YR0/0)砂礫土。

b-a'

- 1層: 灰黄褐色(10YR5/2)砂礫混じりシルト。
- 2層: 灰黄褐色(10YR5/2)砂礫混じりシルト。
- 4層: 黄褐色(10YR5/3)シルト。
- 5層: 黄褐色(10YR5/3)砂礫混じりシルト。
- 6層: 灰黄褐色(10YR5/2)砂礫混じりシルト。

b-a'

- 1層: 黄褐色(10YR2/6)砂礫混じりシルト(3033-OS上層)。
- 2層: 緑灰色(10YR5/3)シルト(3033-OS上層)。
- 3層: 濃い黄褐色(10YR4/1)砂礫混じりシルト(3033-OS上層)。
- 4層: 濃い黄褐色(10YR4/1)砂礫混じりシルト。3層よりも礫が少く(粘土質)(3033-OS上層)。
- 5層: 緑灰色(10YR4/1)シルト混じり砂礫層(3033-OS上層)。
- 6層: 緑灰色(10YR4/1)細砂礫混じりシルト(3033-OS下層)。
- 7層: 褐色(10YR4/1)シルト(3033-OS下層)。
- 8層: 褐色(10YR4/6)砂礫混じりシルト(3033-OS下層)。
- 9層: 褐色(10YR4/6)シルト混じり砂礫層(3033-OS下層)。
- 10層: 灰黄褐色(10YR4/2)シルト混じり砂礫層(3033-OS下層)。
- 11層: 褐色(10YR4/1)シルト(3033-OS下層)。
- 12層: 濃い黄褐色(10YR5/3)砂礫混じりシルト(3033-OS上層)。
- 13層: 灰黄褐色(10YR4/2)砂礫混じりシルト(3033-OS下層)。
- 14層: 黄褐色(10YR4/1)シルト混じり砂礫層(3033-OS下層)。
- 15層: 緑灰色(10YR4/1)シルト混じり砂礫層。14層よりも礫を多く含む。(3033-OS下層)。
- 16層: 黄褐色(10YR5/3)砂礫混じりシルト(3033-OS下層)。
- 17層: 緑灰色(10YR4/1)粘土混じりシルト(3033-OS下層)。
- 18層: 灰黄褐色(10YR4/2)シルト混じり砂礫層(4001-OR覆土)。

b-a'

- 1a層: 濃い黄褐色(10YR5/4)砂礫混じりシルト(再掘削後の覆土)。
- 1b層: 灰黄褐色(10YR4/2)砂礫混じりシルト(再掘削後の覆土)。
- 2層: 褐色(10YR5/1)砂礫混じりシルト(再掘削後の覆土)。
- 3層: 緑灰色(10YR4/1)シルト。
- 4層: 褐色(10YR4/1)シルト(単体の礫を多量に含む)。
- 5層: 灰色(7.5Y5/3)シルト混じり砂礫層。炭化物を含む(4001-OR覆土)。
- 6層: 灰色(7.5Y4/3)砂礫混じりシルト。炭化物を含む(4001-OR覆土)。

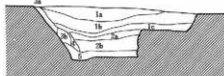
b

b' 55.50m



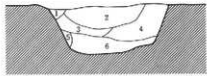
d

d' 55.50m

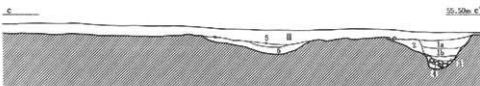


e

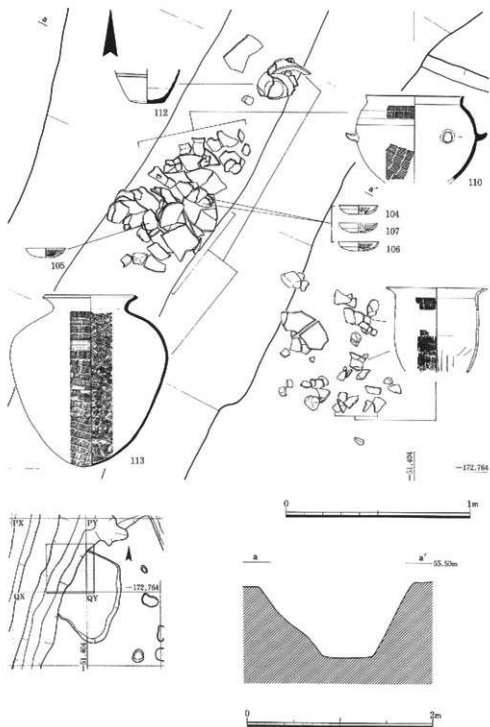
e' 55.50m



第102図 3033-OS土層断面図1 (S=1/40)



第103図 3033-OS土層断面図2 (S=1/80)



第104図 3033-O S 遺物出土状態図 (S=1/20)・断面図 (S=1/40)

53.53mを測り、水は南から北に流れていたものと思われる。

3033-a-OSと3033-b-OSの関係であるが、セクションベルトの設定を誤ったため明確にすることはできなかった。しかし、後述する出土遺物の検討からB11SX以北の3033-a-OSがもっとも早く溝としての機能を失った可能性が高い。

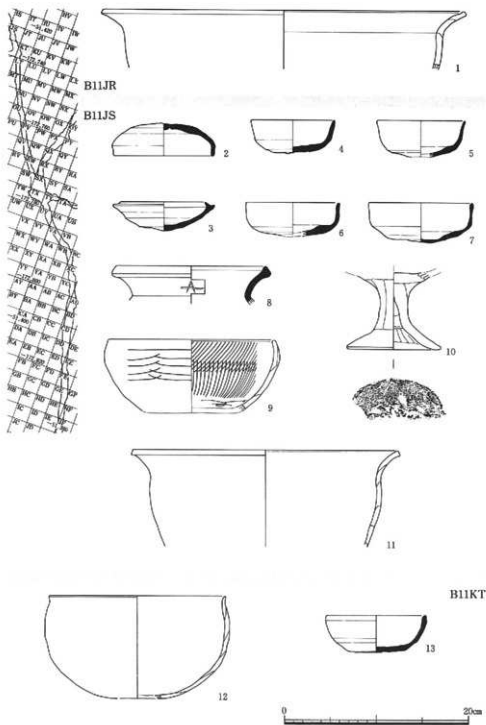
また、後述するように、この溝は7世紀代のこの地域の開発に伴う用水路として機能していたものと思われる。

出土遺物（第105～127図、図版51～74・111・112・117～120、第52・53・72・106表）

図示した土器の総数は274点である。240・241の土師器甕が確実に同一個体と考えられるので、個体数は273点を数える。その内訳は、須恵器の壺21・壺？1・壺蓋1・横瓮4・平瓶4・甕1・甕32・坏身85・坏蓋37・皿7・高坏9・鉢8・甕1・器形不明1（計212点）、土師器の甕36・坏身17・坏または皿1・皿1・高坏1・鉢3・甕1（計60点）、緑釉陶器1である。図示した遺物の他に、第52・53表に掲げたように須恵器と土師器で総破片数2211点（総重量約53.71kg）にのぼる大量の土器片が出土している。また、瓦器境の破片9点（13.0g）、陶磁器の破片1点（22.4g）が出土しているが、これらは包含層中の遺物の混入と思われる。さらに、製塩土器片が2片+ $\alpha$ （72g）ほど出土している。

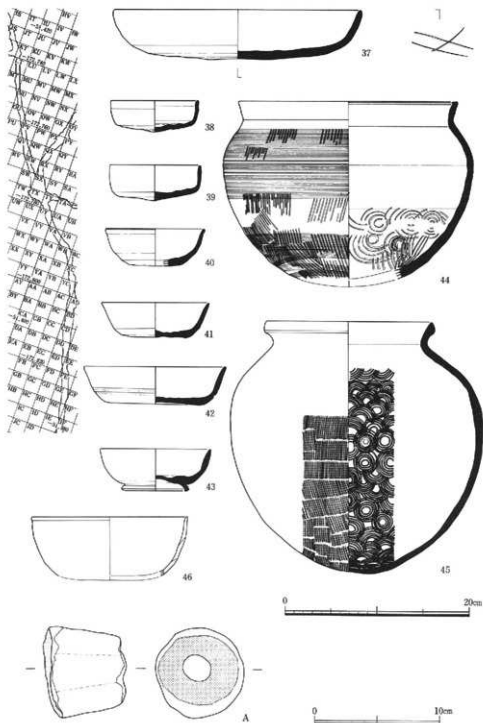
10の脚部内面には布疋痕が認められる。B11KT・LT出土遺物の中には3034-OS・5041-OXと重複するために混在した遺物が含まれている可能性がある。67・84・85は、上層より出土した。91の頸部には、部分的に波状文が施文されている。93にはB11QV・RX、4001-OR（B12VA）出土の破片が接合した。96は、形態的には土師器甕に類似しているが焼きの悪い須恵器である。104～113は3033-b-OS溝底出土の一括遺物である（第104図・図版51）。112は底部のみが完存し伏せた状態で出土した。その周囲には113の口頸部が存在した。113の体部はやや南寄りの離れた位置で110とともに潰れた状態で出土した。これらの破片の隙間から104～108が出土している。122・123は直接接合はしないが同一個体の可能性が高い。136の緑釉陶器片は最上層の出土である。147はいわゆる金属製容器模倣土器である。口縁部に鋭い段をもち、器形全体に金属製容器のもつシャープさを醸し出している。焼成は瓦質土器に近い。157は最上層出土である。166は器壁が厚く、整形も雑であり例を見ないものである。182は大型の蓋の可能性も考えられたが身として扱った。205は一個体単独で潰れた状態で出土した。B17IF出土遺物は全体に新しいが、このグリットの周辺のみ最上層に砂が被っており、図化した遺物の大半はこの砂層中より出土した。したがって、これらの遺物が溝が機能を失った時期の下限を示しているも



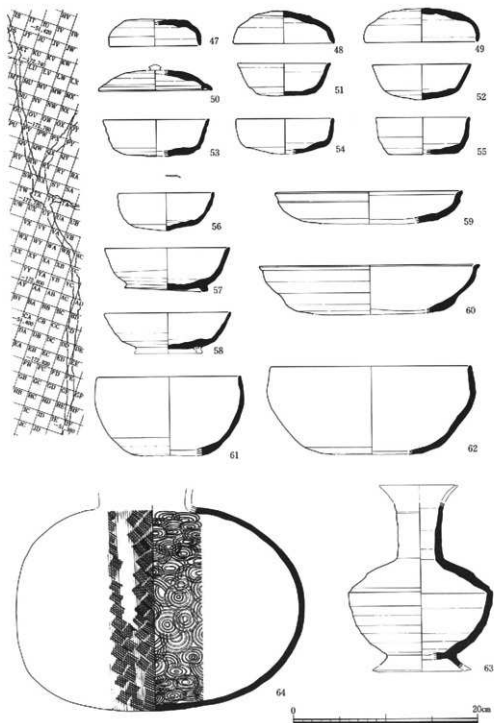


第105圖 3033-O S出土遺物実測圖1 (S=1/4)

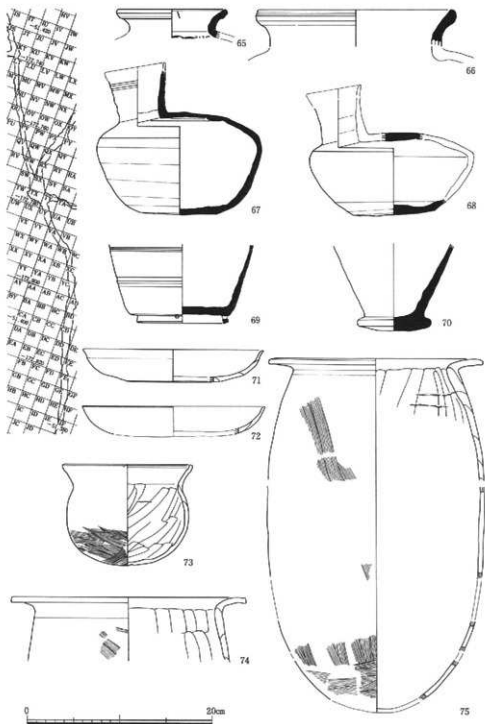




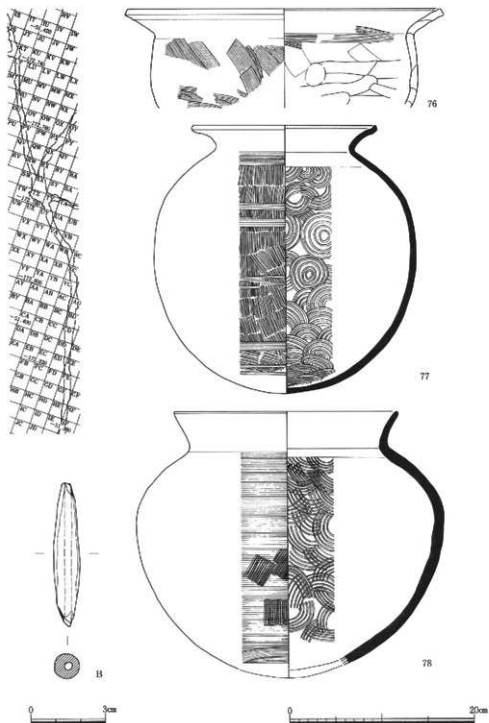
第107図 3033-O S出土遺物実測図3 (S=1/4・1/3)



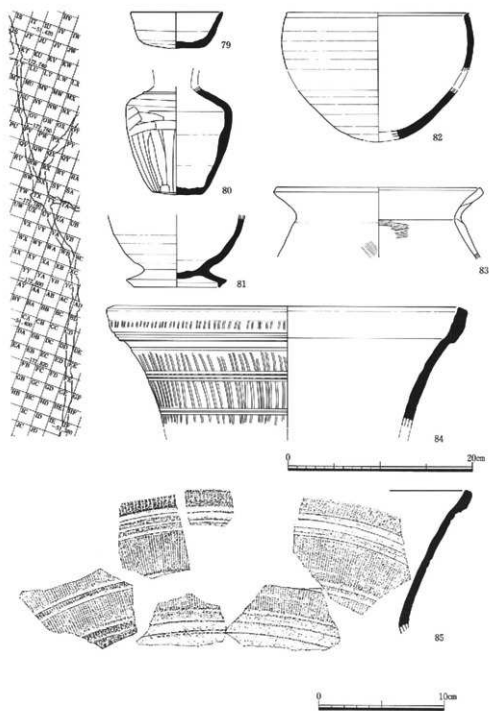
第108図 3033-O S出土遺物実測図4 (S=1/4)



第109図 3033-O S出土遺物実測図5 (S=1/4)

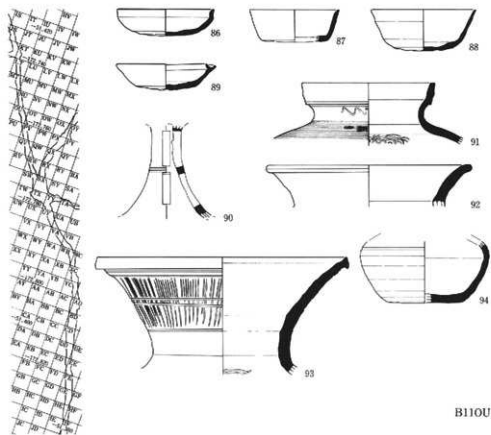


第110圖 3033-OS出土遺物実測圖6 (S=1/4・2/3)

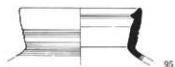


第111図 3033-O S出土遺物実測図7 (S=1/4・1/3)

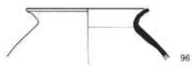
第4節 溝状遺構 (OS)



B110U



B110V



B110X

B11RW



97

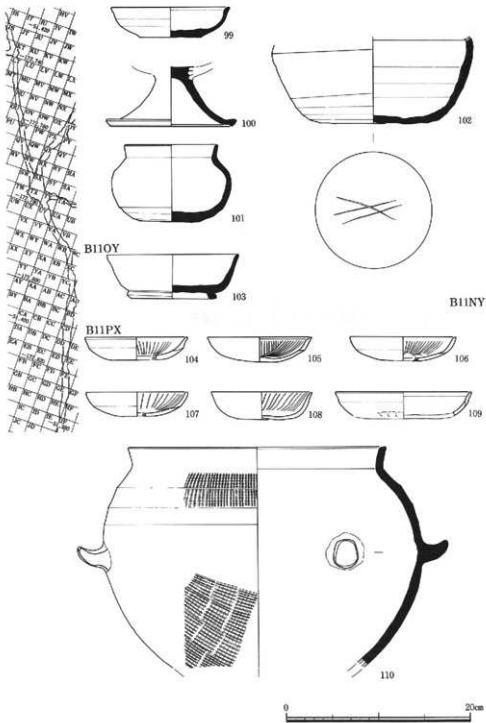


98

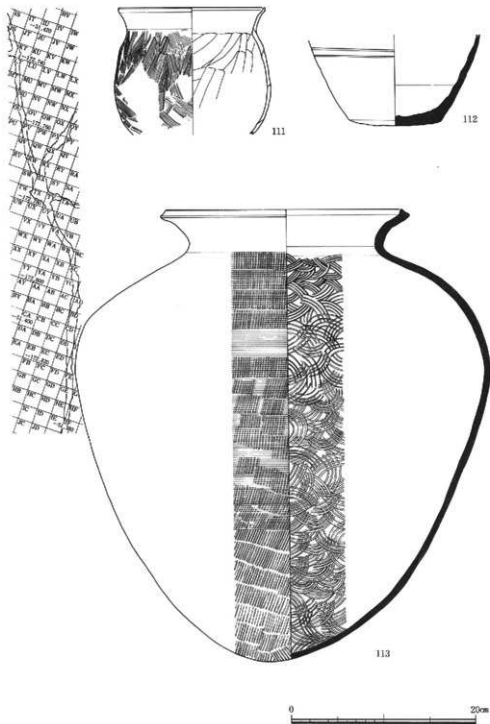


第112図 3033-O S 出土遺物実測図8 (S=1/4)

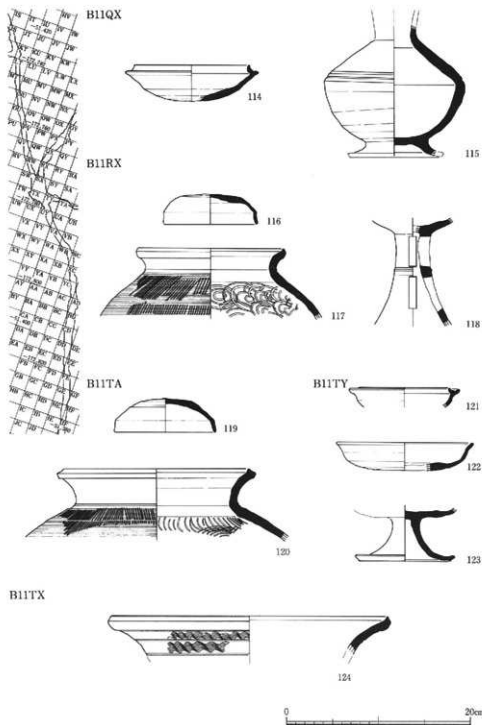




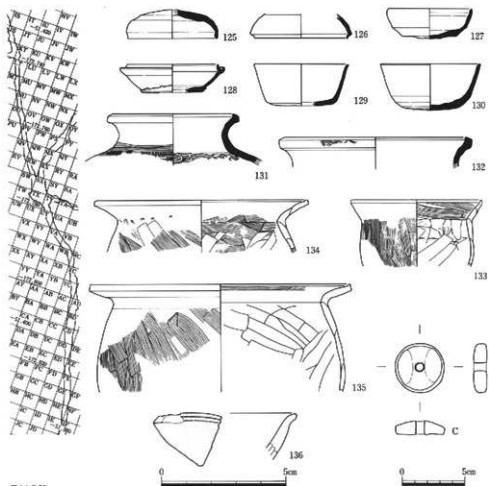
第113図 3033-O S出土遺物実測図9 (S=1/4)



第114圖 3033-O S 出土遺物実測圖10 (S=1/4)

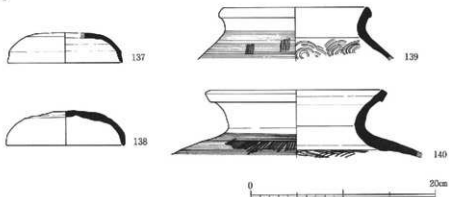


第115図 3033-O S出土遺物実測図11 (S=1/4)

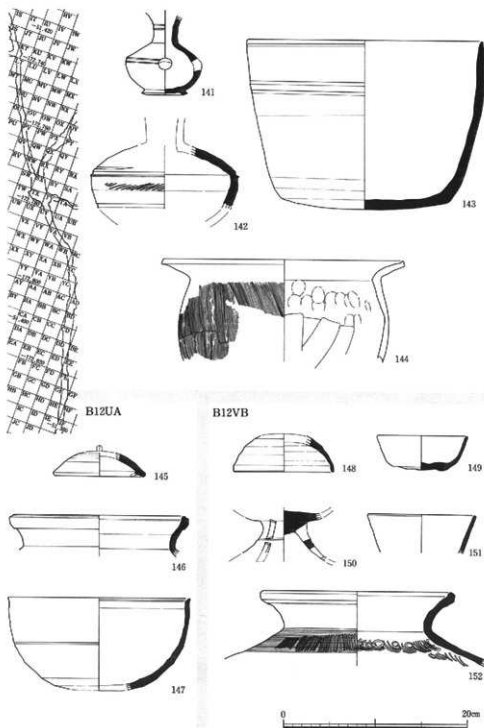


B11SX

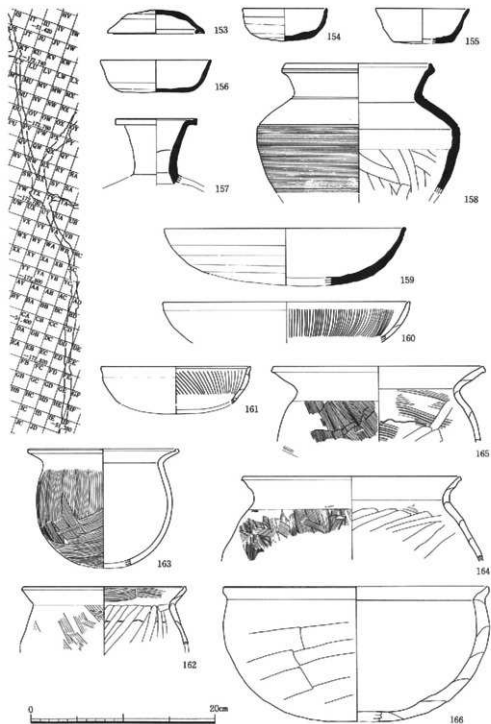
B11TY



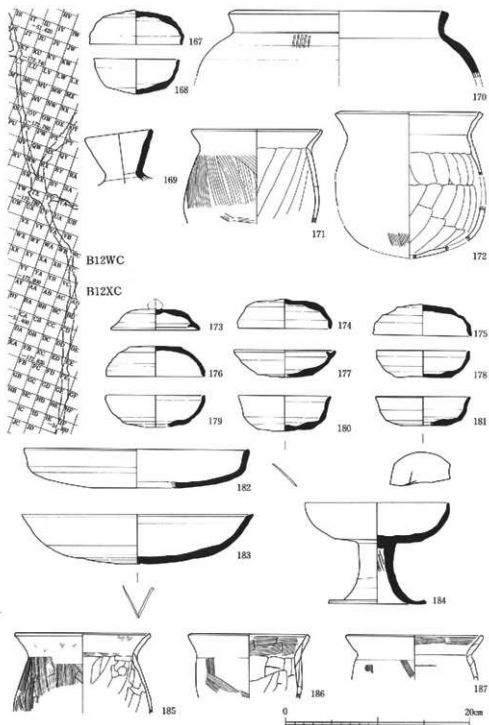
第116図 3033-OS出土遺物実測図12 (136 : S=2/3, C : S=1/3, その他 : S=1/4)



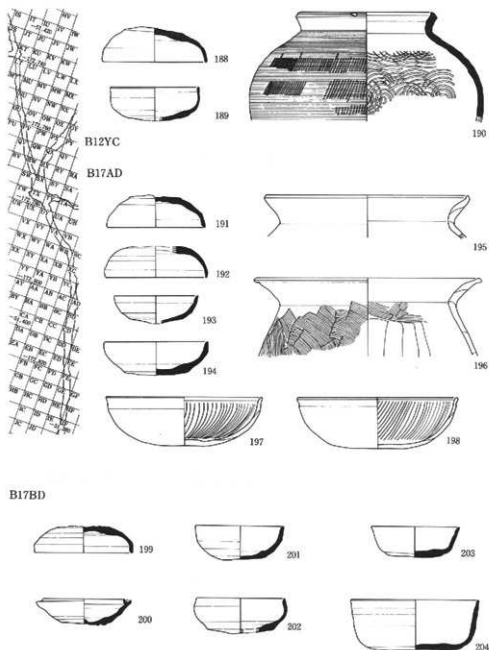
第117図 3033-O S出土遺物実測図13 (S=1/4)



第118図 3033-O S出土遺物実測図14 (S=1/4)

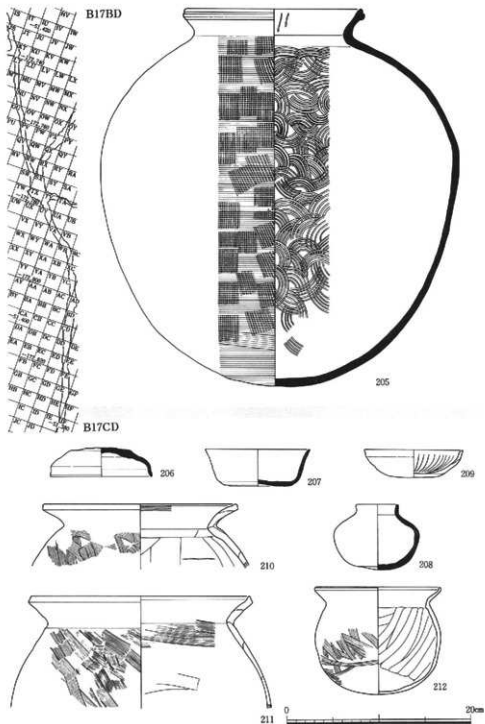


第119図 3033-O S出土遺物実測図15 (S=1/4)

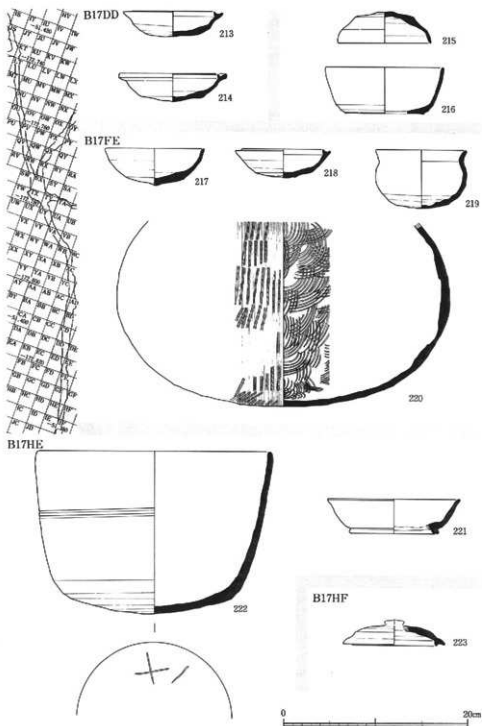


第120圖 3033-O S出土遺物実測図16 (S=1/4)



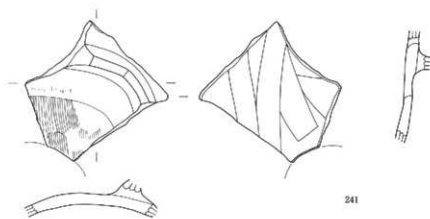
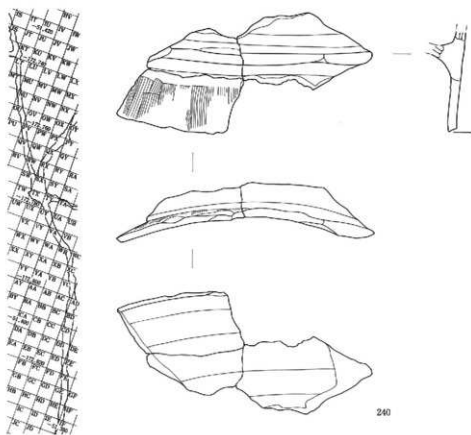


第121圖 3033-O S出土遺物実測図17 (S=1/4)

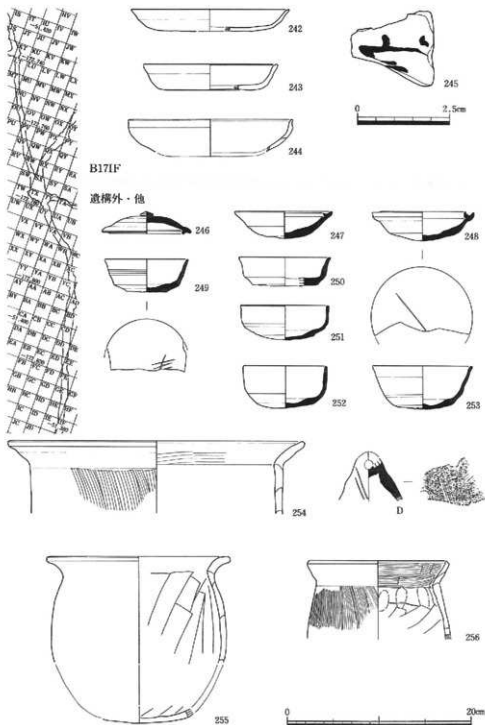


第122図 3033-O S出土遺物実測図18 (S=1/4)

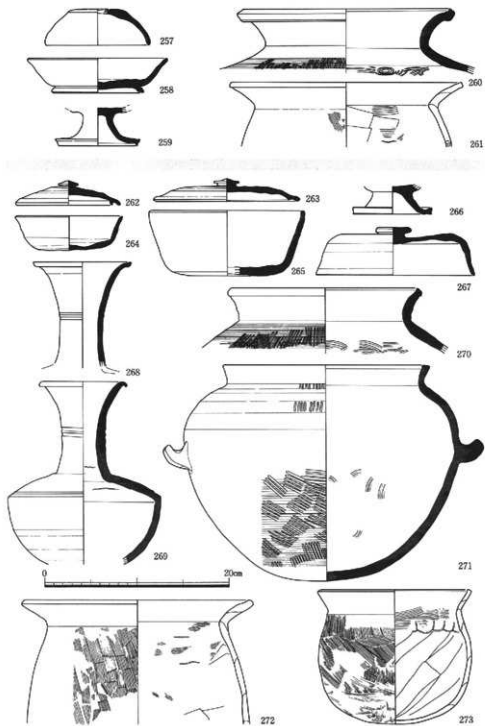




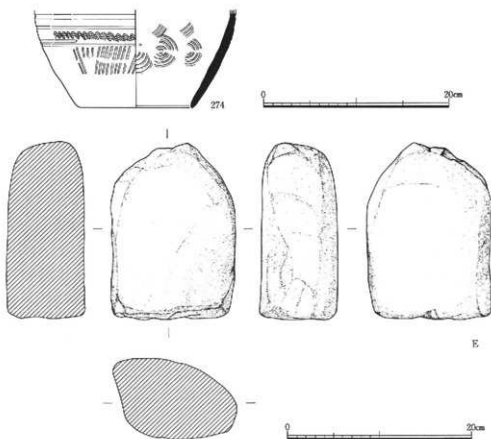
第124図 3033-O S出土遺物実測図20 (S=1/3)



第125図 3033-O S出土遺物実測図21 (245 : S=1/1, その他 : S=1/4)



第126図 3033-O S出土遺物実測図22 (S=1/4)



第127図 3033-O S出土遺物実測図23 (S=1/4)

のと思われる。236は底部に焼成前の穿孔を有する須恵器の小破片で甌として報告するが、別の器種の可能性もある。B171 F出土の240は土製甕の鈔、241は同一個体の体部側面の破片と考えられる。側面部には焼成前の円孔がある。245は黒書土器の破片である。ウ冠を戴く字であれば、3034-O S出土遺物などを考慮することによって「家」と読むことも可能であるが断定はできない。257～261は1989年度の擁壁調査の際に3033-a-O S覆土中・下層より出土した。262～274は1989年度の擁壁調査の際に3033-b-O S下層より出土した一括遺物である（図版51）。274は天地すらも確定することができなかった異形土器である。体部に櫛描波状文が施文されている。

これらの土器以外に、フイゴ羽口 (A)・土錘 (B)・紡錘車 (C)・蛸壺 (D)・石器 (E)・鉄滓 (図版111) 等がある。A (第107図) は、残存長6.6cm・残存幅7.5cmの土製品である。穿孔は2.2cm～2.9cmを測る。B (第110図) は、長さ5.9cm・幅1.1cm・径0.25

caの穿孔を有する土製品である。重量4.7g。C(第116図)は、径4.0cmの滑石製である。穿孔は0.5cmである。重量30.0g。D(第125図)は須恵器の甗である。体部に二条の沈線からなるへら記号が刻まれている。E(第127図)は、使用痕を有する砂岩質の石製品で、砥石の可能性ある。上層より出土。重量3509.0gを測る。B17F E出土の鉄滓は13点あり、総重量は50.7gである。

## 3034-OS(第128・129図, 図版34・35, 第44表)

B11IX・JXからB11LS・MSにかけて北東から南西に走る溝状遺構である。3033-a-OS・5041-OXと重複し、前者よりも新しく、後者よりも古い。溝は長さ22m以上。もっとも幅の広いところで、上幅3.30m・下幅1.30m、遺構確認面からの深さ0.50mを測る。断面は皿状を呈し、縁に向かって緩やかに立ち上がる。覆土の堆積は場所によって異なるが、概ね下層の細砂層と上層の暗褐色シルト層に分かれる。この覆土の上を5041-OXと呼称する炭化物を多量に含んだ褐灰色砂礫混じりシルト層が覆っている。その堆積の仕方を観察すると、3034-OSが埋まり切らないうちにこの層が堆積したらしい。溝底のレベルは東側で53.80m、西側で53.63mを測り、水は北東から南西に向かって流れていたものと思われる。ところで、1989年度の擁壁調査時に溝の西側が幾筋もの細い溝に分かれることが判明した(付図参照)。おそらく掘削当時は相当の水量があったものが、水

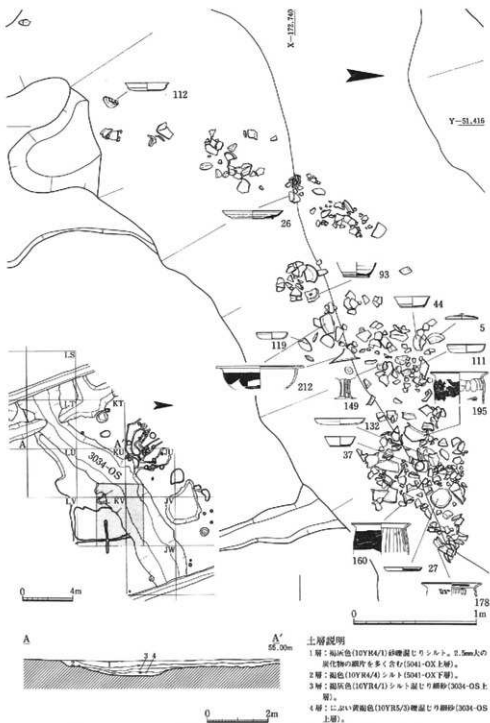
第54表 3034-OS出土遺物計量表  
(1988年度調査)

器種	総破片数	口縁	底部	総重量(g)
須恵器				
坏身・皿身	1069	464	566	11059.2
坏蓋	371	159	—	5274.3
鉢	27	9	4	473.4
甗	283	5	23	6769.3
壺蓋	6	—	—	67.8
甕	260	10	—	7624.5
平瓶	17	—	—	244.1
横瓶	2	—	—	31.4
平瓶or横瓶	1	—	—	33.4
小計	2036	647	593	31577.4
土器				
坏身・皿身	2137	521	1613	12090.3
坏蓋	7	6	—	99.9
高坏	32	14	11(脚)	452.6
鉢	16	3	1	388.8
甕	2666	358	30	31658.7
鍋	109	—	—	3390.4
ミニチュア	16	—	—	63.3
不明	89	—	—	182.0
小計	5072	902	1655	48326.0
合計	7108	1549	2248	79903.4

第55表 3034-OS出土遺物計量表  
(1989年度調査)

器種	総破片数	口縁	底部	総重量(g)
須恵器				
坏身・皿身	194	50	75	2155.1
坏蓋	30	—	—	518.6
高坏	2	—	2(脚)	32.9
鉢	3	2	—	103.7
壺	62	2	10	1548.6
甗蓋	1	—	—	25.6
甕	253	3	—	14687.9
平瓶	4	1	—	131.3
横瓶	2	—	—	354.2
異形土器	1	1	—	28.0
小計	552	59	87	19585.9
土器				
坏身・皿身	148	—	—	1030.0
鉢	2	—	—	105.8
甕	148	17	—	1988.5
鍋	3	1	—	68.6
小計	301	18	—	3192.9
瓦器				
塊	5	—	3	28.7
合計	858	77	90	22807.5





第128図 3034-O遺物出土状態図(S=1/30)・断面図(S=1/120)

量の低下とともに次第に細い流路となり、その時々に応じて流れが変化した結果であろう。

この溝の廃絶時期は、後述する5041-OX出土遺物が示しており、8世紀後半から9世紀初頭頃と考えられる。

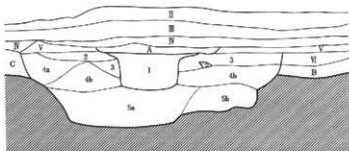
出土遺物 (第130~144図, 図版75~93・111・114・117~120, 第54・55・72・107表)

図示した土器の総数は247点である。その内訳は、須恵器の壺12・壺蓋4・小型壺4・小型壺蓋2・平瓶1・甕3・坏身59・坏蓋20・坏身または坏蓋1・皿5・皿蓋2・高坏1・鉢5 (計119点)、土師器の甕52・鍋13・坏身12・坏蓋3・坏蓋? 1・皿14・坏または皿13・碗12・高坏6・鉢2 (計128点) である。図示した遺物の他に、第54・55表に掲げたように、須恵器と土師器で総破片数7961点 (総重量102.7kg) にのぼる大量の遺物が出土している。また、瓦器破片が5点 (28.74g) が出土しているが混入の可能性が高い。

遺物の大半は、暗褐色シルト層下部から細砂層上部より出土した。とくに、B11JV付近に遺物の集中する部分が存在し、溝の南側斜面部ほど遺物が厚く堆積していた。この出土状態は、北側の掘立柱建物群の方向から南側に向かって遺物を投棄した結果と推定される。ところで、覆土掘削時には5041-OXとの分層が不十分だったため、図示した遺物の中には5041-OXの遺物が混在している可能性がある。また、3033-a-O Sと重複するB11LT付近出土遺物の中にも、この溝の遺物が混在している可能性がある。

13の頂部外面には「井家」という墨書がある (図版117)。23は「イ」の字に類似したヘラ記号が刻まれている (図版119)。29・30の内面はきわめて滑らかなため転用硯の可能性がある。82は外面にヘラミガキが施されている。90の高台端部には別の個体が熔着してい

SS.50m



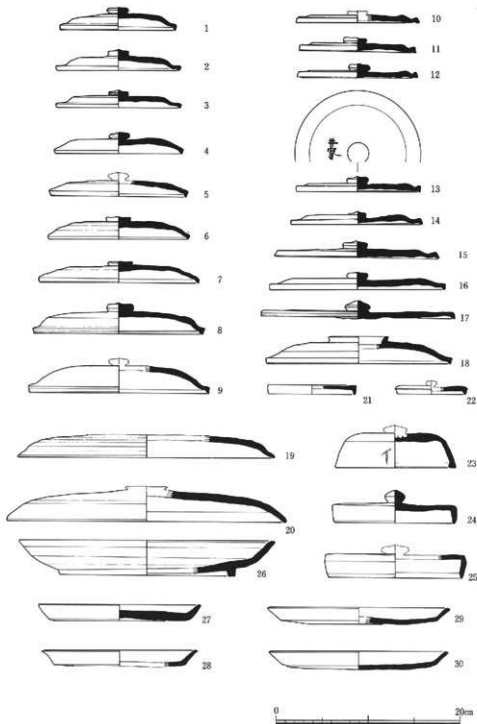
土層説明 (1~5b層=3034-OS層土)

1. 暗褐色(10YR4/1)砂質シルト。土粒や小粒い。
2. 黄褐色(10YR5/4)砂礫混じりシルト。
3. 濃い黄褐色(10YR5/4)砂質シルト。
- 4a. 褐色(10YR4/6)砂礫混じりシルト。堆山の土粒を含まない。
- 4b. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質シルト。砂礫を多く含む。
- 5a. 暗褐色(10YR3/1)砂礫混じりシルト。砂礫を多く含む。
- 5b. 灰黄褐色(10YR5/2)砂礫混じりシルト。砂礫を多く含む。

- A. 灰白色(10YR7/1)砂礫。
- B. 濃い黄褐色(10YR5/2)砂質シルト。
- C. 黄褐色(10YR5/4)砂質シルト。

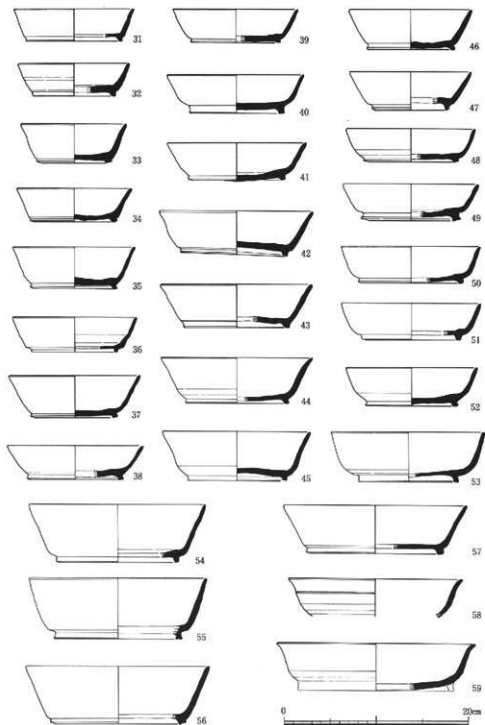
※・2-5b, 3034-OS層土  
\* A-C, 1, 2の連続掘土

第129図 3034-O S土層断面図 (1989年度擁壁調査東側東壁面, S=1/40)

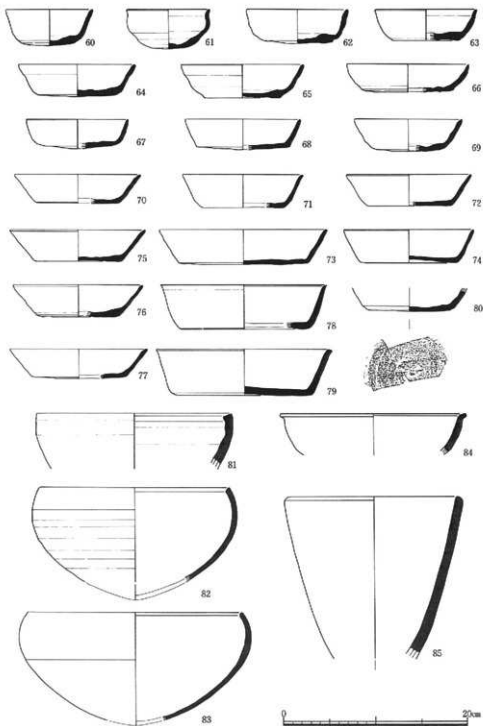


第130图 3034-O S出土遺物実測圖1 (S=1/4)

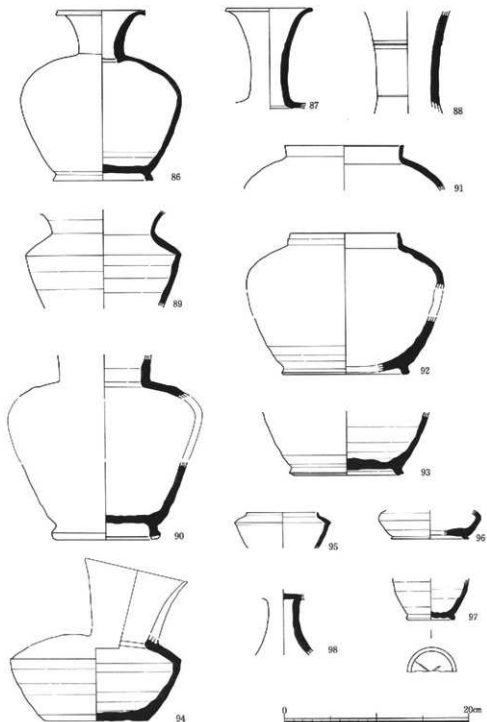
第4節 溝状遺構 (OS)



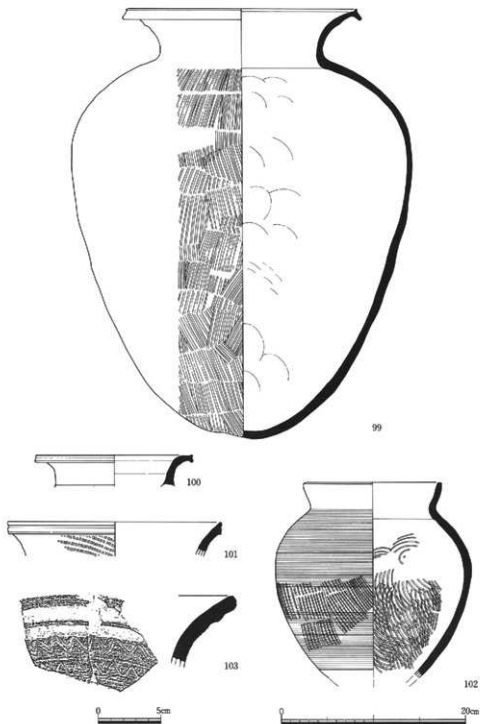
第131圖 3034-O S出土遺物実測圖2 (S=1/4)



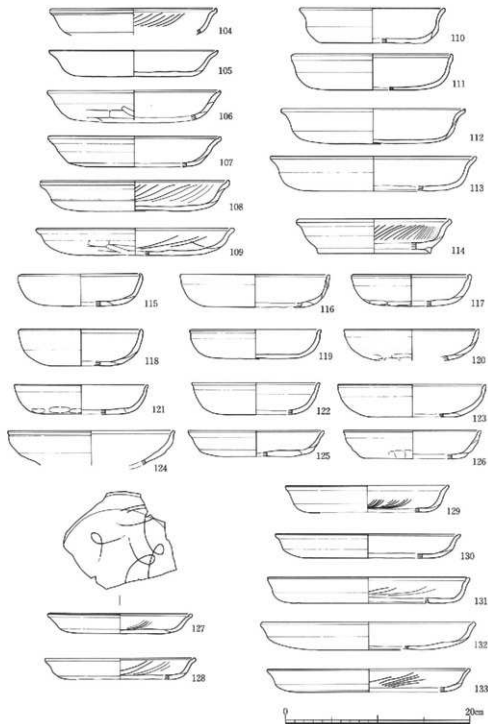
第132図 3034-O S出土遺物実測図3 (S=1/4)



第133圖 3034-O S出土遺物実測図4 (S=1/4)

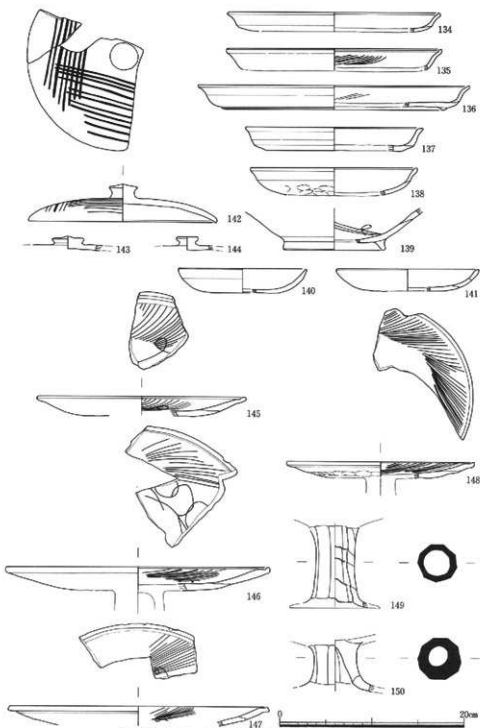


第134図 3034-O S出土遺物実測図5 (S=1/4)

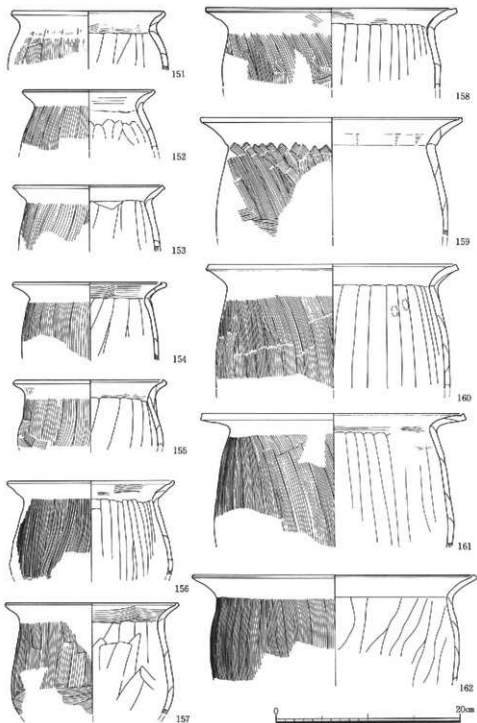


第135圖 3034-OS出土遺物実測図6 (S=1/4)

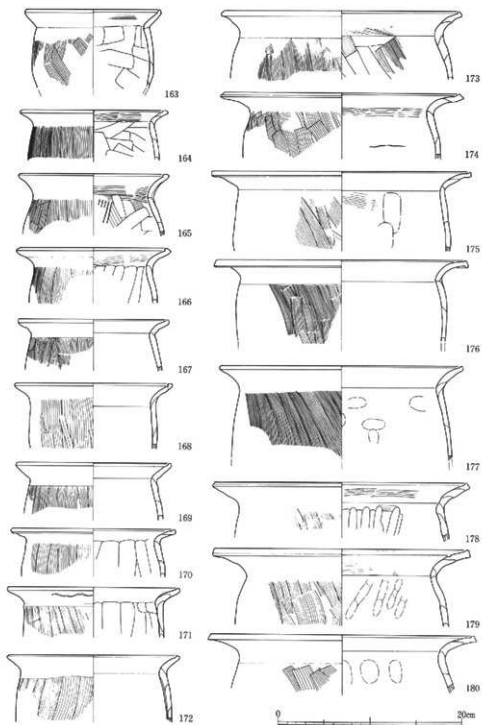




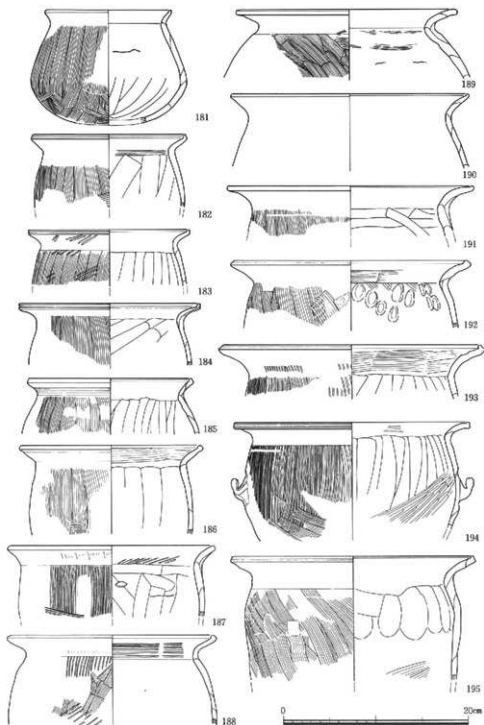
第136图 3034-O S出土遺物実測図7 (S=1/4)



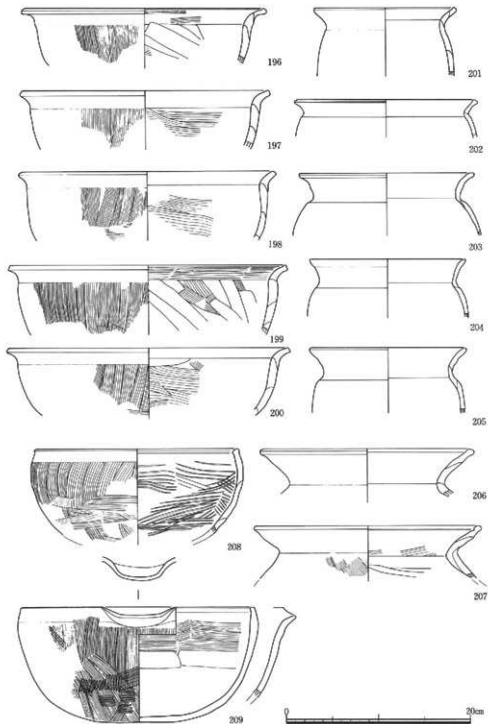
第137圖 3034-O S出土遺物実測図8 (S=1/4)



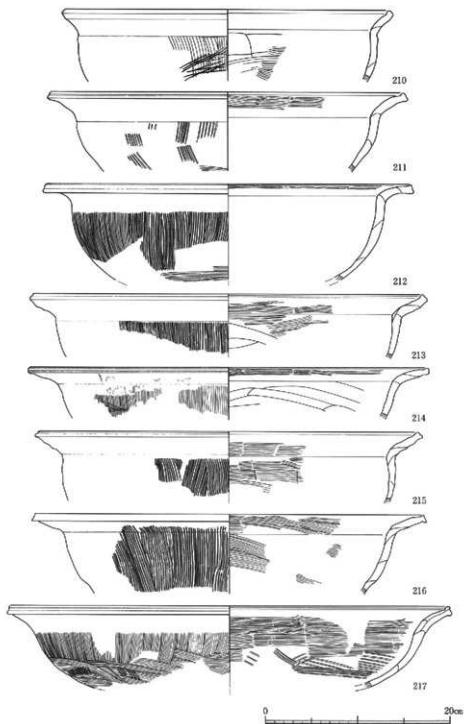
第138图 3034-O S出土遺物実測図9 (S=1/4)



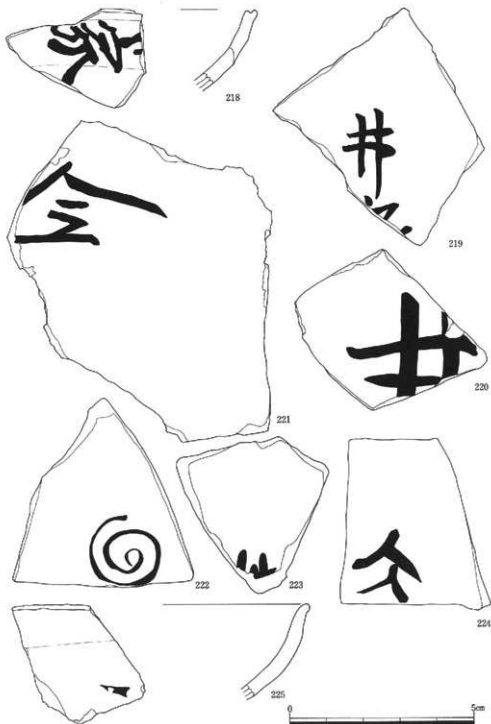
第139圖 3034-OS出土遺物実測図10 (S=1/4)



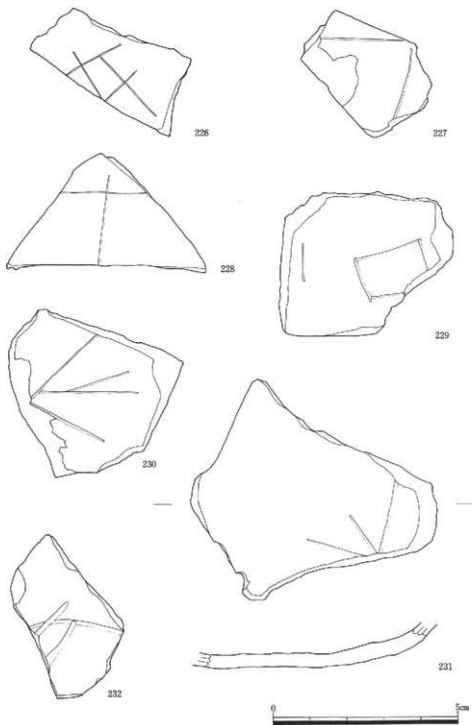
第140図 3034-O S出土遺物実測図11 (S=1/4)



第141図 3034-O S出土遺物実測図12 (S=1/4)

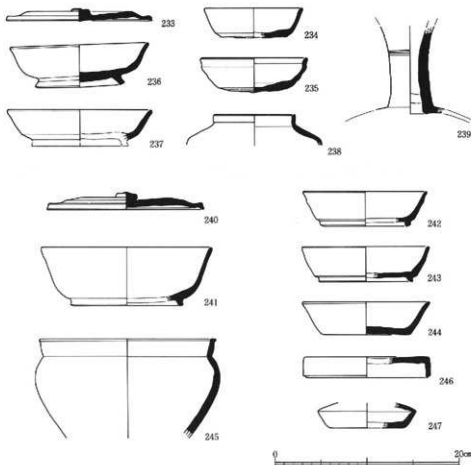


第142図 3034-O S出土遺物実測図13 (S=1/1)



第143圖 3034-O S出土遺物実測図14 (S=1/1)





第144図 3034-O S出土遺物実測図15 (S=1/4)

た。99は内面の当て具に同心円文がなく、平滑に仕上げられていた。なお、接合作業をしていく中で、破片は細片となって広範囲にわたって散乱していたことが判明した。101は口頸部外面にもタタキ目が認められる。104~141の土師器は器面の磨滅が著しく、暗文の有無について不明なものが多い。115・116・119・120は内外面とも黒色に仕上げられており、他の土器と明確に区別することができる特徴を有している。137も砂粒を多く含んだ灰褐色の土器で、胎土・色調とも他の土器と明確に区別することができる。これらは、水込遺跡周辺で製作されたものではなく、他地域からの搬入品の可能性が高い。土師器壺(151~207)には大きく大小の二種類が認められる。179の体部内面には成形時の指圧痕が明瞭に認められる。183の外面にはタタキ目が残る(図版120)。187の体部内面にはやや大型の種子圧痕がある(図版120)。188・194は二種類のハケ状工具を用いて外面整形が行

われている（図版120）。196～200は小型の鍋と呼ぶほうがふさわしいような形態をしている。208は115・116・119・120と同様に内外面とも黒色に仕上げられていることが特徴的である。211～217は外面にスガが付着している。

218～225は墨書土器である（図版117）。218は「□家」、219は「井□（家）」、220は「井」、221は「全？」、224は「人人」と読める。223・225は判読不可能である。226～232はヘラ記号である。232が須恵器の他は、土師器の坏または皿の底部破片である。なお、230は木葉痕の可能性もある。

233～239は、1989年度の擁壁調査の際に西側のB11LS・MSから、また、240～247は東側のB11IX・JXから出土した遺物である。

図化した遺物以外に、製塩土器（第72表・図版114）・把手付き鉢・鉄滓（図版111）・土製支脚状の破片2点等が出土している。製塩土器の総破片数は1245点（総重量約7.29kg）である。また、鉄滓の重量は18.26gである。

#### 3038-OS（付図、第44表）

B11IXから南にはしりB11NWで東に向かってほぼ直角に曲がり、B11NVで終わる溝状遺構である。3034-OS・3040-OSと重複し、両者よりも新しい。長さ25m以上。上幅0.66m・下幅0.48m、遺構検出面からの深さ0.06mである。断面はコの字状を呈する。覆土はにぶい黄褐色（10YR6/3）シルトの一層である。出土遺物から、溝の時期は13世紀以降と考えられる。

#### 出土遺物（第145図2、第56・108表）

第145図に示した遺物の他に、第56表に掲げた遺物が出土している。また、第56表に掲載した以外にも土師質の羽釜片3点（80.2g）・瓦質の羽釜片2点（38.1g）・瓦器破片10点（含口縁部2点、24.4g）・瓦器と思われる破片2点（5.1g）が出土している。

#### 3040-OS（付図、第44表）

B11KXからB11SWにかけてはしる溝状遺構である。3033-a-OS・3038-OSと重複し、前者よりも新しく、後者よりも古い。調査の不手際から確認することができなかったが、B11SW付近で4001-ORと合流していた可能性もある。溝はB11OX付近で二股に分かれる他、B11LX付近から幾筋もの細い流れとなる。溝の長さは26.5m以上。一番幅の広いところで、上幅3.00m・下幅2.59m、遺構検出面からの深さ0.10mを測る。断面は浅い皿状を呈するが、溝底は所によって凸凹が激しい。覆土は灰黄褐色（10YR5/2）礫混じりシルトの一層である。覆土中より出土した遺物が少ないため溝の時期を決めること

は困難であるが、4001-O Rとほぼ同時期（上限は8世紀代、下限は13世紀代）と考えておきたい。

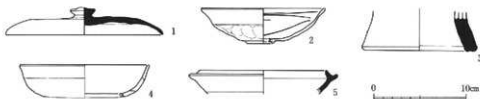
出土遺物（第145図3、第56・109表）

第145図に示した遺物の他に、第56表に掲げた遺物が出土している。また、第56表に掲載した以外にも瓦器残片2点（4.0g）が出土している。

B110 Xから出土した第145図3は須恵器壺の高台部と考えられる。

3046-O S（付図、第44表）

B17H EからB17G Aにかけて弧状にのびる溝状遺構である。図ではB17H E内で切れているが、遺構検出時には3033-a-O Sと接していた。しかし、この部分の遺存状態はきわめて悪く、壁は数mmを残すのみであったため、度重なる精査作業時に痕跡を留めなくなりました。溝の長さは15m以上。一番幅の広いところで、上幅1.00m・下幅0.90m、遺構検出面からの深さ0.18mを測る。断面は浅い皿状を呈する。覆土は灰黄褐色（10YR6/2）シルトの一层である。この溝の南側に存在する1034-O Bの主軸がこの溝とほぼ平行すること、両者の推定時期がほぼ重なることから、3046-O Sが1034-O Bの北側を画する溝であった可能性を考慮しておきたい。出土遺物から、溝の時期は8世紀前



第145図 各溝出土遺物実測図（S=1/4）（1：3046，2：3038，3：3040，4：3052，5：3053）

第56表 各溝出土遺物計量表（上段：破片数，下段：重量・g）

遺構名	須 恵 器								土 師 器				合 計	
	坏身	坏蓋	皿	壺	壺	壺or壺	不明	小計	坏身	甕	不明	小計		
3038	18(壺)	3	—	11(台)	12(口)	5	2	51	—	5	7	12	63	
	194.7	19.8	—	176.1	250.0	114.2	3.2	758.0	—	52.1	18.3	70.4	828.4	
3040	7(台)	—	1(口)	12(台)	—	8	17	4	49	5	3(口)	—	8	57
	70.3	—	19.2	174.8	755.7	533.0	21.5	1574.5	11.9	20.0	—	31.9	1606.4	
3046	—	—	—	—	11	—	—	11	1	4	1	6	17	
	—	—	—	—	767.4	—	—	767.4	6.3	156.7	4.1	167.1	934.5	
3052	32(壺)	5	—	5	—	6	1	49	26(甕)	47(甕)	—	73	122	
	253.1	58.0	—	167.8	—	139.8	2.0	620.7	81.5	291.3	—	372.8	993.5	
3053	—	—	—	4	4	—	—	8	—	20	—	20	28	
	—	—	—	115.2	100.1	—	—	215.3	—	202.4	—	202.4	417.7	

半と考えられる。

出土遺物 (第145図1, 図版48, 第56・110表)

第145図に示した遺物の他に、第56表に掲げた遺物が出土している。

第145図1はB17HEの3033-a-OSと接する位置より伏せた状態で出土した。遺構検出時の所見から、この溝の底より出土した遺物と判断した。また、第56表の須恵器と土師器の甕は7252-OP付近(B17HD)の溝底より出土した。体部破片のみで図化できなかったが、やはり8世紀代の所産と考えられる。

3052-OS (付図, 第44表)

B11ESから南にはしり、B11GS付近で東へほぼ直角に曲がり、B11FT付近で3032-OSと接続する溝状遺構である。長さ10m以上。上幅0.70m・下幅0.55m、遺構検出面からの深さ0.10mを測る。断面は浅い皿状を呈する。覆土は褐色(10YR4/4)シルトの1層である。この覆土は、5041-OXと均質のものであり、この溝の時期の下限は5041-OXとはほぼ同時期と考えられる。

出土遺物 (第145図4, 第56・111表)

第145図に示した遺物の他に、第56表に掲げた遺物が出土している。

3053-OS (付図, 図版38, 第44表)

1989年度の擁壁調査時に、B06XNで検出された溝状遺構である。3022-OSから西に派生する溝と考えられる。長さ1.0m以上。上幅0.65m・下幅0.45m、遺構検出面からの深さ0.32mを測る。断面は浅い皿状を呈する。覆土は黄褐色(10YR5/6)砂礫混じりシルトの1層である。溝の時期は3022-OSと同時期と考えられる。

出土遺物 (第145図5, 第56・112表)

第145図に示した遺物の他に、第56表に掲げた遺物が出土している。

## 第5節 流路（OR）

## 概要

2本の流路はいずれもA地区に存在する。

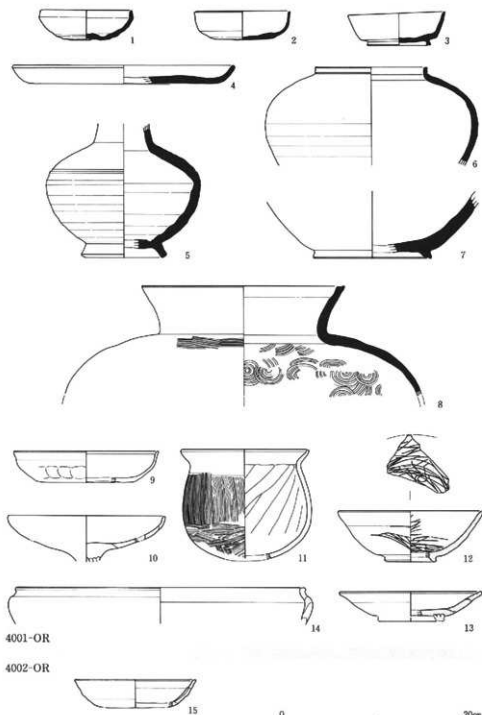
調査区の南側より順次遺構検出作業を行ってゆく過程で、調査区（A地区）中央やや南寄りから地山を覆う砂礫層が広範囲にわたって広がっていることが確認された。この付近の地山は黄褐色シルト層が無く直接段丘礫層が露呈する状態であったため、その上にのっている砂礫層の輪郭をつかむことが非常に難しかった。しかし、B11XC付近でこの砂礫層が帯状を呈しながら3033-a-O-Sと交差し南東へのびていることが確認されるとともに、調査区東側断面の精査・検討によって非常に浅いものであることが判明したため、自然流路と判断した（4001-OR）。

この砂礫層を掘削し始めると、浅いながらも明確な層を確認することができた。しかし、その輪郭は当初検出した砂礫層の範囲よりははるかに狭いものとなった。付図に示したものは明確な輪郭部分である。さらに、調査が進展するにしたがって調査区中央東寄りの砂礫層の範囲の堆積が一段と薄く、しかしながら流路状の形態を呈していることが判明した（4002-OR）。

## 4001-OR（付図、第101・103図）

B11SWからB17AEに向かって弧状にのびる自然流路である。3033-a-O-Sと重複し、それよりも新しい。概ね上幅1.20m・下幅0.42m、遺構確認面からの深さ0.15mであるが、幅が広がるB11VY付近では上幅3.67m・下幅0.85m、遺構確認面からの深さ0.30mを測る。断面の形態は場所により異なるが、V字状ないし皿状を呈する。溝底は所によって凹凸が激しい。覆土は1層ないし2層からなり、荒い砂礫を多く含む。

ところで、4001-ORとB17IF付近の3033-a-O-S覆土最上層の土層・出土遺物には共通性がある。しかし、B11WWからB17AC付近を通りB17HGを結ぶラインの東側が後世の削平を受けているため断定はできないが、ことによると3033-O-Sが機能を失った後に浅い流れが3033-a-O-Sを通してB12XC付近から4001-ORに注いでいた可能性がある。さらに、第3節でも述べたように、3040-O-Sが4001-ORと合流する可能性もあり、それを前提とするならば、3033-O-Sが機能を失った後もこれに沿うような形で浅い流路が存在していたとも考えられよう。出土遺物から、この流路の上限は8世紀代、



4001-OR

4002-OR

第146図 4001・4002-OR出土遺物実測図 (S=1/4)

下限は13世紀以降と考えられる。

出土遺物(第146図1~14, 図版48・49, 第57・113表)

第146図に示した遺物の他に、第57表に掲げた遺物が出土している。

4001-O-Rの覆土を形成する砂礫層はオーバー・フローするような形で周囲にも広がっており、遺構検出の初期の段階では3033-a-O-Sと分離できずに遺物を取り上げた。第146図は注記に従って組んだものだが、1・2・10・11等は3033-a-O-Sの遺物の混入と考えられる。第57表の中にも同様のものが存在するものと思われる。また、4・8なども4001-O-Rがオーバー・フローした時に形成されたと考えられる砂礫層中より出土した。4は、口径が大きいうえに、底部内面に暗文状にヘラミガキが施されている。8は、体部外面のタタキ目がナゲ消されている。

なお、砂礫層中には小指の先ほどの土器器の細破片が多量に混入していたが、それをすべて取り上げることは取上げていなかった。そのため、出土遺物の第57表は実態を十分に反映しているとはいえない。

#### 4002-O-R (付図)

B12XA付近から4001-O-Rに沿うように北西流する流路である。4001-O-Rのように明確な輪郭を持たず、砂礫層が一面に広がっていた範囲を4002-O-Rと呼称する。その範囲は、B11RVまでと判断している。溝底は凹凸が激しいが、西側が高く、4001-O-Rの方に緩やかに傾斜している。覆土・出土遺物(および出土状態)とも4001-O-Rと類似することから、これが水量を増した時に形成されたものであろう。

出土遺物(第146図15, 第58・114表)

第146図に示した遺物の他に、第58表に掲げた遺物が出土している。

第57表 4001-O-R  
出土遺物計量表

器種	破片数	重量(g)
須 恵	坏身 69(器)	640.7
	坏蓋 9(口5)	154.1
	蓋 3(口3)	199.3
器	壺 65(底1)	1970.8
	壺 34(口4)	1144.9
	壺or甕 96(口2)	3176.0
	鉢 1	9.8
	不明 5	20.7
小計	282	7316.3
土 師	坏身 53(口11)	274.2
	高坏 2(脚1)	114.7
	壺 86	1059.5
	鍋 1	27.3
	不明 35	100.5
小計	177	1576.2
瓦 器	塊 20(口4 底6)	136.7
土 師 質	羽釜 3	169.4
	不明 4	44.8
	小計 7	214.2
黒色土器・坏	4(口1)	11.5
合計	490	9254.9

第58表 4002-O-R  
出土遺物計量表

器種	破片数	重量(g)
須 恵	坏身 12(器)	280.5
	坏蓋 4	75.3
	壺 10(底1)	472.1
器	壺or甕 16	495.3
	不明 1	7.6
	小計 43	1330.8
土 師	坏身 6(器)	38.3
	壺 11(口4)	184.5
	鍋 4(口2)	82.6
	不明 3	10.9
小計 24	316.3	
瓦 器	塊 6(口1 底1)	22.1
合計	73	1669.2

## 第6節 不明遺構 (OX)

## 概要

土坑・柱穴などと類似した形態を取るものの、その性格が明らかではない遺構を不明遺構 (OX) と総称して報告する。検出した遺構数は130にのぼる。しかし、第59表に掲げたとおり遺物の出土したものは26基しかなく (約20%)、大方のものは時期すらも不明である。本節において報告するものは、それらの中でも出土遺物によってある程度時期を推定できるものに限定されている。

第59表 不明遺構一覧表

遺構No.	#No.	時 期	出 土 遺 物
5001	1212	不 明	
5002	1182	"	
5003	1160	"	
5004	1258	"	
5005	1138	"	
5006	1116	"	
5007	1115	"	
5008	1285	"	
5009	1106	7 C	須恵器 27.9g
5010	1089	不 明	
5011	1234	"	
5012	1063	"	
5013	1044	"	
5014	1053	"	
5015	1012	"	
5016	1697	"	
5017	1770	6 C後半以前	
5018	1587	不 明	
5019	—	"	
5020	1606	"	須恵器 28.0g
5021	—	6 C後半以前	
5022	1740	不 明	
5023	1511	"	
5024	—	6 C後半以前	
5025	—	不 明	
5026	1859	"	
5027	1512	"	
5028	1514	"	
5029	1474	"	
5030	1479	"	
5031	1833	"	

5032	1393	"	
5033	1392	8 C	須恵器・土師器 計284.8g、第72表
5034	1405	不 明	
5035	1412	7 C中葉以前	
5036	1413	"	
5037	1424	"	
5038	1820	"	
5039	1635	"	
5040	—	7 C前半以前	
5041	01	8 C後半~9 C初葉	第46~45 第1~107・A-A、第672表
5042	463	9 C初葉以前	
5043	486	"	
5044	485	"	
5045	460	"	
5046	129	"	
5047	127	不 明	
5048	362	9 C初葉以前	
5049	294	8 C後半~9 C初葉	第157 図1、第62表
5050	141	"	第177図1・2、第188図1、第61~72表
5051	290	"	第160図1・2、第63~72表
5052	126	8 C以後	須恵器・土師器 計111.3g
5053	517	9 C初葉以前	
5054	531	"	
5055	530	"	
5056	289	7 C以後	須恵器・土師器 計185.5g、第72表
5057	134	8 C以後?	土師器 4.3g
5058	124	8 C以後	土師器 24.7g、第72表
5059	121	8 C	須恵器・土師器 計20.5g
5060	377	8 C以後	須恵器・土師器 計67.8g、第72表
5061	—	9 C初葉以前	
5062	191	不 明	須恵器・土師器 計4.7g



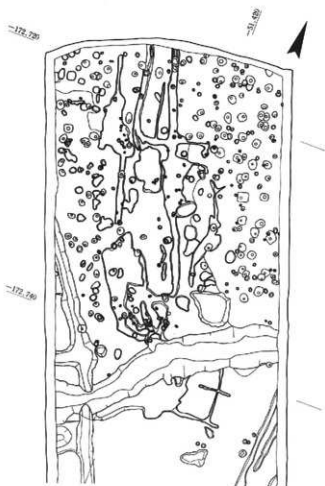
第Ⅳ章 調査成果

5063	357	9 C 初頭以前	
5064	549	※	
5065	—	※	
5066	548	※	
5067	285	8 C	須恵器・土師器 計8.7g
5068	140	※	第157 図4、第65・72表
5069	552	9 C 初頭以前	
5070	425	※	
5071	117	※	第72表
5072	118	※	
5073	382	※	
5074	143	※	
5075	562	※	
5076	—	※	
5077	388	※	
5078	223	8 C後半～9 C初頭	第162 図1、第66表
5079	322	不 明	
5080	598	※	
5081	321	※	
5082	599	※	
5083	601	8 C	第162 図2、第64表
5084	602	不 明	
5085	319	※	
5086	603	※	
5087	313	8 C以後	土師器 9.6g
5088	604	不 明	
5089	613	※	
5090	619	※	
5091	624	※	
5092	627	※	
5093	279	※	
5094	628	※	
5095	629	※	
5096	280	※	

5097	54	8 C以後	須恵器・土師器 計8.1g
5098	249	※	
5099	—	※	
5100	665	8 C?	
5101	97	8 C以降	第165 図1、第67・72表
5102	98	12 C以降	須恵器・土師器・瓦器 計28.3g
5103	99	8 C以降	須恵器・土師器 計166.2g
5104	442	不 明	
5105	—	8 C以後	
5106	666	不 明	
5107	427	8 C	第165 図2
5108	94	8 C以後	土師器 17.6g
5109	—	不 明	
5110	441	※	
5111	1305	※	
5112	1207	※	
5113	1171	※	
5114	—	6C後半以前?	
5115	—	6 C後半以前	
5116	1449	7 C?	
5117	625	不 明	
5118	2040		
5119			
5120			
5121	2006		
5122			
5123			
5124			
5125			
5126			
5127			
5128			
5129			
5130	20		

5041-O X (第147図, 図版36, 第59表)

A地区北側で中世包含層(第3層)を除去したところ、炭化物を多量に含んだ褐灰色砂礫混じりシルト層が広範囲に堆積していることが判明した。この層の範囲を5041-O Xと呼称する(第147図)。5041-O Xは1022-O B・1023-O B・1026-O B・1027-O B・2022-O O・2023-O O・3029-O S・3030-O S・3031-O S・3032-O S・3033-a-O S・3034-O S・3052-O Sなどの遺構と重複する。本来ならば、遺構とするよりも遺物包含層として報告するべきものなのかもしれないが、後述する出土遺物およびその出土状態などから、単なる遺物包含層として片付けられない内容をもっているため、不明遺



第147図 5041-OX平面図 (S=1/300)

構として報告することにした (第V章第4節で詳述する)。

出土遺物から、5041-OXが形成された時期は8世紀後半から9世紀初頭ごろと考えられ、水込遺跡における古代集落の廃絶と連動する可能性が高い。

出土遺物 (第148図～第155図, 図版37・94～103・109・110・112・115, 第60・72・115表)

図示した土器の総数は117点である。その内訳は、須恵器の壺2・小型壺3・甕7・坏身28・坏蓋9・皿1・高坏1・鉢5 (計56点)、土師器の甕24・鍋2・坏身3・坏蓋2・皿13・碗9・高坏4・鉢2・甕? 1・甕1 (計61点)である。図示した遺物の他に、須恵器と土師器で総破片数10409点 (総重量約77.188kg) にのぼる大量の遺物が出土している (第60表)。また、瓦器破片が4点 (13.1g) 出土しているが混入の可能性が高い。

ところで、後述するように1m四方の小グリッドを設定して土壌サンプリングを行った際に、5041-OX下の遺構覆土の遺物を同時に取り上げている可能性がある。挿図は注記に従って組んでいるため混在した遺物も図示している。1~3・10~18などはその顕著な例である。

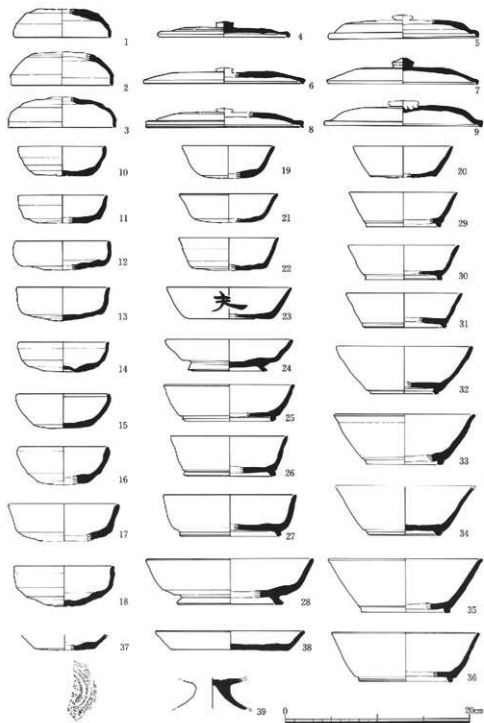
23は口縁部外面に「夫」と書かれた墨書土器である。37は底部外面に「×」のヘラ記号が刻まれている。41・44・45の須恵器甕は口頸部に櫛描波状紋が施文されており、この遺構に直接伴うものではないと思われる。43は大型の須恵器甕である。体部破片はB11LU付近に置かれていた自然石（第155図1）の周辺からいくつかのブロックごとにまとめて出

土した。しかし、接合作業を行う過程で口縁部破片がB11HU・KVより出土しているのをはじめとして、破片がかなり広範囲にわたり散乱していることが判明した。したがって、これは故意に破壊されたちその破片が散布されたと考えるのが最も理解しやすい。66・67は、B11ITにおいて両者を重ねて伏せた状態で出土した（図版37下段）。現位置を保って出土した数少ない遺物であり、これらが5041-OXの時期の上限を示しているものと思われる。70は底部外面にヘラ記号（#）がある。110・111は3034-O S出土の杯115・116（第135図）などと同様に内外面とも黒色に仕上げられている。とりわけ遺存状態の良い111は、黒色磨研であり、胎土に黒雲母粒を含んでいる。おそらく両者とも搬入品であろう。113は口径がもう少し小さくなるかもしれない。114は大型の甕と思われるが、あまり例を見ないものである。なお、図示していないが、底部内面に靱圧痕のある土師器甕が出土している（図版120）。

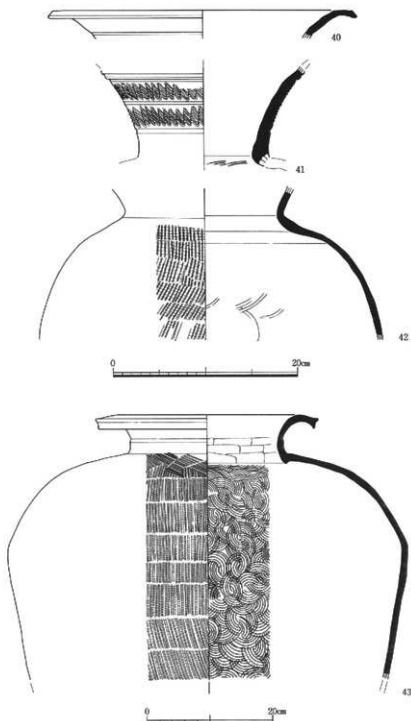
A・Bは土鍾である。A（B11IV）は現存長1.90cm、幅0.76cm、径0.30cmの穿孔があり、重量は0.82gを量る。B（B11LT）は現存長3.65cm、幅1.10cm、径0.40cmの穿孔があり、重量は3.85gを量る。C（B11KT）は用途不明の棒状土製品である。長さ8.25cm、

第60表 5041-OX出土遺物計量表

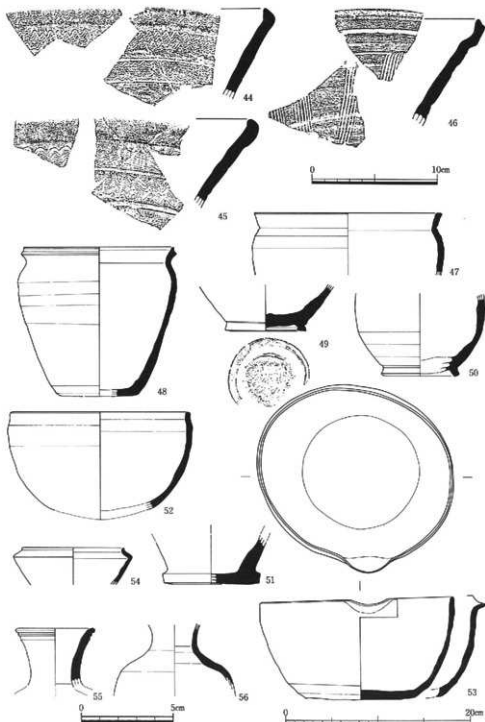
	器種	破片数	口縁	底部	総重量(g)
須恵器	坏身(or甕身)	1246	349	625	9333.1
	坏蓋(or甕蓋)	284	2	—	3022.8
	高坏	2	—	2(脚)	7.1
	鉢	29	14	—	353.4
	甕	383	27	43	5637.6
	壺蓋	9	5	—	91.3
	甕	484	18	3	12513.7
	平瓶	2	1	1	151.0
	横瓶	4	—	—	216.7
	小計	2443	416	674	31326.7
土師器	坏身・甕身	4001	516	3462	14240.1
	坏蓋	7	1	—	89.3
	高坏	31	13	8(脚)	590.1
	鉢	31	14	1	579.4
	甕	3841	353	4	28941.1
	罎	33	12	—	1282.6
	カマド	3	—	—	85.8
	ミニチュア	19	—	—	73.2
小計	7966	909	3475	45861.6	
瓦器	塊	4	1	—	13.1
	塊	1	—	—	8.7
合計	10414	1326	4149	77210.1	



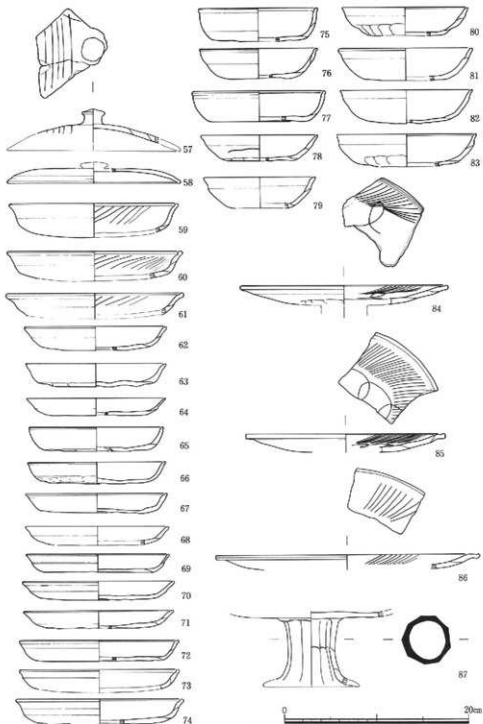
第148圖 5041-OX出土遺物実測図1 (S=1/4)



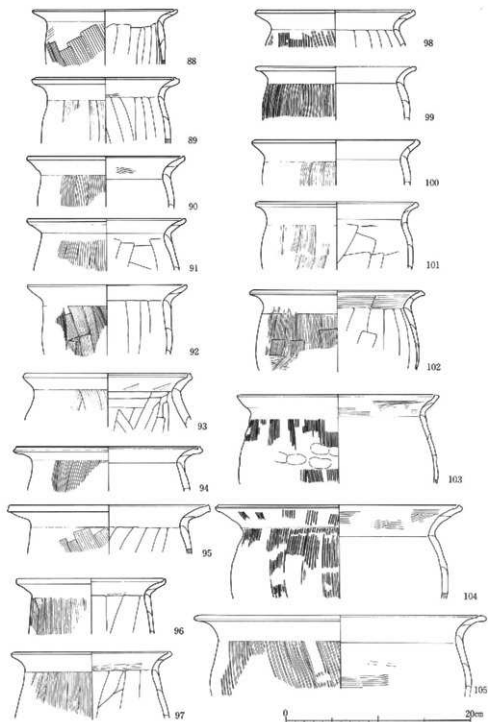
第149図 5041-O X出土遺物実測図2 (S=1/4・1/6)



第150図 5041-OX出土遺物実測図3 (44~46: S=1/3, 47~54: S=1/4, 55・56: S=1/2)

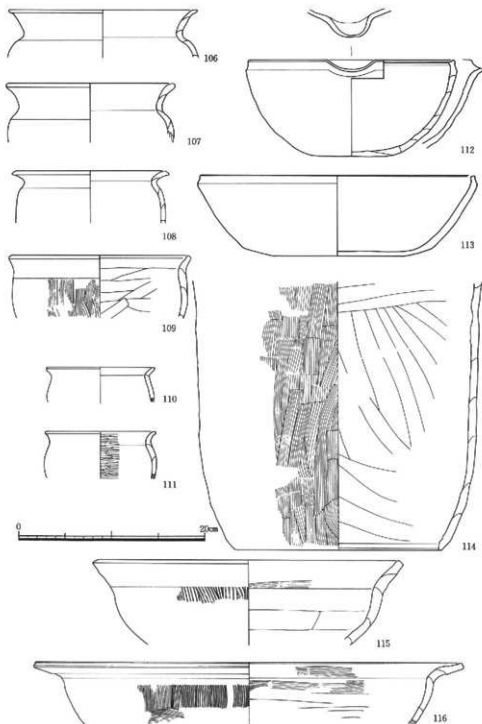


第151図 5041-OX出土遺物実測図4 (S=1/4)

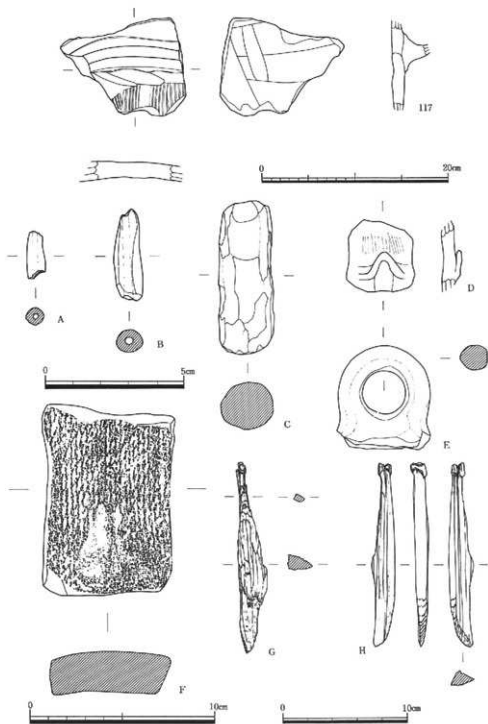


第152図 5041-OX出土遺物実測図5 (S=1/4)

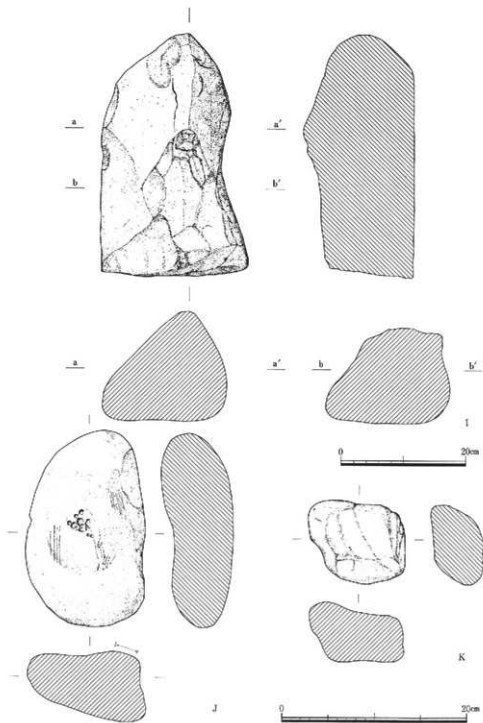




第153図 5041-OX出土遺物実測図6 (S=1/4)



第154圖 5041-OX出土遺物実測図7 (117: S=1/4, A~E: S=3/4, F: S=1/2, G・H: S=1/3)



第155図 5041-OX出土遺物実測図8 (I : S=1/6, J・K : S=1/4)

径2.90cmで、重量は80.65gである。表面の剥離顕著。D (B11KU)は小型の鉢に付く把手である。E (B11KT)は甕壺の吊り手の部分である。F (B11JV)は平瓦である。凸面には縄目があるが、ハナレ砂が付着している。凹面には布目痕がある。現存長10.50cm、幅7.20cm、厚さ2.30cmを測る。断面は灰白色 (10YR8/1) であるが、表面は褐色 (10YR5/1) に変色している。他にもう1点平瓦の破片が出土している。両者は製作技法からみて古代の所産と考えられる。G (B11KU)・H (B11KU)は燃えさしである。先端部のみが黒く焦げている。いずれも檜の木片を用いている。I・KはB11KT付近より他の石とともに出土した (図版37)。周辺からは43の体部破片が出土している。JはI・Kの出土地点から西へ約4m離れた地点より (B11KS)、やはりたくさん的小石や土器片とともに出土した。Iは砂岩質の大型の石である。明瞭な使用痕は認められないが、何らかの目的のためにこの位置に人為的に置かれ、使用されたものと思われる。台石の可能性が大きい。J・Kは砥石である。Jは図の右端の一段高くなった部分がかもとも使用痕が顕著で光沢を帯びている。また、中央の窪みにも数条の使用痕や敲打痕が認められる。砂岩。重量は3002.20gである。KはJほど明瞭ではないが皿状の浅い窪みに使用痕が認められる。砂岩。重量は763.12gである。報告した3点以外にも、明確な使用痕を持たない砂岩質の石が多数出土している。これらの中にも、磨石・砥石・台石・編物石等が含まれているものと思われる。

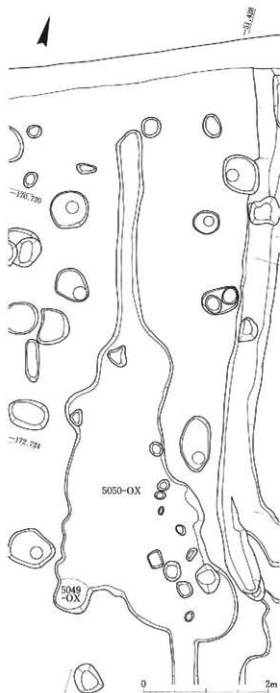
これらの遺物以外に、製塩土器が出土している (図版112・113)。製塩土器の総破片数は2107点 (総重量約10.32kg) である。また、5041-OX覆土のサンプリングおよびフローテーションを行った結果、炭化米をはじめとする様々な炭化種子が検出された (図版121・122)。これらについては、別に節を設けて報告する (第9・10節)。

#### 5049-OX (第156図, 第59表)

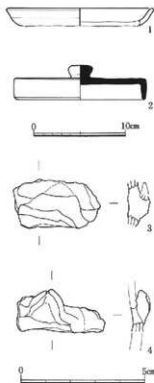
B11GRに位置し、中心座標はX-172.7261・Y-51.4283である。径0.58mの不整形円形を呈し、遺構検出面からの深さは0.07mを測る。5041-OX・5050-OXと重複し、後者よりも新しい。前者との関係は明確には把握できなかったが、この遺構の方が若干新しいか、もしくは同時埋没の可能性が考えられる。柱穴・土坑のいずれとも分類しがたいため不明遺構として報告する。

#### 出土遺物 (第157図, 第62・116表)

第157図1に示した遺物の他に、第62表に掲げた遺物が出土している。



第156図 5049・5050-OX平面図 (S=1/60)



第157図 5049・5050・5068-OX  
出土遺物実測図 (1・2 : S=1/4,  
3・4 : S=2/3)

第61表 5050-OX  
出土遺物計量表

器種・器形	破片数	重量(g)	
須 恵 部	杯	23( $\frac{216}{203}$ )	127.4
	杯蓋	17(總1)	228.2
	高杯	1(脚)	32.3
	壺or甕	9	207.4
	壺	6(台1)	143.7
土	鉢	1	25.5
	不明	7	7.1
	小計	64	771.6
師	杯	139( $\frac{272}{272}$ )	531.9
	高杯	6(脚)	58.4
	壺	84(口12)	534.6
器	ニテップ	1	6.7
	不明	80	116.7
	小計	310	1248.3
合計	374	2019.9	

第62表 5049-OX  
出土遺物計量表

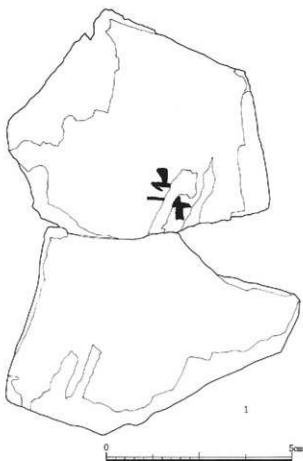
器種・器形	破片数	重量(g)	
須恵器	坏身	1(口)	1.1
	甕or壺	2	24.4
	不明	1	3.2
	小計	4	28.7
土師器	坏身	4	20.0
	甕	3	7.8
	小計	7	27.8
合計	11	56.5	

第63表 5051-OX  
出土遺物計量表

器種・器形	破片数	重量(g)	
須恵器	坏身	3	29.5
	甕or壺	1	11.3
	小計	4	40.8
土師器	坏身	24	83.2
	甕	16	121.7
	不明	6	4.0
	小計	46	208.9
合計	50	249.7	

第64表 5083-OX  
出土遺物計量表

器種・器形	破片数	重量(g)	
須恵器・甕	2	649.4	
土師器	坏身	19(口)	93.5
	高坏	3(脚3)	45.3
	甕	65	715.8
	不明	1	9.2
	小計	88	863.8
合計	90	1513.2	



第158図 5050-OX出土墨書土器実測図 (S=1/1)

5050-OX (第156図, 第59表)

B11FR・FS・GR・GSに位置し、中心座標はX-172.7244・Y-51.4279である。長軸5.10m・短軸2.30mの不整形な平面形態を呈し、遺構検出面からの深さは0.15mを測る。1022-OB・3029-OS・3030-OS・5041-OX・5049-OXと重複する。覆土は明黄褐色(10YR6/6)シルトの1層よりなる。土質は5041-OXと均質で、5041-OXと同時埋没の可能性が高い。2本の溝との新旧関係は不明。1022-OBよりも新しく、5049-OXよりは古い。底は部分的に凹凸が顕著な上、小穴が多数存在する。

出土遺物(第157・158図, 図版112・117, 第61・117表)

第157・158図に示した遺物の他に、第61表に掲げた遺物が出土している。

第157図3は土師器小型把手付き鉢の破片である(図版112)。第158図は墨書土器である。



第159図 5051-OX平面図・断面図 (S=1/60)

土師器坏または皿の底部外面に書かれている。器面の状態が悪いため判読は困難である。ただし、ウ冠を戴く字であるならば他の例同様「家」という字の可能性もある。

5051-OX (第159図, 第59表)

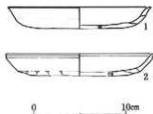
B11G S・GT・HTに位置し、中心座標はX-172.7266・Y-51.4242である。長軸3.85m・短軸2.30mの不整形な平面形態を呈し、遺構検出面からの深さは0.10mを測る。覆土は5050-OXと同様、5041-OXと均質であり、この遺構と同時埋没の可能性が高い。

出土遺物 (第160図, 図版49, 第63・118表)

第160図に示した遺物の他に、第63表に掲げた遺物が出土している。

5068-OX (付図, 第59表)

B11ITに位置し、中心座標はX-172.7326・Y-51.4205である。長さ1.53m、幅0.35mのソーセージ状の平面形態で、遺構検出面からの深さは一番深いところで0.50mを測る。覆土は明黄褐色(10YR6/8)土の1層よりなり、土質は5041-OXと均質である。したがって、5041-OXと同時埋没の可能性が高い。



第160図 5051-OX出土遺物実測図 (S=1/4)

第65表 5068-OX出土遺物計量表

器種・器形	破片数	重量(g)
土師器・坏	5(台1)	17.0

第66表 5078-OX出土遺物計量表

器種・器形	破片数	重量(g)
須恵器・壺or甕	2	67.4

第67表 5101-OX出土遺物計量表

器種・器形	破片数	重量(g)
須恵器	坏身	3 30.2
	壺	2 30.6
	小計	5 60.8
土師器	坏身	3 12.3
	壺	2 7.6
	小計	5 19.9
合計	10	80.7

出土遺物 (第157図, 図版112, 第65・119表)

第157図4に示した遺物の他に、第65表に掲げた遺物が出土している。

5078-OX (第161図, 第59表)

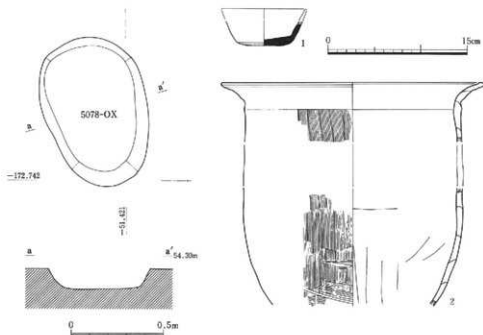
B11KTに位置し、中心座標はX-172.7416・Y-51.4212である。長軸0.82m、短軸0.57mの長円形を呈し、遺構検出面からの深さは0.11mを測る。覆土は褐色(10YR4/4)土の1層よりなる。土質は5041-OXと均質であり、この遺構と同時埋没の可能性が高い。

出土遺物 (第162図, 第66・120表)

第162図1に示した遺物の他に、第66表に掲げた遺物が出土している。

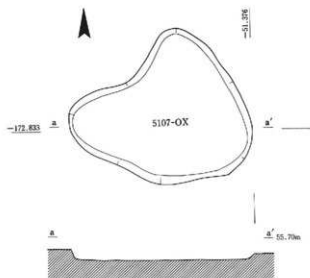
5083-OX (第104図, 第59表)

B11PX・PY・QX・QYに位置し、東北角の座標はX-172.7626・Y-51.4023、南東角のX-172.7668・Y-51.4035である。長軸4.60m、短軸は約3.50mの不整形を呈する遺構と思われる。遺構検出面からの深さは0.14mを測る。覆土は褐灰色(10YR4/1)礫混じりシルトの1層よりなる。炭化物や焼土を多量に含み、5041-OXに近似する。遺構検出当初は住居跡の可能性も考慮されたが、平面形態がやや歪なことや柱穴・竈などが存在しないため、不明遺構として扱うことにした。3033-b-OXと重複するが、新旧関

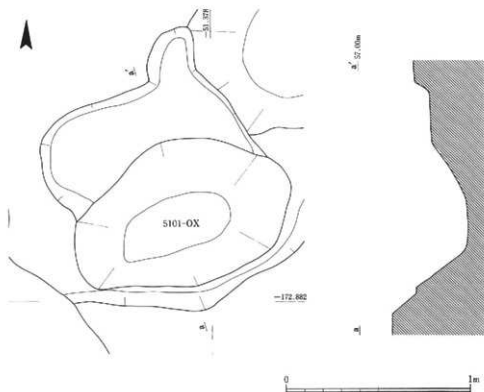


第161図 5078-OX平面図・断面図(S=1/20) 第162図 5078-5083-OX出土遺物実測図(S=1/4)

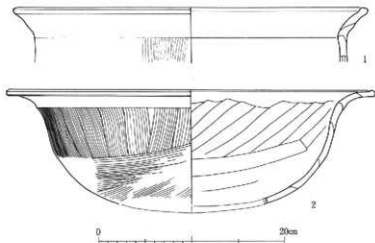




第163図 5107-OX平面図・断面図 (S=1/20)



第164図 5101-OX平面図・断面図 (S=1/20)



第165図 5101・5107-OX出土遺物実測図 (S=1/4) (1:5101-OX, 2:5107-OX)

係については明確に把握できなかった。ただし、両者の出土遺物の対比によれば、5083-OXの方が新しいと考えられる。出土遺物から、この遺構の時期は8世紀代と考えられる。

出土遺物 (第162図, 図版37, 第64・121表)

第162図に示した遺物の他に、第64表に掲げた遺物が出土している。

もともと覆土中には多くの遺物が包含されていたものと思われるが、後世の削平による遺構の遺存度が低いため、底面で潰れて出土した土師器甕 (第162図2) 以外は図示することができなかった。

5101-OX (第164図, 第59表)

B11HF・IFに位置し、中心座標はX-172.8805・Y-51.3785である。長さ1.6m・幅1.2mの不整形な平面形態を呈する。遺構検出面からの深さは北側で0.05m、南側で0.23mを測る。5102-OXと重複するが、新旧関係を明確に把握することはできなかった。

出土遺物 (第165図, 第67・122表)

第165図に示した遺物の他に、第67表に掲げた遺物が出土している。

5107-OX (第163図, 第59表)

B11IFに位置し、中心座標はX-172.8329・Y-51.3764である。長さ1.02m・幅0.86mの不整形な平面形態を呈する。遺構検出面からの深さは0.05mである。出土遺物から、遺構の時期は8世紀代と考えられる。

出土遺物 (第165図, 図版49, 第123表)

5107-OXは後世の削平による遺構の遺存度が低いにもかかわらず、底に潰れた状態で土師器鍋 (第165図2) が出土した。

## 第7節 Pit (OP)

## 概 要

検出されたpitの総数は1451にのぼる。pitがあまりにも多いため、限られた調査期間内では全てを完掘することが不可能と判断されたため、明らかに掘立柱建物に伴うものや柱掘方の可能性が高いものについてのみ載ち割りを行った。それ以外のものについては載ち割りは行わず、遺構検出面から10cm程度掘り下げて柱痕跡の有無を確認し、埋土の色調等を記録するという最小限度の調査にとどめた。

検出されたpitのうち47基が堅穴住居に、また、310基が掘立柱建物に伴うものである。両者を合わせても総数の約25%に過ぎない。これら確認された掘立柱建物に伴う柱穴以外にも、明らかに掘立柱建物の柱掘方と考えられるものが多く存在する。それらが、掘立柱建物の密集する地域に集中することもその傍証となろう。おそらく、一定地域に長期にわたって集落を形成する過程で、建て替えや建直しが頻繁に行われた結果、現況を復元し得なくなった建物がまだまだ存在するものと思われる。したがって、これらの柱穴はそのような建物に伴うものとして理解しておきたい。

ところで、検出された柱穴は、平均すると一辺約50～80cm程度の隅円方形のもの、径約40～60cmの円形のもの、径約30～40cmの円形のもの3種類に大別できる。埋土も褐色または暗褐色土、灰褐色土、黄褐色土のおおよそ3種類に大別できる。褐色または褐灰色土の埋土のものは掘立柱建物になるものが比較的多かった。A地区北半部のように黄褐色シルトに掘り込んでいるものは遺構検出作業時に一目瞭然であった。しかし、A地区南半部のように段丘礫層の上部が地山として露出している範囲においては、逆に遺構検出作業が困難であった。黄褐色土を埋土とするものについては、これと正反対のことがいえるわけであるが、幸いにもそのようなものはB01YI・YJ, B06A I・A Jに集中するのみであった。灰褐色土を埋土とするものは、径約30cmの円形の小型のものが多く、掘立柱建物になるものは少なかった。

前述のように、pitの調査はきわめて不十分なものであるが、203基から、図示したものの他に6703.4gの遺物が出土している(第68表)。また、pit25基から製塩土器345gが出土した(第72表)。そのうち時期の分かる遺物が出土した11基について以下に報告する。

6519-OP (第65・66図2, 4, 第68・124表)

B06SM・TM、中心座標X-172.6760, Y-51.4488。2010-OO・2011-OOと重複する。埋土は褐色(10YR5/1)土である。遺物は柱穴掘り時に出土した。

6538-OP (第166図2, 第68・125表)

B06TR、中心座標X-172.6797, Y-51.4316。埋土は黄褐色(10YR5/6)土である。

6726-OP (第166図1, 第68・126表)

B06XO、中心座標X-172.6926, Y-51.4420。埋土はにぶい黄褐色(10YR6/3)土。2017-OO・2018-OO, 6726-OPと重複し、2017-OOよりは新しく、後二者よりも古い。

6954-OP (第166図4～9, 図版50, 第68・127表)

B11FU、中心座標X-172.7221, Y-51.4198。埋土は明黄褐色(10YR6/8)土である。小さな柱穴にもかかわらず遺物が豊富である。しかし、5041-OXと接する位置にあり、遺物取り上げ時か整理時に遺物が帰属する遺構に混乱が生じた可能性も考えられる。

6956-OP (第166図3, 第68・128表)

B11FU、中心座標X-172.7232, Y-51.4197。埋土は明黄褐色(10YR6/8)土である。6162-OPと重複し、それよりも新しい。

7036-OP (第166図11・12, 図版50, 第68・129表)

B11HT、中心座標X-172.7306, Y-51.4216。埋土は明黄褐色(10YR6/8)土である。5041-OXと重複し、それと同時期かやや先行する時期の遺構と考えられる。

7038-OP (第166図10, 第68・130表)

B11HT、中心座標X-172.7314, Y-51.4206。埋土は明黄褐色(10YR6/8)土である。5041-OXと重複し、それと同時期かやや先行する時期の遺構と考えられる。

7139-OP (第167図13, 図版50, 第68・131表)

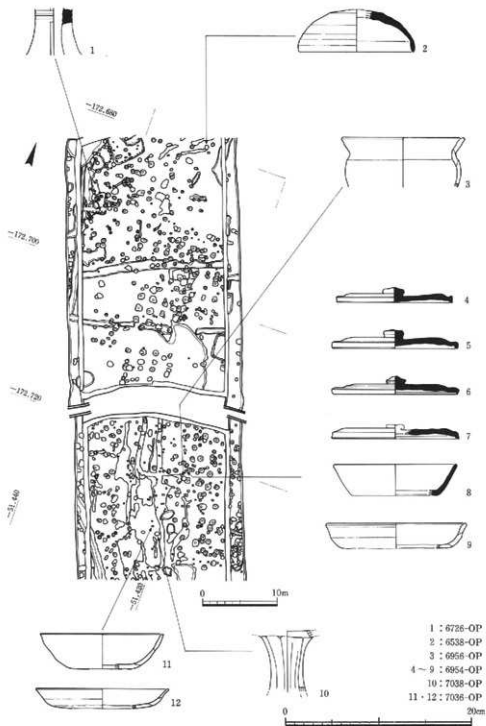
B11WY、中心座標X-172.7916, Y-51.4037。埋土は明黄褐色(10YR6/6)土である。4002-ORと重複し、それよりも古い。

7159-OP (第167図14, 図版50, 第68・132表)

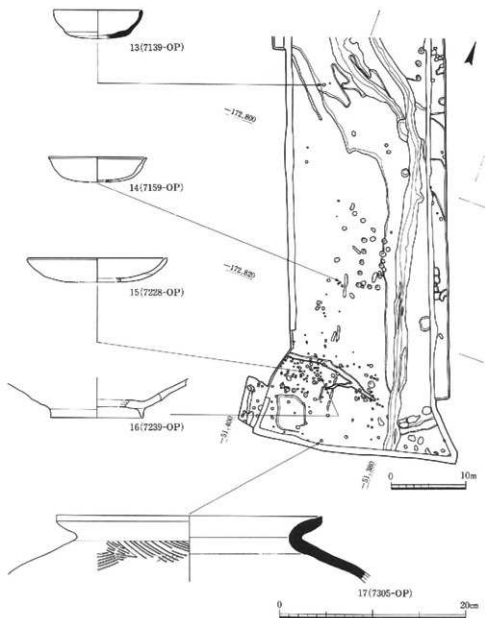
B17EB、中心座標X-172.8163, Y-51.3932。埋土は褐色(10YR4/4)土である。

7228-OP (第167図15, 図版50, 第68・133表)

B17HB、中心座標X-172.8294, Y-51.3932。埋土は褐色(10YR4/4)土である。遺物は柱穴掘り時に出土した。



第166図 各OP出土遺物実測図1 (S=1/4)



第167図 各OP出土遺物実測図2 (S=1/4)

7239-OP (第167図16, 第68・134表)

B17HC、中心座標X-172.8293, Y-51.3909。埋土は褐色(10YR4/4)土である。  
遺物は柱穴載ち割り時に出土した。

7305-OP (第167図17, 図版50, 第68・135表)

B17JD、中心座標X-172.8375, Y-51.3878。埋土は褐色(10YR4/4)土である。

遺物は柱穴載ち割り時に出土した。

第68表 OP一覧表

遺物No.	旧No.	地 区	出土遺物	摘 要
6001	1306	B01YJ		1001-OB
6002	1183	#		#
6003	1189	B06AJ		#
6004	1191	B06AI		#
6005	1192	#		#
6006	1196	#		#
6007	1304	B06BF		1002-OB
6008	1301	#		#
6009	1289	#		#
6010	1261	B06BG		#
6011	1147	#		#
6012	1146	#		#
6013	1145	#		#
6014	1260	B06CG		#
6015	1309	#		#
6016	1133	B06CI		1003-OB
6017	1127	B06CJ		#
6018	1124	B06BJ		#
6019	1123	B06CJ		#
6020	1122	#	第6表	#
6021	1129	#	#	#
6022	1131	#	#	#
6023	1132	#	#	#
6024	1128	#	#	#
6025	1243	B06KH		1004-OB
6026	1094	#	#	#
6027	1095	#	第7表	#
6028	1096	B06EI		#
6029	1092	#	#	#
6030	1090	#	第7表	#
6031	1064	B06FI		#
6032	1235	#	#	#
6033	1282	B06FH		#
6034	1253	#	#	#
6035	1252	#	#	#
6036	1249	#	#	#
6037	1247	B06EH		#
6038	1246	#	#	#
6039	1279	B06HI		1005-OB
6040	1227	#	#	#

遺物No.	旧No.	地 区	出土遺物	摘 要
6041	1039	B06HJ		1005-OB
6042	1040	#	#	#
6043	1041	#	#	#
6044	1042	B06HK		#
6045	1028	#	#	#
6046	1022	#	#	#
6047	1020	B06IK		#
6048	1021	B06IJ		#
6049	1224	#	#	#
6050	1266	B06IL		#
6051	1270	#	#	#
6052	1271	#	#	#
6053	1269	B06HI		#
6054	1276	#	#	#
6055	1699	B06OL		1006-OB
6056	1700	B06OK		#
6057	1701	#	#	#
6058	1702	B06NK		#
6059	1703	#	#	#
6060	1677	B06RL		1007-OB
6061	1678	B06RM		#
6062	1674	#	#	#
6063	1672	#	#	#
6064	1668	B06SM		#
6065	1669	#	#	#
6066	1844	B06UQ		1008-OB
6067	1572	#	#	#
6068	1575	#	#	#
6069	1941	B06VQ		#
6070	1608	#	#	#
6071	1553	#	#	#
6072	1551	#	#	#
6073	1555	B06UQ	第8表	#
6074	1756	B06WO		1009-OB
6075	1500	#	#	#
6076	1504	B06WP		#
6077	1789	B06XP		#
6078	1444	B06XO		#
6079	1398	B06YO		#
6080	1397	B06XO	第9表	#

6081	1434	B06XO		1009-O B
6082	1830	*		*
6083	1506	B06WP		1010-O B
6084	1513	B06WQ		*
6085	1515	*		*
6086	1457	B06XQ		*
6087	1460	*		*
6088	1455	*		*
6089	1831	B06XP		*
6090	1454	*		*
6091	1467	B06XR		1011-O B
6092	1471	*	第10表	*
6093	1476	*	*	*
6094	1791	B06XS		*
6095	1483	*	第10表	*
6096	1482	*	*	*
6097	1431	*	第10表	*
6098	1428	B06XR	*	*
6099	1427	*	*	*
6100	1943	B06YR		*
6101	1465	B06XQ		*
6102	1615	*		1012-O B
6103	1461	*		*
6104	1464	B06XR	第11表	*
6105	1410	B06YR	*	*
6106	1409	*	*	*
6107	1361	*	第11表	*
6108	1810	B11AQ		*
6109	1808	*	*	*
6100	1406	B06YQ		*
6111	1620	*	*	*
6112	1627	B06YR	第12表	1013-O B
6113	1822	B06YS		*
6114	1430	*	*	*
6115	1624	*	第12表	*
6116	1630	B06YT		*
6117	1629	B06YS		*
6118	1422	*	第12表	*
6119	1623	B06YR	*	*
6120	1417	*	*	*
6121	1357	B11AQ	第13表	1014-O B
6122	1359	B11AR	*	*
6123	1368	*	*	*
6124	1365	*	*	*
6125	1343	B11BR	第13表	*
6126	1340	*	*	*
6127	1339	B11BQ		*
6128	1356	B11AQ	第13表	*
6129	1358	B11AR		*
6130	1337	B11BP		1015-O B

6131	1628	B11BP	第14表	1015-O B
6132	1338	B11BQ		*
6133	1796	*	*	*
6134	1327	B11CQ		*
6135	1325	B11CP		*
6136	1322	*	*	*
6137	1331	B11BP		*
6138	1650	B11CQ		1016-O B
6139	1647	B11CR		*
6140	1646	*	*	*
6141	1641	B11CS	第32表	*
6142	1644	*	*	*
6143	1800	B11DR		*
6144	1652	B11CQ		*
6145	1651	*	*	1017-O B
6146	1648	B11CR		*
6147	1952	*	*	*
6148	1643	B11CS		*
6149	1802	B11DR		*
6150	182	B11DT		1018-O B
6151	183	B11ET	第72表	*
6152	186	B11ES		*
6153	187	*	*	*
6154	175	B11ET		1019-O B
6155	174	B11EU		*
6156	173	*	第15表	*
6157	172	*	*	*
6158	171	*	*	*
6159	170	B11FU	第36表1、第15表	*
6160	165	*	*	*
6161	166	*	*	*
6162	167	*	第36表2、第15表	*
6163	168	*	*	*
6164	206	*	第15表	*
6165	205	B11EU		*
6166	297	B11ET	第16表	1020-O B
6167	337	B11EU		*
6168	478	*	*	*
6169	480	*	*	*
6170	482	*	*	*
6171	200	B11FV	第16表	*
6172	202	B11FU	第16・72表	*
6173	203	*	第16表	*
6174	214	B11FT	第16・72表	*
6175	211	B11ET	第16表	*
6176	207	B11FU	第17表	1021-O B
6177	210	*	*	*
6178	161	B11FV	*	*
6179	162	B11GU	第17・72表	*
6180	407	B11FU		*



## 第IV章 調査成果

6181	169	B11F U	第17表	1021-O B
6182	415	B11F Q		1022-O B
6183	306	B11F R	第18表	"
6184	459	"	"	"
6185	218	B11F S	第40図、第18表	"
6186	312	"	第18表	"
6187	417	B11G S	"	"
6188	302	B11G R	第18表	"
6189	301	"	"	"
6190	525	B11H R		1023-O B
6191	131	B11G S	第19・72表	"
6192	135	B11H S	第19表	"
6193	288	"	"	"
6194	287	B11I R	第19表	1024・1027-O B
6195	158	B11G U	第20表	"
6196	159	B11G V	"	"
6197	160	B11H V	"	"
6198	155	"	"	"
6199	156	"	"	"
6200	157	B11G V		1025-O B
6201	523	"	"	"
6202	396	"	"	"
6203	543	B11H W		"
6204	300	"	第21表	"
6205	189	B11H V	"	"
6206	145	"	"	"
6207	146	"	"	"
6208	147	"	"	"
6209	403	"		1026-O B
6210	376	"	第22表	"
6211	152	"	第45図、第22表	"
6212	151	"	"	"
6213	148	"	"	"
6214	333	B11I V		"
6215	116	B11I U	第22表	"
6216	119	"	"	"
6217	402	B11H U		"
6218	545	B11I S		"
6219	355	"	"	"
6220	286	"	"	"
6221	222	B11J S		"
6222	144	"	"	"
6223	103	B11O V		1028-O B
6224	104	"	"	"
6225	105	B11N W	第24表	"
6226	112	"	"	"
6227	113	B11O W		"
6228	114	"	"	"
6229	111	"	第46図1、第34表	"
6230	110	"	第24表	"

6231	109	B11P V	第46図2、第34表	1028-O B
6232	106	B11O V	第24表	"
6233	107	"	第46図3、第34表	"
6234	108	B11O W		"
6235	85	B11Q Y	第25表	1029-O B
6236	84	B12Q A		"
6237	83	"	第25・72表	"
6238	82	B12R A		"
6239	81	"	"	"
6240	80	B11R Y	第25表	"
6241	79	"	"	"
6242	86	"	"	"
6243	87	B12R A		"
6244	75	B12U B		1030-O B
6245	74	B12V B		"
6246	73	B12V C		"
6247	67	B17C C	第26表	1031-O B
6248	66	"	"	"
6249	65	"	"	"
6250	64	B17D C		"
6251	63	"	"	"
6252	62	B17D D		"
6253	61	B17D C		"
6254	60	"	"	"
6255	70	"	"	"
6256	69	"	"	"
6257	68	B17C C	第26表	"
6258	263	B17H A	第53図1、第27表	1032-O B
6259	39	B17H B		"
6260	681	"	"	"
6261	26	B17I B		"
6262	229	"	"	"
6263	33	B17H B	第53図1	"
6264	25	"	"	1033-O B
6265	24	"	第55図1、第28表	"
6266	23	"	第55図3、"	"
6267	22	B17I C	第28表	"
6268	27	B17I B		"
6269	21	B17I A	第54図1-4、第28表	"
6270	20	"	"	"
6271	447	B17I B		"
6272	13	"	"	1034-O B
6273	14	"	"	"
6274	15	"	"	"
6275	16	B17I C	第29表	"
6276	17	"	"	"
6277	18	"	第29表	"
6278	11	B17I B		"
6279	12	"	"	"
6280	121	B06B K		"

6281	1210	B01Y J		
6282	1209	"		
6283	1205	"		
6284	1208	"		
6285	1206	"		
6286	1184	"		
6287	1187	"		
6288	1186	"		
6289	1185	"		
6290	1204	B01Y I		
6291	1203	"		
6292	1202	"		
6293	1199	B06A H		
6294	1200	"		
6295	1198	"		
6296	1197	"		
6297	1194	B06A I		
6298	1193	"		
6299	1195	"		
6300	1190	B06A J		
6301	1188	"		
6302	1181	"		
6303	1307	"		
6304	1180	"		
6305	1177	"		
6306	1179	"		
6307	1175	"		
6308	1176	"		
6309	1169	"		
6310	1170	"		
6311	1172	"		
6312	1174	"		
6313	1168	"		
6314	1789	B06X P		
6315	1302	B06B F		
6316	1303	"		
6317	1263	"		
6318	1282	"		
6319	1867	B06B G		
6320	1149	B06B H		
6321	1150	"		
6322	1151	"		
6323	1152	"		
6324	1153	"		
6325	1154	"		
6326	1155	"		
6327	1156	B06B I		
6328	1157	"		
6329	1158	B06B J		
6330	1126	"		

6331	1290	B06B J		
6332	1220	"		
6333	1222	"		
6334	1221	B06B K		
6335	1288	"		
6336	1159	"		
6337	1289	"		
6338	1868	B06C G		
6339	1257	"		
6340	1259	"		
6341	1144	"		
6342	1143	"		
6343	1869	B06C H		
6344	1139	"		
6345	1137	"		
6346	1135	"		
6347	1136	"		
6348	1140	"		
6349	1294	"		
6350	1134	"		
6351	1287	"		
6352	1295	B06C I		
6353	1292	"		
6354	1291	"		
6355	1130	B06C J		
6356	1121	B06C K		
6357	1118	"		
6358	1107	B06D J		
6359	1870	B06C K		
6360	1112	"		
6361	1256	B06D G		
6362	1255	"		
6363	1254	"		
6364	1245	B06D H		
6365	1103	B06D I		
6366	1104	"		
6367	1293	"		
6368	1241	B06D J		
6369	1107	"		
6370	1108	"		
6371	1240	"		
6372	1100	"		
6373		"		
6374	1114	B06D K		
6375	1242	"		
6376	1109	"		
6377	1110	"		
6378	1296	"		
6379	1878	B06E G		6381・6382 C06?
6380	1251	"		

第IV章 調査成果

6381	1248	B06EG		629・630℃OB?
6382	1283	B06EH		
6383	1284	B06EI		
6384	1871	"		
6385	1872	B06EJ		
6386	1873	"		
6387	1874	"		
6388	1875	"		
6389	1238	B06EK		
6390	1236	"		
6391	1297	"		
6392	1237	B06EL		
6393	1256	B06DG		629・630℃OB?
6394	1086	B06FI		
6395	1083	"		
6396	1251	B06EG		
6397	1232	B06FI		
6398	1062	B06FJ		
6399	1064	"		
6400	1239	"		
6401	1228	"		
6402	1067	"		
6403	1066	"		
6404	1068	"		
6405	1229	"		
6406	1226	B06FK		
6407	1070	"		
6408	1069	"		
6409	1082	"		
6410	1080	"		
6411	1081	"		
6412	1071	"		
6413	1061	"		
6414	1060	"		
6415	1072	B06FL		
6416	1079	"		
6417	1078	"		
6418	1077	"		
6419	1076	"		
6420		"		
6421	1075	"		
6422	1074	"		
6423	1073	"		
6424	1097	B06FM		
6425	1098	"		
6426	1099	"		
6427	1280	B06GH		
6428	1876	B06GI		
6429	1233	"		
6430	1281	"		

6431	1230	B06GJ		
6432	1045	"		
6433	1047	B06GK		
6434	1048	B06GL		
6435	1049	"		
6436	1050	"		
6437	1213	"		
6438	1059	B06GM		
6439	1056	"		
6440	1055	"		
6441	1214	"		
6442	1054	"		
6443	1277	B06HH		
6444	1268	B06HI		629-OB: 非ノ型鉄石
6445	1037	B06HJ		
6446	1877	"		
6447	1223	"		629-OB: 非ノ型鉄石
6448	1024	"		"
6449	1032	"		"
6450	1023	"		
6451	1031	"		
6452	1030	B06HK		
6453	1027	"		
6454	1043	"		642-643-645℃量用?
6455	1217	"		
6456	1216	"		
6457	1025	"		
6458	1218	"		
6459	1017	"		
6460	1018	"		
6461	1016	"		
6462	1015	"		642-643-645℃量用?
6463	1008	"		
6464	1014	B06HL		642-643-645℃量用?
6465	1013	"		642-643-645℃量用?
6466	1308	"		
6467	1009	"		
6468	1010	B06HM		
6469	1011	"		
6470	1275	B06II		629-OB: 非ノ型鉄石
6471	1273	"		
6472	1267	"		629-OB: 非ノ型鉄石
6473	1272	"		
6474	1225	B06IJ		629-OB: 非ノ型鉄石
6475	1005	"		"
6476	1006	B06IK		"
6477	1007	"		"
6478	1215	B06HK		
6479	1715	B06LJ		
6480	1714	"		

6481	1713	B06L J		
6482	1712	*		
6483	1711	*		
6484	1286	*		
6485	1709	B06M J		
6486	1708	*		
6487	1710	B06MK		
6488	1707	*		
6489	1706	*		
6490	1705	B06N K		
6491	1696	B06P K		
6492	1698	B06O L		
6493	1694	B06P L		
6494	1693	*		
6495	1692	*		
6496	1691	*		
6497	1274	B06QM		
6498	1687	B06Q L		
6499	1688	*		
6500	1690	B06P L		
6501	1689	B06Q L		
6502	1686	*		
6503	1684	*		
6504	1685	*		
6505	1681	*		
6506	1680	*		
6507	1682	*		
6508	1676	B06R L		
6509	1675	*		
6510	1673	*		
6511	1666	B06RM		
6512	1671	B06R L		
6513	1670	B06S L		
6514	1667	B06R L	須磨器 9.2g	
6515	1665	B06RM		
6516	1664	B06S M		
6517	1662	*		
6518	1661	*		
6519	1659	*	第66回1-4, 第36表	
6520	1604	B06S R		
6521	1789	B06T P		
6522	1581	*		
6523	1771	*		
6524	1582	*		
6525	1584	*		
6526	1583	*		
6527	1588	B06T Q		
6528	1599	*		
6529	1595	*		
6530	1583	*		

6531	1600	B06T Q		
6532	1594	*		
6533	1590	*		
6534	1591	*	須磨器 8.1g	
6535	1601	*		
6536	1598	B06T R		
6537	1597	*		
6538	1596	*	第66回1, 第2-2, 第24表	
6539	1917	B06U O		002-00柱次
6540	1916	*		002-00柱次
6541	1935	*		003-00柱次
6542	1934	B06T O		003-00柱次
6543	1933	*		*
6544	1931	B06U O		*
6545	1930	*		*
6546	1929	*		*
6547	1928	*		*
6548	1927	*		*
6549	1926	*		*
6550	1925	*		*
6551	1924	*		*
6552	1923	*		*
6553	1922	*		*
6554	1921	*		*
6555	1920	*		*
6556	1919	*		*
6557	1918	*		*
6558	1932	B06U P		
6559	1781	B06U O		
6560	1843	B06U P		
6561	1568	*	須磨器・土須磨器6.1g	
6562	1566	*		
6563	1567	*		
6564	1569	*		
6565	1562	*		
6566	1565	*	須磨器・土須磨器6.3g	
6567	1570	*		
6568	1942	B06U Q		
6569	1571	*		
6570	1574	*		
6571	1845	B06U R		
6572	1579	*		
6573	1885	B06U O		
6574	1886	*		
6575	1887	*		002-00柱次
6576	1888	B06U P		*
6577	1889	*		*
6578	1890	*		*
6579	1891	*		*
6580	1892	*		*

## 第IV章 調査成果

6581	1863	B06U P		0002-OD型柱状
6582	1894	#		#
6583	1885	B06V O		#
6584	1896	#		
6585	1897	#		0002-OD型柱状
6586	1898	#		
6587	1899	#		0002-OD型柱状
6588	1900	#		#
6589	1901	#		#
6590	1902	#		#
6591	1903	#		#
6592	1904	#		#
6593	1905	#		#
6594	1848	#		#
6595	1906	#		#
6596	1908	B06U N		#
6597	1909	#		#
6598	1915	B06U O		0002-OD柱状
6599	1914	#		0002-OD柱状
6600	1912	B06V O		#
6601	1910	B06U O		#
6602	1961	B06U N		
6603	1911	B06U O		
6604	1822	#		
6605	1883	#		
6606	1913	B06V O		
6607	1900	#		
6608	1559	B06U N		
6609	1505	B06V N		
6610	1541	#		
6611	1539	#		
6612	1540	#		
6613		#		
6614	1531	B06W S		
6615	1536	B06V N	須恵器・土師器, 2.5g	
6616	1499	#		
6617	1889	#		
6618	1846	B06U N		
6619	1717	B06V O	須恵器・土師器, 22.0g	
6620	1807	B11A T		
6621	1727	B06V O		
6622	1728	#		
6623	1730	#		
6624	1840	#		
6625	1543	#		
6626	1544	#		
6627	1731	#		
6628	1729	#		
6629	1718	#	須恵器 11.3g	
6630	1725	#		

6631	1726	B06V O		
6632	1719	#		
6633	1720	#	須恵器・土師器, 1.5g, 2.5g	
6634	1721	#		
6635	1739	#		
6636		#		
6637	1746	B06V P		
6638	1722	B06V O		
6639	1723	B06V P		
6640	1724	#		
6641	1548	#	須恵器・土師器, 1.5g, 2.5g	
6642	1549	#		
6643	1563	#	須恵器 15.7g	
6644	1547	#		
6645	1550	B06V Q		
6646	1550	#		
6647	1552	#		
6648	1554	#		
6649	1607	B06V R		
6650	1557	#		
6651	1558	#		
6652	1841	#		
6653	1614	B06W N		
6654	1263	B06B F		
6655	1762	B06W N		
6656	1761	#		
6657	1760	B06W D		
6658	1759	#		
6659	1758	#		
6660	1757	#		
6661	1733	#		
6662	1503	#		
6663	1736	#		
6664	1767	#		
6665	1747	#		
6666	1734	#		
6667	1735	#		
6668	1741	#		
6669		#		
6670	1754	#		
6671	1753	#		
6672	1755	#		
6673	1751	#		
6674	1752	#		
6675	1851	#		
6676	1750	#		
6677	1850	#		
6678	1849	#		
6679	1501	#		
6680	1611	#		

6681	1742	B06W O		
6682	1743	B06W P		
6683	1745	"		
6684	1855	"		
6685	1854	"		
6686	1853	"		
6687	1856	"		
6688	1863	"		
6689	1857	"		
6690	1860	"		
6691	1861	"		
6692	1862	"		
6693	1507	"		
6694	1508	B06V P		
6695	1509	B06W P		
6696	1510	"		
6697	1519	B06W Q		
6698	1518	"		
6699	1516	"		
6700	1517	"		
6701	1520	B06W R		
6702	1525	"		
6703	1526	"		
6704	1832	"		
6705	1524	"		
6706	1521	"		
6707	1522	"		
6708	1523	"		
6709	1527	B06W S		
6710	1531	"		
6711	1532	"		
6712	1533	"		
6713	1502	"		
6714	1528	"		
6715	1530	"		
6716	1529	"		
6717	1940	B06W O		
6718	1828	B06X O		
6719	1727	B06V O		
6720	1436	B06X O		
6721	1435	"		
6722	1441	"		
6723	1442	"		
6724	1443	"		
6725	1445	"		
6726	1439	"	測定器-1個 36.5g	
6727	1438	"		
6728	1447	B06X P		
6729	1452	"		
6730	1451	"		

6731	1448	B06X P		
6732	1456	B06X Q		
6733	1450	"		
6734	1462	"		
6735	1459	"	土壌器 10.9g	
6736	1463	"		
6737	1458	"		
6738	1616	"		
6739	1466	"		
6740	1468	B06X R		
6741	1472	"		
6742	1470	"		
6743	1469	"		
6744	1914	"		
6745	1473	"		
6746	1429	"		
6747	1477	"		
6748	1477	"		
6749	1475	"		
6750	1478	"	測定器-1個 33.1g	
6751	1792	B06X S		
6752	1484	"		
6753	1487	"		
6754	1480	"	土壌器 36.5g	
6755	1834	"		
6756	1481	"		
6757	1790	B06U O		
6758	1945	B06X S		
6759	1625	"		
6760	1485	"		
6761	1486	B06X T		
6762	1825	B06Y O		
6763	1394	"		
6764	1396	"		
6765	1395	"		
6766	1788	"		
6767	1390	B06N W		
6768	1391	B06Y O		
6769	1819	B06Y P		
6770	1399	"		
6771	1755	"		
6772	1401	"		
6773	1403	"		
6774	1402	"		
6775	1404	"		
6776	1449	B06X P		
6777	1619	B06Y Q		
6778	1618	"		
6779	1402	B06Y P		
6780	1408	B06Y Q		

## 第IV章 調査成果

6781	1812	B06Y R	
6782	1813	"	
6783	1821	"	
6784	1426	"	
6785	1823	B06X R	
6786	1414	B06Y R	須鹿器-土燗器H.3g
6787	1415	"	
6788	1622	"	
6789	1864	"	
6790	1418	"	
6791	1416	"	
6792	1821	B06Y S	
6793	1947	"	
6794	1420	"	
6795	1419	"	
6796	1423	"	
6797	1387	B11A S	
6798	1631	B06Y S	
6799	1626	B06X S	須鹿器 13.3g
6800	1432	B06Y S	土燗器 9.4g
6801	1835	B06Y T	
6802	1836	"	
6803	1446	"	
6804	1355	B11A O	
6805	1354	B11A P	
6806	1353	"	須鹿器-土燗器7.3g
6807	1811	B11A Q	
6808	1360	"	
6809	1362	B11A R	
6810	1363	"	
6811	1367	"	
6812	1369	"	土燗器 10.8g
6813	1370	"	
6814	1373	"	須鹿器-土燗器4.5g
6815	1371	"	
6816	1372	"	
6817		B11A S	
6818	1377	"	
6819	1374	"	須鹿器 3.6g
6820	1814	B11A R	
6821	1815	"	
6822	1816	B11A S	
6823	1375	"	
6824	1818	"	
6825	1817	"	
6826	1379	"	須鹿器 7.8g
6827	1387	"	
6828	1388	B06Y S	
6829	1389	"	
6830	1383	B11A S	土燗器 2.5g

6831	1382	B11A S	
6832	1380	"	
6833	1384	"	
6834	1381	"	
6835	1385	"	
6836	1386	"	
6837	1632	B11A T	
6838	1633	"	
6839	1634	"	
6840	1953	"	
6841	1332	B11B P	1015-OB
6842	1950	"	
6843	1797	"	
6844	1323	B11C P	
6845	1329	B11B Q	
6846	1334	"	
6847	1655	"	
6848	1654	"	
6849	1948	"	
6850		B11B R	
6851	1341	"	
6852	1342	"	
6853	1344	"	
6854	1798	"	
6855	1799	"	
6856	1640	B11B S	
6857	1345	B11A S	
6858	1638	B11B T	
6859	1637	"	
6860	1318	"	須鹿器 8.0g
6861	1323	B11C P	
6862	1324	"	
6863	1328	B11C Q	
6864	1326	"	
6865	1308	B06HL	
6866	1314	B11C Q	
6867	1653	B11C R	
6868	1649	"	1016-OB
6869	1647	"	
6870	1951	"	
6871	1645	"	1016-OB
6872	1642	B11C S	
6873	1316	"	
6874	1639	B11C T	
6875	1801	B11D Q	
6876	1313	B11D R	
6877	1805	"	
6878	1806	"	
6879	1315	B11C R	
6880	397	B11D U	

8881	476	B11DU		
8882	411	B11EQ		
8883	412	B11ER		
8884	465	"		
8885	464	"		
8886	466	"		
8887	413	"		
8888	414	"		
8889	470	B11ES		
8890	295	"	須磨器・土師器 7.4g	
8891	471	"		
8892	219	"	土師器 35.6g	
8893	296	"	須磨器 11.3g	
8894	472	"		
8895	474	"		
8896	473	"		
8897	346	"		
8898	348	B11ET		
8899	347	"		
8900	212	"	須磨器 10.7g	
8901	338	"		
8902	180	"	須磨器 13.7g	
8903	339	"		1020-b-OB
8904	184	"		1018-OB
8905	185	"		"
8906	340	"		
8907	341	"		
8908	179	"	土師器 21.0g	
8909	475	"		
8910	177	B11EU		
8911	477	"		1020-b-OB
8912	479	"		"
8913	481	"		"
8914	178	"	須磨器・土師器 17.8g	
8915	209	"	土師器 53.0g	
8916	438	B11EV		
8917	484	"		
8918	208	B11EU	土師器 1.9g	
8919	409	B11FQ		
8920	410	"		
8921	426	"		
8922	416	"		
8923	453	"		
8924	454	"		
8925	293	"		
8926	292	"	須磨器・土師器 15.8g	
8927	455	B11FR		
8928	458	B11ER		
8929	456	B11FR		
8930	457	"		

8931	307	B11FR	須磨器・土師器 7.4g	
8932	308	"	土師器 6.3g	
8933	311	"	" 7.6g	
8934	461	"		
8935	305	"	土師器 13.2g	
8936	487	B11FS		
8937	503	B11GS		
8938	489	B11FS		
8939	446	"		
8940	490	B11FT		
8941	345	"		
8942	213	"	土師器 5.6g, 須磨器	
8943	216	"	須磨器・土師器 10.4g	
8944	342	"		
8945	215	"	第16表	1020-b-OB
8946	343	"		
8947	291	"	須磨器 27.7g	
8948	491	"		
8949	492	"		
8950	298	"	須磨器・土師器 25.2g	
8951	217	"	" " 66.2g, 第72表	
8952	511	"		
8953	344	"		
8954	372	B11FU	須磨器 14.1g, 須磨器・土師器 17.5g, 第72表	
8955	394	B11FT		
8956	201	B11FU	須磨器 10.3g, 須磨器・土師器 12.4g, 第72表	
8957	204	"	第16表	1020-b-OB
8958	493	"		
8959	519	"		
8960	495	"		
8961	494	"		
8962	496	"		1020-b-OB
8963	497	"		
8964	500	B11FV		1020-b-OB
8965	199	"	須磨器・土師器 18.7g	
8966	198	"	第72表	
8967	499	"		
8968	493	B11FU		
8969	444	B11GQ		
8970	467	"		
8971	468	B11GR		1027-OB
8972	469	"		
8973	/	"		
8974	/	"		
8975	/	"		
8976	/	"		
8977	303	"	須磨器・土師器 8.2g	
8978	304	"		1027-OB
8979	501	"		
8980	504	B11GS		



第IV章 調査成果

6981	505	B11G S		
6982	506	#		
6983	507	#		
6984	508	#		
6985	509	#		
6986	510	#		
6987	412	#		
6988	502	#		
6989	385	#		
6990	132	#	須磨器・土師器 33.3g	
6991	512	B11G T		
6992	513	#		
6993	514	#		
6994	515	#		
6995	516	#		
6996	385	#		
6997	381	#		
6998	380	#		
6999	125	#		
7000	537	#		
7001	538	#		
7002	539	B11H T		
7003	369	B11G U	須磨器・土師器41g, 第72表	
7004	375	#	土師器3.0g, 第72表	
7005	518	#		
7006	370	#	須磨器・土師器 42.3g	
7007	299	#	第72表	
7008	526	B11H R		
7009	163	B11G U	須磨器・土師器57g, 第72表	
7010	393	#		
7011	196	#	須磨器 7.3g	
7012	521	#		
7013	195	#	土師器 30.0g	
7014	405	#		
7015	197	B11G V	土師器 2.2g	
7016	194	#	須磨器 2.2g	
7017	541	B11H V		
7018	542	#		
7019	361	B11H R		
7020	514	B11G T		
7021	526	B11H R		
7022	310	#	第23・72表	1027-OB
7023	527	#		
7024	529	#		
7025	364	#	第23・72表	1027-OB
7026	528	#		
7027	358	#		
7028	532	B11H S		
7029	384	#		
7030	523	B11G V		

7031	535	B11H T		
7032	534	#		
7033	540	#		
7034	536	#		
7035	137	#	土師器 15.6g	
7036	138	#	須磨器・土師器33.3g	
7037	550	#		
7038	139	#	須磨器・土師器4.2g	
7039	392	B11H U		
7040	192	B11H V	須磨器 3.0g	
7041	404	#		
7042	557	#		
7043	336	#		
7044	193	#	土師器 1.4g	
7045	153	#		
7046	542	#		
7047	149	#		
7048	544	B11H W		
7049	545	B11 I S		
7050	150	B11H W		
7051	445	B11 I R		1027-OB
7052	230	#		
7053	221	B11 I S		
7054	356	#		
7055	354	#		
7056	546	#		
7057	136	B11H S	土師器 3.4g	
7058	421	B11 I S	須磨器・土師器16.6g	
7059	422	#		
7060	423	#	須磨器・土師器41g, 第72表	
7061	547	#		
7062	420	B11 I T	須磨器・土師器・土製品73.3g, 第72表	
7063	553	#		
7064	554	B11 I U		
7065	424	B11 J U	土師器 1.3g	
7066	555	B11 I U		
7067	556	B11 I V		
7068	334	#		
7069	335	#		
7070	190	#	土師器 4.3g	
7071	330	#		
7072	331	B11 I W		
7073	332	#		
7074	558	#		
7075	559	#		
7076	560	B11 J R		
7077	561	B11 J S		
7078	352	#		
7079	353	#		
7080	351	#		

7081	350	B11J S	
7082	387	B11J T	
7083	563	"	
7084	389	"	
7085	390	"	
7086	564	"	
7087	565	"	
7088	566	"	
7089	568	"	
7090	378	"	須磨器・土師器 55.5g
7091	379	"	土師器 2.4g, 第72区
7092	567	"	
7093	570	"	
7094	569	"	
7095	571	"	
7096	573	B11J U	
7097	572	B11J T	
7098	574	B11J U	
7099	576	"	
7100	575	"	
7101	577	"	
7102	578	"	
7103	579	"	
7104	581	B11K U	
7105	580	B11J U	
7106	584	"	
7107	582	"	
7108	583	"	
7109	588	"	
7110	590	"	
7111	587	"	
7112	585	"	
7113	588	"	
7114	586	"	
7115	366	"	須磨器・土師器 7g, 第72区
7116	591	"	
7117	594	B11J W	
7118	399	B11K S	
7119	390	B11K T	
7120		"	
7121	593	"	
7122		B11J W	
7123	336	B11K W	
7124	327	B11L V	
7125	328	"	
7126	324	B11L W	
7127	325	"	
7128	323	"	
7129	320	B11P W	須磨器 30.8g
7130		B12Q A	

7131		B12Q A	
7132		B12R A	
7133	78	"	
7134	317	"	
7135	318	"	
7136	316	B12S A	
7137	315	B12S B	
7138	72	B12V C	
7139	309	B11W Y	須磨器 須磨器 7.2g
7140	605	"	
7141	606	B12Y A	
7142	607	B12Y B	
7143	608	"	
7144	610	B16A Y	
7145	611	"	
7146	612	B17B A	
7147	614	B17B B	
7148	615	"	
7149	618	B17B C	
7150	616	B17C B	
7151	617	B17B C	
7152	620	B17C C	
7153	621	"	
7154	626	B17D B	
7155	623	B17D C	
7156	622	B17D D	
7157		"	
7158	101	B17E B	
7159	59	"	須磨器 須磨器 12.5g
7160	282	"	
7161	283	"	
7162	58	"	須磨器 30.0g
7163	278	B17F B	
7164	631	"	
7165	277	"	
7166	232	"	
7167	281	B17F C	
7168	45	B17G B	須磨器・瓦器 12.2g
7169	41	"	瓦器 5.7g
7170	231	"	
7171	42	"	
7172	257	"	
7173	91	"	土師器 2.4g
7174	258	"	
7175	90	"	須磨器・瓦器 28.8g
7176	43	B17G C	須磨器・土師器 49.5g
7177	632	"	
7178	53	"	土師質 8.5g
7179	52	"	土師質・瓦器 12.5g
7180	233	"	

第IV章 調査成果

7181	238	B17G C		
7182	235	※		
7183	234	※		
7184	276	※		
7185	273	※		
7186	272	※		
7187	271	※		
7188	275	※		
7189	634	B17G D		
7190	633	※		
7191	635	※		
7192	636	※		
7193	637	※		
7194	638	※		
7195	639	※		
7196	640	※		
7197	641	※		
7198	642	B17G E		
7199	643	※		
7200	644	※		
7201	48	B17H A	瓦器 20.3g	
7202	682	※		
7203	264	※		
7204	265	※		
7205	683	※		
7206	46	B17H D	土器蓋・瓦器11.6g	
7207	47	※	瓦器 11.9g	
7208	253	※		
7209	252	※		
7210	254	※		
7211	255	※		
7212	256	※		
7213	49	※	土器蓋・土器蓋4.4g	
7214	29	B17H A	土器蓋・瓦器15.3g	
7215	694	B17H B		
7216	28	※		
7217	248	※		
7218	34	※		
7219	250	※		
7220	230	※		
7221	247	※		
7222	30	※		
7223	38	※		
7224	89	※	須恵器・土器蓋4.2g	
7225	236	※		
7226	237	※		
7227	239	※		
7228	50	※	須恵器・土器蓋 13.6g	
7229	260	※		
7230	690	※		

7231	251	B17H B		
7232	35	※		
7233	37	B17H C		
7234	240	※		
7235	241	※		
7236	242	※		
7237	243	※		
7238	244	※		
7239	51	※	第167 図16	
7240	245	※		
7241	259	※		
7242	36	※	土器蓋 8.4g	
7243	246	※		
7244	261	※		
7245	271	※		
7246	270	※		
7247	269	※		
7248	686	※		
7249	268	※		
7250	645	B17G D	須恵器 132.0g	
7251	646	B17H D		
7252	649	※		
7253	650	※		
7254	651	※		
7255	652	※		
7256	653	※		
7257	654	※		
7258	655	※		
7259	656	※		
7260	657	※		
7261	659	B17H E		
7262	660	※		
7263	658	※		
7264	55	※	須恵器 8.3g	サヌカイトフレイク1点
7265	661	※	土器蓋 56.5g	
7266	662	※		
7267	663	※		
7268	664	※		
7269	673	B17H G		
7270	437	B17T A		
7271	432	※	土器蓋・土器蓋 13.3g	
7272	438	※		
7273	436	※		
7274	431	※	土器蓋・土器蓋 196.4g	
7275	228	B17I B		
7276				
7277	677	※		
7278	676	B17I C		
7279	685	※		
7280	266	※	須恵器・土器蓋 31.5g	

7281	670	B17I D		
7282	56	B17I E	土師器 5.0g	
7283	668	*		
7284	57	*	土師器 25.6g	
7285	667	*		
7286	668	*		
7287	92	B17I F	須恵器 5.6g	
7288	96	B17I G	須恵器・土師器 21.1g	
7289	93	*	土師器 66.7g	
7290	/	*		
7291	95	*		
7292	674	B17I H		
7293	675	*		
7294	435	B17J A		
7295	433	*		
7296	430	*		
7297	429	*		
7298	434	*		
7299	448	B17J B		
7300	678	*		
7301	225	*		
7302	679	B17J C		
7303	443	*		
7304	267	*		
7305	226	B17J D	第167 頁17	
7306	1113	B06D K		
7307	1585	B06T P		
7308	1795	B11B Q		
7309	648	B17H E		
7310	31	B17I B		
7311	40	B17H B		
7312	671	B17I D		
7313	365	B17H R		
7314	/	*	第72表	
7315	2039	B06V M		
7316	2038	B06W M		
7317	2036	B06X N		
7318	2035	*		
7319	2034	*		
7320	2033	*		
7321	2032	*		
7322	2031	B06Y N		
7323	2030	*		
7324	2029	*		
7325	2028	B11A O		
7326	2027	*		
7327	2026	*		
7328	2025	*		
7329	2024	B11D P		
7330	2023	*		

7331	2022	B11D P		
7332	2053	B06T R	須恵器・土師器 10.3g	
7333		*		
7334		B06U S		
7335		*		
7336		B06W S		
7337		*		
7338		B06X T		
7339		B06Y T		
7340		*		
7341		B11A U		
7342		B11B U		
7343		*		7344・7345CB?
7344		*		7343・7345CB?
7345		B11C U		7343・7344CB?
7346	2021	B11F Q		
7347	2022	*		
7348	2020	*		
7349	2019	B11G Q		1022-CB
7350	2017	*		1027-CB
7351	2016	B11H Q		
7352	2015	*		
7353	2014	*		
7354	2013	B11I R		柱根、櫛付
7355	2012	*		
7356	2010	*		
7357	2011	*		1027-CB
7358	/	*		
7359	2009	B11J R		
7360	2008	*		
7361	2007	B11K R		
7362	2005	B11M S		
7363	2003	B11M T		
7364		B11D V		
7365	2041	B11D U	須恵器 4.8g	
7366		B11E V		
7367		*		
7368		*		
7369		*		
7370		*		1021-CB
7371		*		
7372	2042	*	須恵器 8.9g	
7373		*		1021-CB
7374		*		
7375		B11F V		
7376	2043	*	土師器 7.6g	
7377		*		1021-CB
7378	2044	*	須恵器・土師器 21.3g	
7379		*		1021-CB
7380	2045	*	土師器 82.0g	

第IV章 調査成果

7381		B11FV		
7382	2048	B11GV	第20表	1024-OB
7383		B11EV		
7384		*		
7385		B11FV		
7386		*		
7387		B11GW		
7388		*		
7389		*		
7390		*		
7391		*		
7392		*		
7393		*		
7394	2046	B11GV	調査票・土壌調査票	1024-OB
7395		B11GW		
7396		B11HW		
7397		*	第20表	1024-OB
7398		*		
7399		*		
7400		*		
7401		*		
7402		*		
7403		*		
7404		B11CE		
7405		B11IW		
7406		*		
7407		B11HW		
7408		*		
7409		*		
7410		*		
7411	2047	*	第20表	1024-OB
7412		*		
7413		*		
7414		*		
7415		*		
7416		B11IW		

7417		B11IW		
7418		*		
7419		*		
7420		*		
7421		B11JX		
7422		*		
7423		*		
7424		*		
7425		*		
7426		B11KX		
7427		B12PA		
7428		*		
7429	2049	*	調査票・土壌調査票	106.4g
7430		B12RB		
7431		*		
7432		B12SB		
7433		B12UC		
7434		*		
7435		*		1030-OB
7436		*		
7437		*		
7438		*		
7439		*		
7440		B12VC		1030-OB
7441		B12XD		
7442		*		
7443		B17AD		
7444		B17EF		
7445		B17AD		
7446		*		
7447		*		
7448		B17AE		
7449		*		

## 第8節 遺構外出土遺物

## 概要

ここで、遺構外出土遺物として扱うものには、包含層出土のものと同地区・層位等が不明なものがある。第III章で述べたように、A地区は上下両包含層の人力掘削を行ったが、B地区については機械掘削によって包含層の大半を除去してしまった。したがって、本節で扱う遺物の多くはA地区の上層包含層およびA・B両地区の下層包含層出土遺物であり、B地区の遺物は極端に少ない。

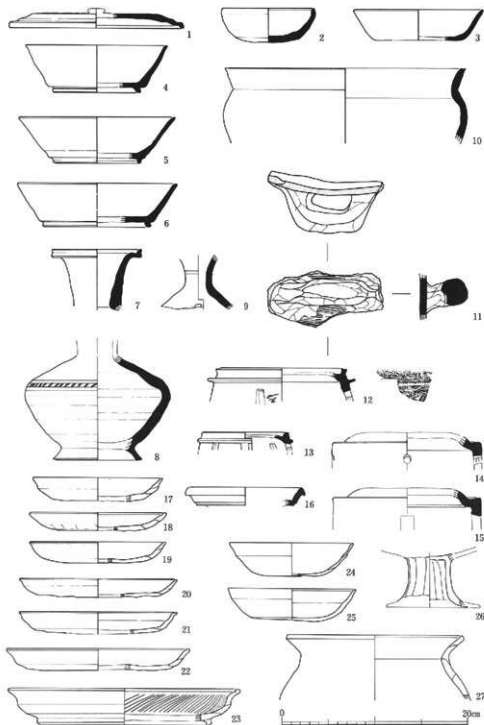
包含層出土遺物には、第168～172図、第69～71表に掲げたように多種多様なものがある。これらの遺物以外に製塩土器の破片が大量に出土しているが（第72表）、第9節で詳述するため、それについてはここでは触れないこととする。

包含層出土遺物（第168～172図、第69～71・136・137表、図版104～109・111）

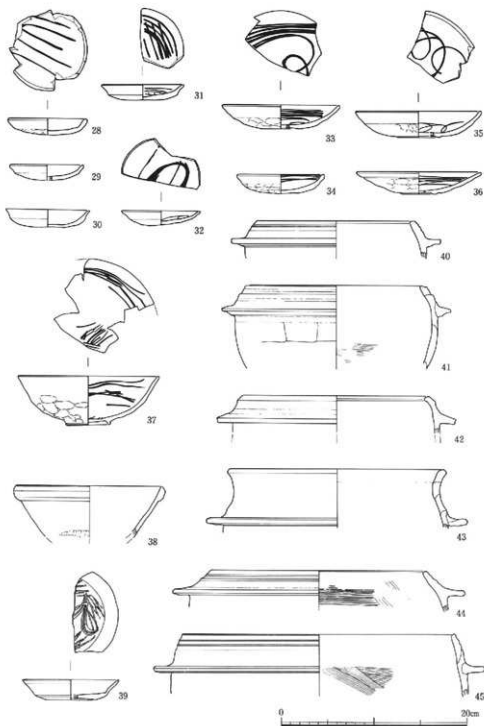
土器 後述する輸入陶磁器を除けば、出土した土器の種類は須恵器・土師器・黒色土器・瓦器・瓦質土器・須恵質土器・土師質土器の7種である。それぞれの出土数量は、第69～71表に掲げたとおりで、上層出土土器は17826点・約181.6kg、下層出土土器は3722点・約49.6kg、総計21548点・231.2kgであった。これに、第168～172図に掲げた遺物を加算したものが、包含層出土の全遺物数となる。

上層包含層出土遺物（第168・169図）7は、内面に自然釉が付着していたため長頸壺として報告するが、天地逆の可能性もある。9は小型のものである。11は大型の鉢の把手と思われるが、別の器種の可能性もある。12～15は片面硯。12には線刻が施されている（図版119）。一見、人面のようにも見受けられるが定かではない。14の脚部が円形透かしの他は、長方形透かしである。16は小破片のため器種を明らかにできないが、きわめて特殊な器種と思われるため掲載した。28～36は瓦器皿である。33・35・36は瓦器壺とすることもできるが、口径に対し器高が極端に低いため皿として報告する。36には未発達の高台が存在する。40～45は羽釜である。43が土師質土器である以外は、瓦質土器である。瓦質土器羽釜は14世紀後半～15世紀前半の所産と考えられる。

下層包含層出土遺物（第170・171図）1・4・14は1005—OBの東、4～8m離れた地点より出土している。この付近は、下層包含層の堆積が薄く、遺構検出面直上出土とみても大過ない。1005—OB周辺の遺物包含層出土遺物の時期は、これらとほぼ同時期であり、

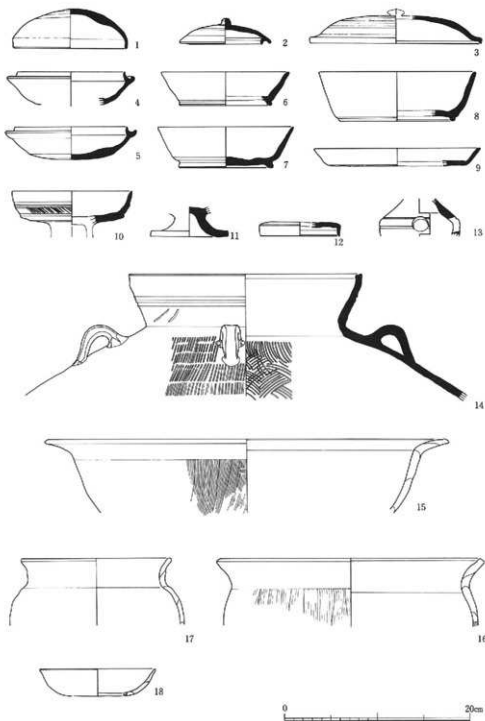


第168圖 上層包含層出土遺物実測図1 (S=1/4)

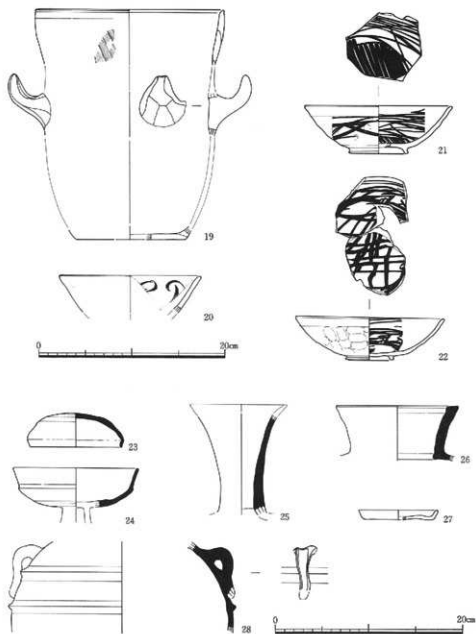


第169圖 上層包含層出土遺物実測圖2 (S=1/4)



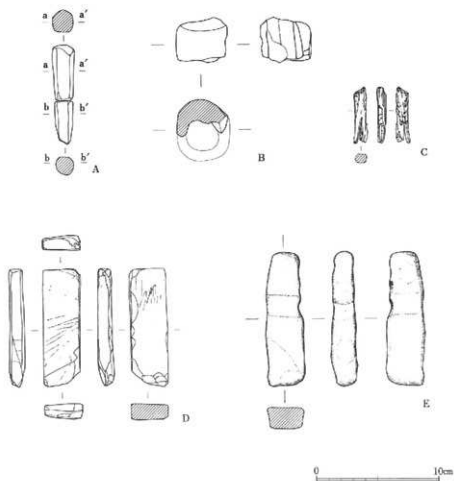


第170図 下層包含層出土遺物実測図1 (S=1/4)



第171図 下層包含層出土遺物実測図2・遺構外出土遺物実測図1 (S=1/4)

包含層出土遺物が1005-O Bの時期の上限を決定する根拠の一つとなっている。19は同一個体と思われる破片が多数存在するが、破断面の遺存状態が悪いため、接合作業を放棄して図上復元した。甕の可能性もあるが、底部破片が平底であるため甕と判断した。



第172図 遺構外出土遺物実測図2 (S=1/3)

遺構外出土遺物は数量計算から除外したが、実測可能個体のみを掲載した(第171図下段)。28はA地区の擁壁調査時に出土した。下層包含層か遺構検出面直上出土と思われるが、出土地区を特定できない。相生窯址群から主体的に出土する双耳壺に類似することから、搬入品の可能性が高い。12世紀代の所産と考えられる。

**緑釉陶器** 3033-O S出土遺物以外に、B17HGの下層包含層より緑釉の鉢形土器破片1点・15gが出土している。また、B17FBの上層包含層中より緑釉の壺の可能性のある破片1点・4gが出土しているが、こちらは可能性の域に留めておきたい。

**陶磁器** 遺物包含層出土の陶磁器には、国産陶磁器と輸入陶磁器の2種がある。国産陶磁器は伊万里染付、褐釉、京焼き系、瀬戸・美濃系等で、上層包含層で27点・264g、下層

包含層で14点・136g、遺構外で14点・155g、総計55点・555gが出土している。

輸入陶磁器は、第169・171図に図示したものと第70表に掲載したものとがある。上層包含層より出土した第169図38はいわゆる玉縁口縁を呈する白磁碗である。39は阿安窯系青磁皿で、内面にヘラによる片彫りと櫛によるジグザグ文様を有する。下層包含層より出土した第171図20は龍泉窯系青磁碗で、内面にヘラによる片彫りと櫛による花文様を有する。瓦 図示したものはないが、第71表に掲げたように総数232点・約14.8kgにのぼる瓦の破片が出土している。このうち、古代としたものは凸面にハナレ砂が付着しており、概ね平安時代の所産と考えられる。

その他 第172図A～Eはすべて上層包含層出土遺物である。Aは残存長8.1cm、最大径1.8cmの棒状土製品である。B11RWとB11MTから出土し、接合した。断面は円形を基調としながらも部分的に面を持ち、一端が尖る。図の左側縁部に煤が付着した痕跡が認め

第69表 包含層出土遺物計量表④

器種	器形	破片数						重量(g)		
		上層		下層		合計		上層	下層	合計
		総数	口縁	総数	口縁	総数	口縁			
須恵系土器	壺	2019	49	381	16	2400	65	31795	7744	39539
	壺蓋	8	—	1	—	9	—	89	20	109
	平瓶	14	8	5	1	19	9	441	268	709
	横瓶	7	1	5	1	12	2	394	112	506
	瓶	1	1	1	—	2	1	21	36	57
	壺	2838	86	704	31	3542	120	61817	17488	79005
	壺	2580	391	721	118	3301	509	19806	7123	26929
	壺蓋	357	217	126	87	483	304	3498	1391	4889
	皿	6	4	3	2	9	6	69	51	120
	高杯	25	—	9	—	34	—	530	346	876
土器	鉢	24	12	14	3	38	15	526	400	926
	甕	4	—	—	—	4	—	60	—	60
	不明	—	—	2	—	2	—	158	158	—
	小計	7883	772	1972	259	9855	1031	119046	35137	154183
	壺	1034	155	835	94	1869	249	10476	8230	18706
	鍋	2	—	—	—	2	—	125	—	125
	杯	662	90	289	40	961	130	2783	1322	4105
	土蓋	1	—	—	—	1	—	14	—	14
	皿	2	2	—	—	2	2	28	—	28
	横瓶	41	6	—	—	41	6	224	—	224
陶器	高杯	9	3	14	5	23	8	79	281	360
	鉢	2	2	—	—	2	2	48	—	48
	甕	—	—	2	—	2	—	570	—	570
	不明	—	—	1	—	1	—	42	—	42
	小計	1753	258	1141	139	2894	397	13777	10445	24222
	合計	9636	1030	3113	398	12749	1428	132823	45582	178405

第69表 包含層出土遺物計量表⑤

器種	器形	破片数						重量(g)		
		上層		下層		合計		上層	下層	合計
		総数	口縁	総数	口縁	総数	口縁			
黒色土器	A 杯?	31	—	15	4	46	4	164	136	200
	B 杯	1	—	—	—	1	—	2	—	2
小計	32	—	15	4	47	4	166	136	302	
瓦器	瓦	4800	1261	426	106	5286	1367	16230	1508	17738
	小計	4822	1263	426	106	5288	1369	16245	1508	17753
瓦質土器	羽釜	64	25	1	1	65	26	1648	65	1713
	鉢	3	3	—	—	3	3	69	—	69
土器	撥鉢	5	—	—	—	5	—	87	—	87
	不明	359	24	22	1	381	25	4382	238	4620
小計	431	52	23	2	454	54	6196	303	6489	
須恵系土器	壺	1	1	—	—	1	1	20	—	20
	鉢	2	2	—	—	2	2	79	—	79
小計	3	2	—	—	3	2	184	—	184	
土器	不明	205	40	17	—	222	40	6896	525	7421
	小計	211	45	17	—	228	45	7179	525	7704
土質土器	皿	17	8	—	—	17	8	81	—	81
	壺	1	1	—	—	1	1	12	—	12
陶器	羽釜	143	12	17	1	160	13	3342	499	3841
	鉢	1	—	—	—	1	—	9	—	9
土器	不明	2492	68	111	2	2603	71	15579	1025	16604
	小計	2554	90	128	3	2782	93	19023	1524	20547
小計	8190	1450	609	115	8799	1565	48799	3996	52795	

第70表 包含層等出土輸入陶磁器計量表

層位等	器形	破片數					重量(g)					摘 要		
		龍泉窯系青磁	同安窯系青磁	白磁	染付	褐釉陶器	合計	龍泉窯系青磁	同安窯系青磁	白磁	染付		褐釉陶器	合計
上層	甕	—	—	2	—	1	3	—	—	16	—	20	36	
	甕?	—	—	1	—	—	1	—	—	8	—	—	8	
	瓶	17	2	9	—	—	28	305	14	155	—	—	474	口縁5、底部9
	皿	1	—	9	—	—	10	5	—	58	—	—	63	口縁5、底部1
	皿?	1	—	—	—	—	—	1	3	—	—	—	3	
	坏	1	—	—	—	—	—	1	3	—	—	—	3	口縁1
不明	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	9	—	9	
小計		20	2	21	1	1	45	316	14	237	9	20	596	口縁11、底部10
下層	瓶	4	—	2	—	—	6	24	—	23	—	—	47	口縁4、底部1
遺構外	瓶	—	1	2	—	—	3	—	5	77	—	—	82	底部2
合計		24	3	25	1	1	54	340	19	337	9	20	725	口縁15、底部13

第71表 包含層等出土瓦計量表

時期・層位等	層位等	破片數				重量				摘 要		
		軒丸瓦	丸瓦	平瓦	不明	合計	軒丸瓦	丸瓦	平瓦		不明	合計
古代	上層	—	10	43	—	53	—	628	3165	—	3793	玉縁1、平瓦角3
	下層	—	—	1	—	1	—	—	53	—	53	
	遺構外	—	1	5	—	6	—	49	521	—	570	平瓦角1
古代?	上層	—	2	7	—	9	—	157	294	—	451	玉縁1
	下層	—	1	1	—	2	—	79	27	—	106	
	遺構外	—	—	1	—	1	—	—	118	—	118	平瓦角1
中世	上層	—	19	60	—	79	—	1187	3604	—	4791	玉縁3、平瓦角6
	下層	—	—	19	—	19	—	—	941	—	941	平瓦角1
	遺構外	—	3	11	—	14	—	103	1024	—	1127	玉縁2、平瓦角1
中世?	上層	—	2	9	—	11	—	145	245	—	390	
	下層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	遺構外	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
近世	上層	2	7	12	—	21	63	485	1106	—	1654	
	下層	—	3	—	—	3	—	347	—	—	347	玉縁1
	遺構外	—	—	3	—	3	—	—	126	—	126	
近世?	上層	—	—	1	—	1	—	—	12	—	12	
	下層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	遺構外	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
不明	上層	—	2	4	3	9	—	25	151	159	335	
	下層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	遺構外	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合計	上層	2	42	136	3	183	63	2627	8577	159	11426	玉縁5、平瓦角9
	下層	—	4	21	—	25	—	426	1021	—	1447	* 1、* 1
	遺構外	—	4	20	—	24	—	152	1789	—	1941	* 2、* 3
総計	包含層	2	46	157	3	208	63	3053	9598	159	12873	玉縁6、平瓦角10
	遺構外	—	4	20	—	24	—	152	1789	—	1941	* 2、* 3
	合計	2	50	177	3	232	63	3205	11387	159	14814	玉縁8、平瓦角13

られる。用途不明。B (B11TW) はフィゴ羽口の破片である。C (B17BC) は燃えさしである。先端のみが黒く焦げている。櫓の木片を用いている。D (B17CC) は砥石である。6面全てに使用痕が認められる。重量60.9g。Eは中央の窪みに使用痕を有する石器である。窪みの部分に紐を結んで使用した編物石の可能性はある。砂岩。重量113.2g。

#### A地区包含層出土遺物の分布状況

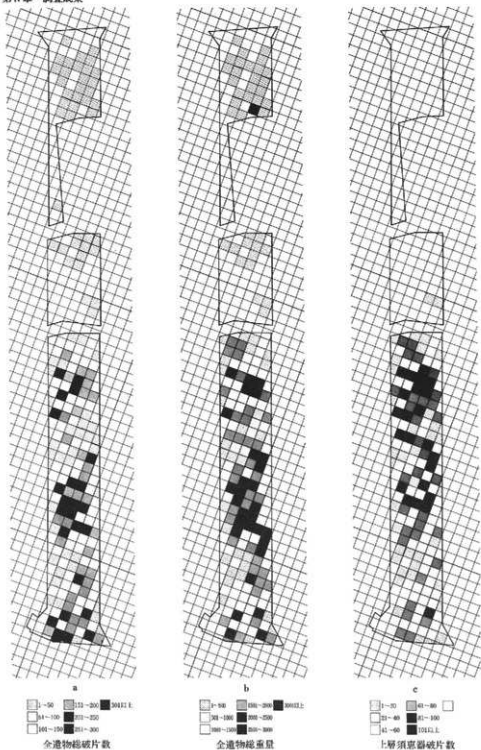
第69表に掲げたように、包含層からは多量の遺物が出土している。図化したものは僅かなため、図化されなかった遺物を活用するために出土遺物の数量による分布状況図を作成した(第173図～第181図)。第173図aは包含層出土の全遺物の破片数、bは重量の分布図である。遺物の出土数量を客観化するためには破片数のみの計測では不十分であり、重量を勘案する必要がある。この基本的な考え方の詳細については、第9節で述べているのでここでは省略するが、これに基づいて器種ごとに両者の分布図を並列して掲載した。また、前述したようにB地区のデータは不十分であるが、便宜的に掲載しておくことにした。なお、掘壁調査時に出土した遺物については、この図からは除外してある。

この包含層出土遺物分布図では、詳細な分析が可能な範囲はA地区のみであることはすでに述べた。さらに付け加えるならば、第3章第2節の基本層序で明らかのように、A地区の下層包含層の堆積は南半部がやや厚く、北半部は薄いのが皆無に等しい。したがって、A地区の上層包含層の分布状況の背景が分析の主たる対象となる。

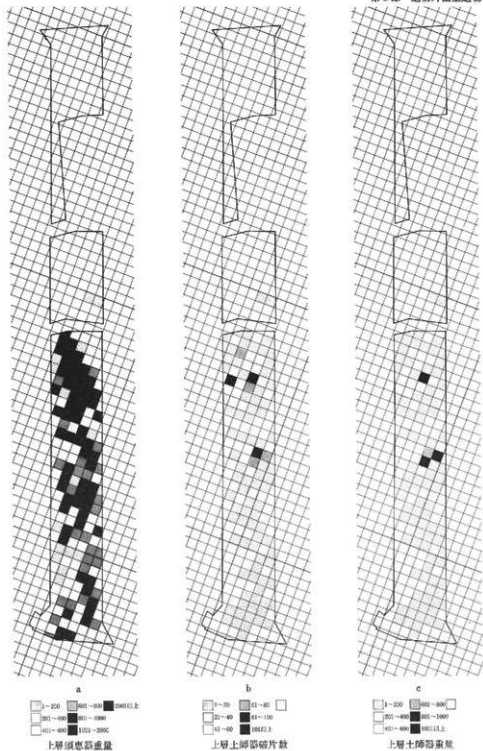
**上層包含層出土遺物の分布状況** まず、A地区の全出土遺物に注目すると出土頻度の高い3つのブロックが存在することが分かる。北と南のブロックは掘立柱建物の集中する範囲とはほぼ一致する。中央のブロックは4001-OR・4002-ORの流路とはほぼ一致する。須恵器の重量の分布を見ると、南部は東寄りに、中央部はほぼ中央に、北部は中央から西にかけてそれぞれ出土量の多いブロックが認められる。南部は3033-OSの流路、中央部は3033-OSと4001-ORが交差する付近、北部は3034-OS・5041-OXとはほぼ重なる(付図と対照)。土器器の中央東寄りのブロックは5083-OXとはほぼ一致する。瓦器は南端部にブロックを持つが、付近には1032-OB・1033-OBといった中世の掘立柱建物が存在する。

**下層包含層出土遺物の分布状況** 上層包含層では不明瞭であるが、下層包含層に注目した場合、須恵器と土器器の出土頻度は南半部では東側に偏る傾向を示し、瓦器は逆に西に偏る傾向を示している。前者は3033-OSの影響によるものと推定できる。後者については、

第IV章 調査成果



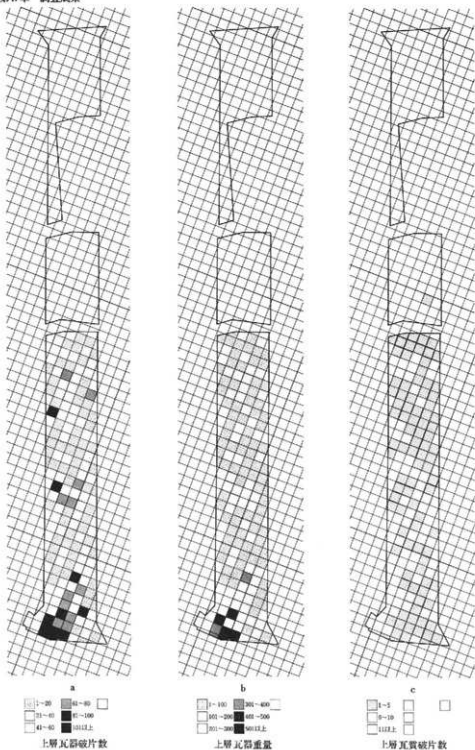
第173図 包含層出土遺物数量分布図1



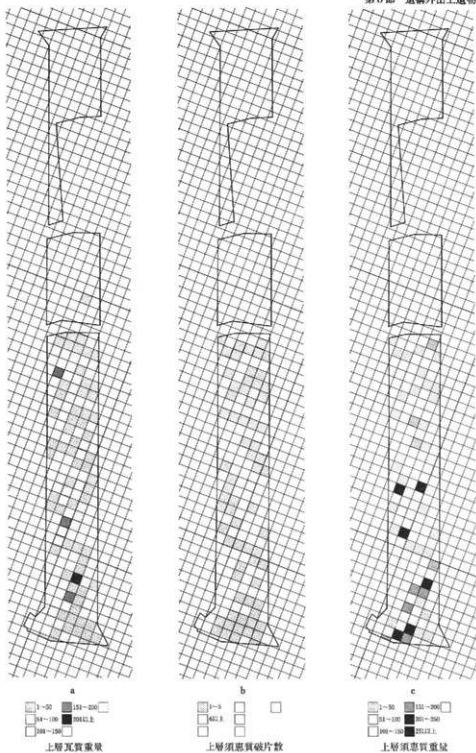
第174圖 包含層出土遺物數量分布圖2



第IV章 調査成果



第175図 包含層出土遺物數量分布圖3



第176図 包含層出土遺物数量分布図4